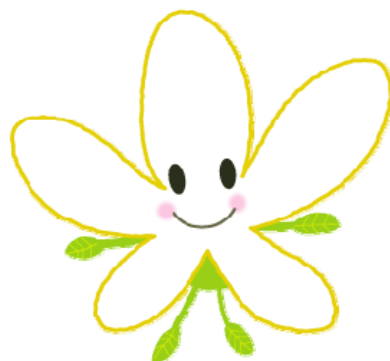


平成 21 年度 青葉区区民意識調査

調査結果 報告書

【概要版】



青葉区マスコット
「なしかちゃん」

平成 21 年 9 月
横浜市 青葉区

ま え が き

「青葉区区民意識調査」は、青葉区民の生活について行動や意識をうかがい、今後の青葉区政の運営や施策立案の基礎資料として活用することを目的に実施しています。

青葉区は、東京など市外からの転入者も多く、若い子育て世代が多い、活力あふれる区です。また、昨年4月に厚生労働省から発表された「平成17年市区町村別生命表」によれば、青葉区は、男性が全国1位、女性が7位という長寿のまちであり、老若男女が健康で生き生きと暮らすイメージが全国に発信されました。

昨今の経済環境の急激な変化は、これまでの少子高齢社会の進展に併せ、先行きの不透明感も加わり、区民生活に大きな影響を与えています。安全・安心な区民生活を送ることができるよう、社会経済情勢が不透明な中でその先を見据えつつ、区民ニーズを的確に把握し、満足度の高い区民サービスを提供していくことがますます重要になっています。

本年は、昨年度調査から設問を一部変更し、駅周辺のまちづくり、地域活動や地域社会、新型インフルエンザ等に対する行動や意識などを調査しました。

特に、今年には青葉区が誕生して15年目という節目の年でもありますので、現在検討を進めている第二期青葉区地域福祉保健計画をはじめ、中長期的な視点で、これからの青葉区に必要な施策を検討する一助にするため、地域活動、地域社会に対する意識等を把握するために今回の調査項目に加えました。

なお、現在の青葉区民の意識傾向を示すデータを得るため、いくつかの設問においては、昨年度と同様の調査を行っています(設問形式を一部変更したため、単純な経年変化が難しいものもあります)。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました多くの区民の皆さまに心より厚くお礼申し上げます。

平成21年9月

横浜市青葉区

*** 目 次 ***

1	調査概要	1
2	回答者の属性	5
3	調査結果	15
1	青葉区の生活環境について	17
2	駅周辺のまちづくりについて	24
3	環境・自然について	30
4	健康・子育てについて	33
5	地域活動・地域社会について	39
6	危機管理について	53
7	文化振興事業について	58
8	青葉区への定住意向について	61
9	区政・行政サービスについて	67

1 調査概要

調査概要

調査目的：青葉区民の日常生活における行動や意識を調査し、今後の区政運営の参考とすることを目的とする。

調査対象：青葉区に居住する16歳以上の男女

標本数：3,000人（うち、外国人60人）

抽出方法：住民基本台帳及び外国人登録原票からの無作為抽出

調査方法：郵送によるアンケート方式

調査期間：平成21年6月10日～6月24日

有効回収数：1,818件（60.6%）

報告書を見る際の注意点

- (1) 調査結果の比率はすべて百分率で表し、その設問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入している。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答が可能な設問の場合、回答比率の合計は100%を超える。
- (3) 図表中の「N=〇〇」とは、その設問に対する回答者数を表す。
- (4) クロス集計表の分析軸は、「無回答」を表記していないため、合計が全体の基数と一致しない場合がある。

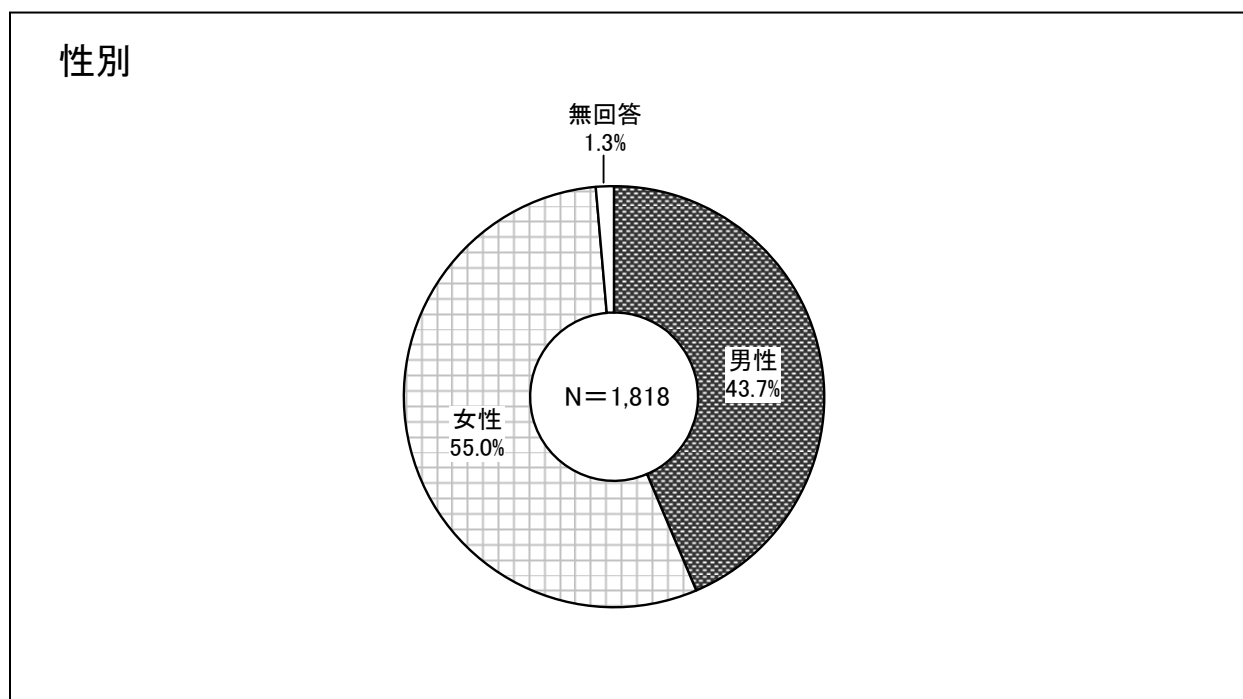
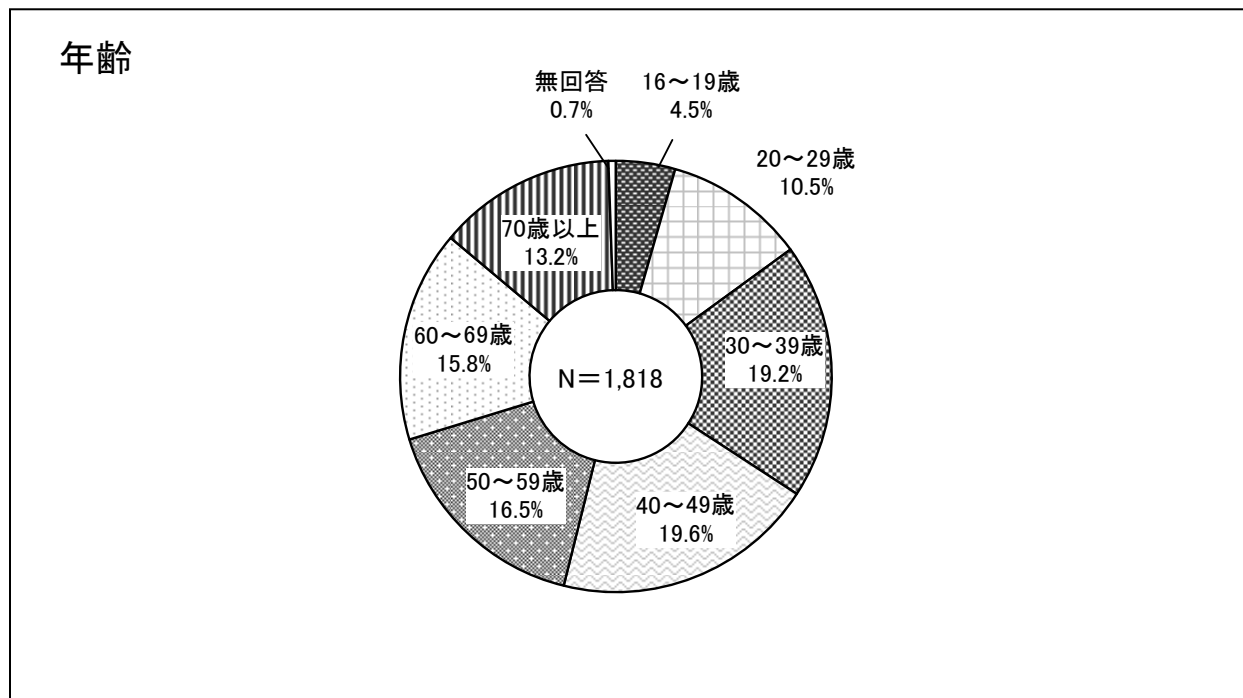
【参考】

青葉区 区民意識調査

	対象	対象数	回収数	回収率	調査方法	調査時期
20年度	16歳以上	3,000	1,746	58.2%	郵送	6～7月
19年度	16歳以上	3,000	1,588	52.9%	郵送	9月
16年度	20歳以上	3,000	1,727	57.6%	郵送	9月
12年度	15歳以上	4,000	1,980	49.7%	郵送	5～6月

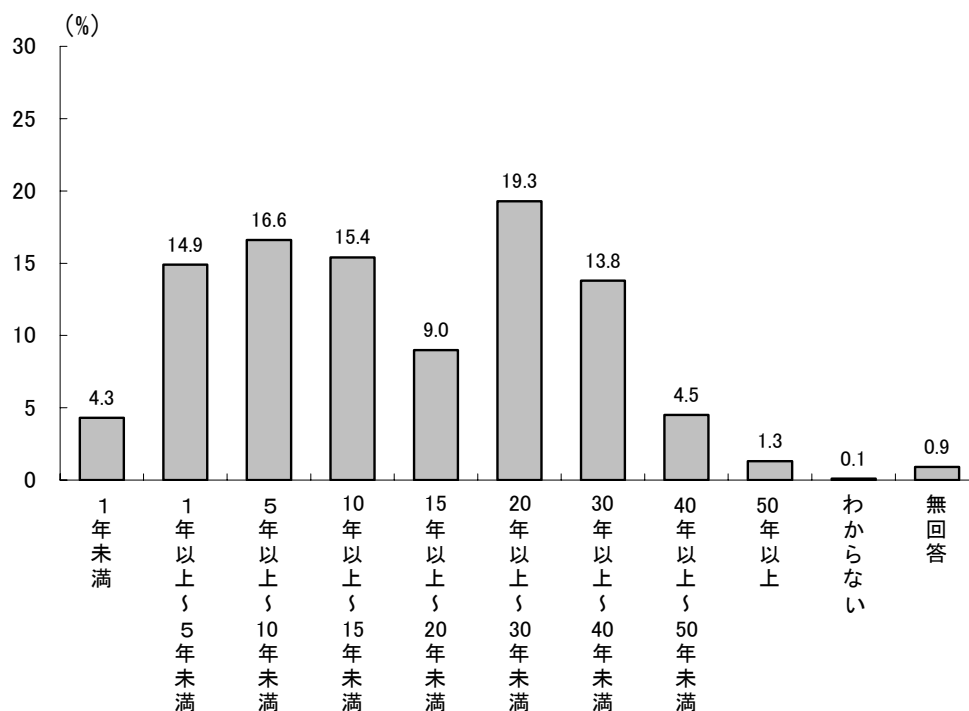
2 回答者の属性

回答者の属性



青葉区居住期間

(N=1,818)

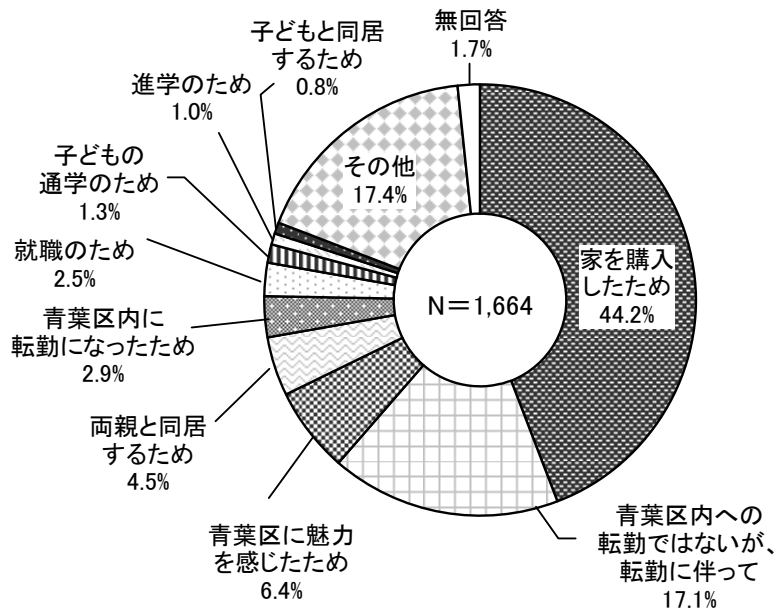


青葉区居住以前の居住地

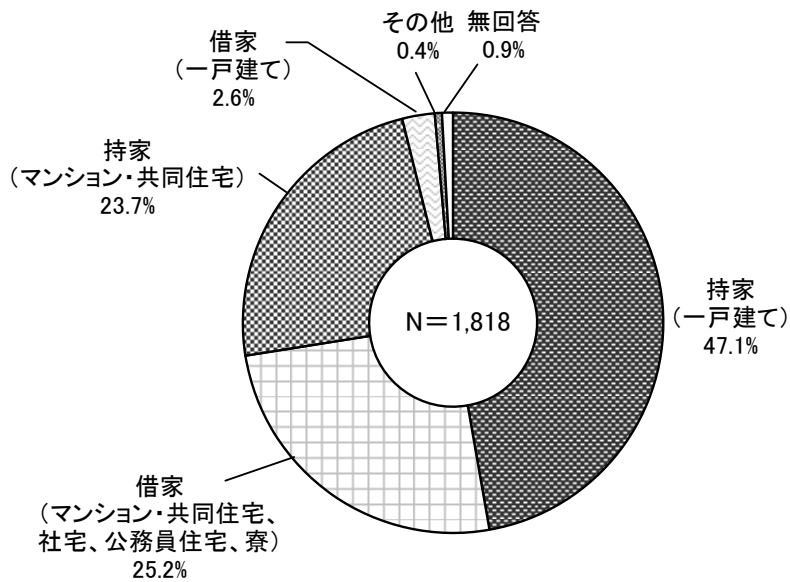
全体	青葉区生まれからずっと	青葉区以外の横浜市	川崎市	の横浜市、川崎市以外	町田市	東京23区	その他	無回答
1,818	109	267	295	113	33	432	524	45
100.0	6.0	14.7	16.2	6.2	1.8	23.8	28.8	2.5

「その他」の内容	件数	「その他」の内容	件数	「その他」の内容	件数
23区及び町田市以外の東京都	70	東北地方	12	九州地方	25
千葉県	27	甲信越・北陸	15	海外	38
埼玉県	34	大阪府	37	その他	15
その他の関東地方	11	大阪府以外の東海・近畿地方	92	内容記入なし	112
北海道	18	中国・四国地方	18	合計	524

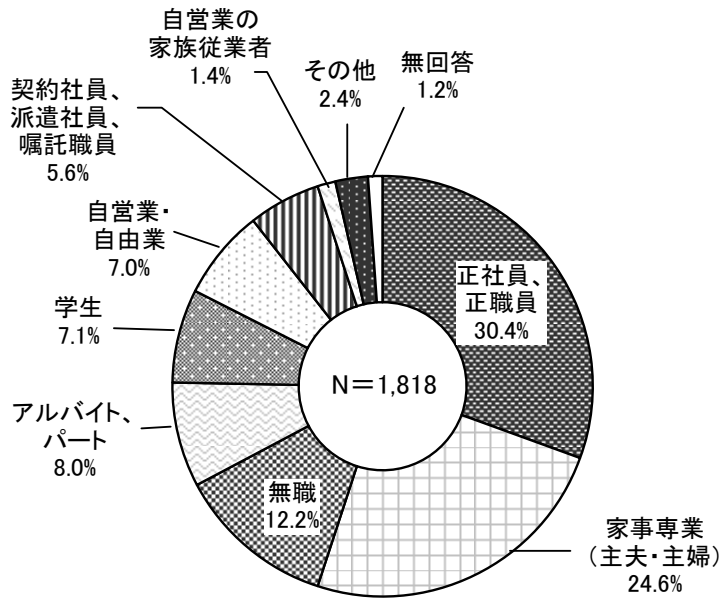
青葉区へ転入してきた理由



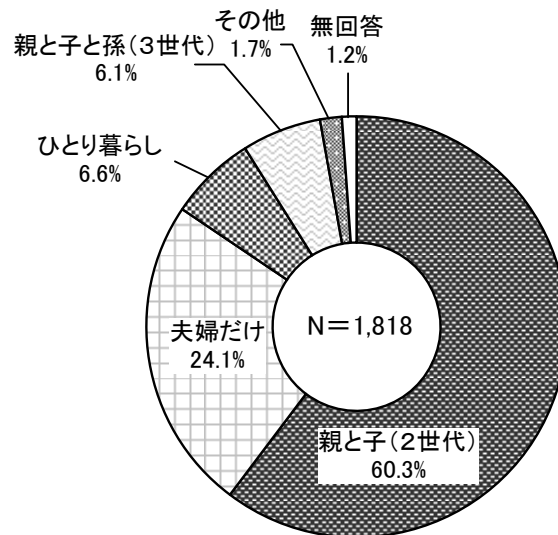
住居形態



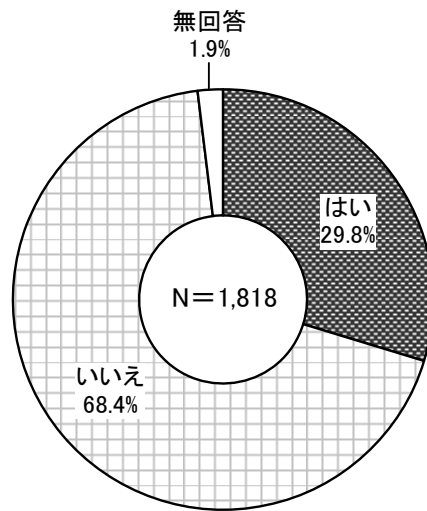
職業



家族形態



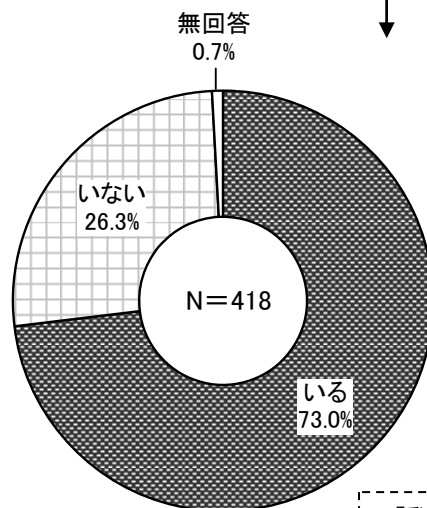
共働きか否か



同居している子ども

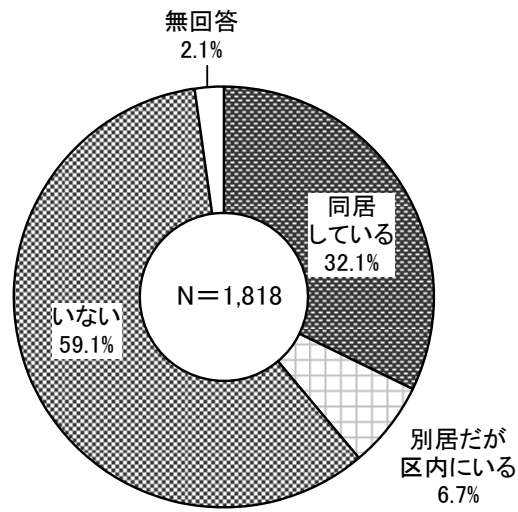
全体	乳幼児・未就学児	小学生	中学生	高校生	専門学校生、大学生	「1」～「5」に当てはまる家族はいない	無回答
1,818	234	255	147	168	210	1003	67
100.0	12.9	14.0	8.1	9.2	11.6	55.2	3.7

家庭で日中子どもの世話をする人の有無



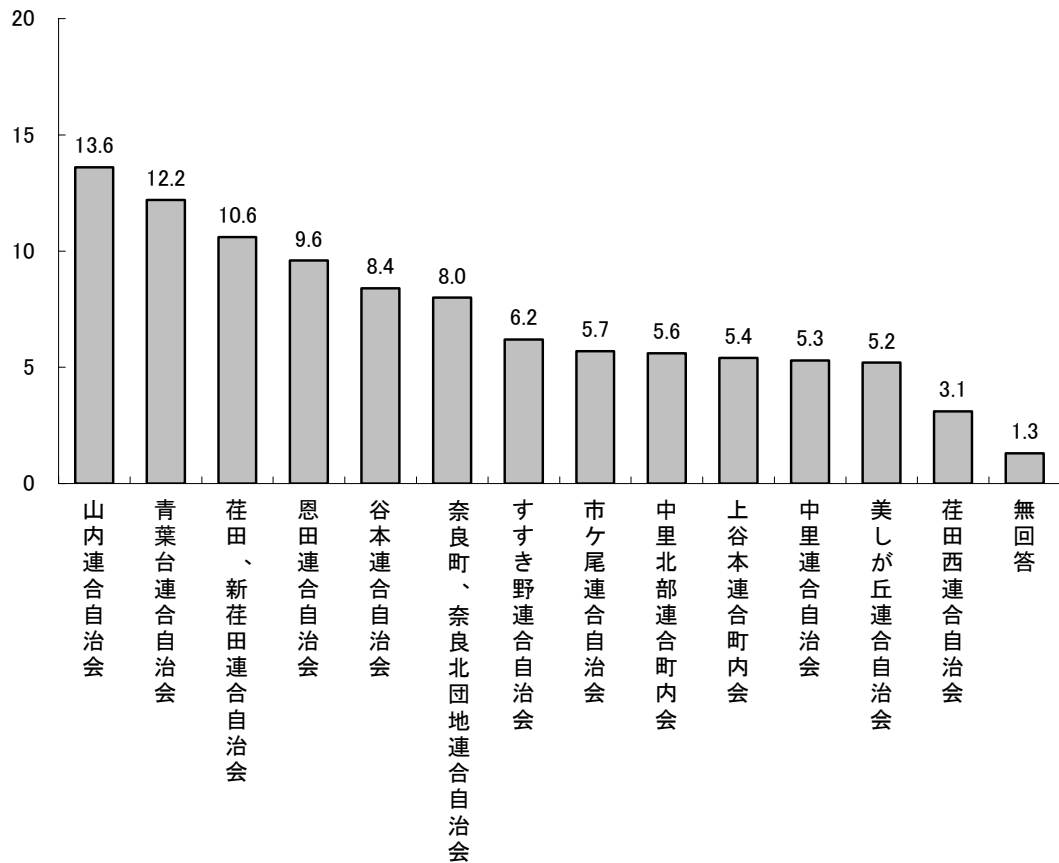
「乳幼児・未就学児」と「小学生」のどちらも回答している回答者がいるため、回答者数が489名にならない。

区内の65歳以上の家族の有無



居住地区（自治会別）

(N=1,818)
(%)



<居住地区（自治会別）：年齢別・性別・居住年数別・家族形態別>

	全体	中里連合自治会	中里北部連合町内会	市ヶ尾連合自治会	上谷本連合町内会	谷本連合自治会	恩田連合自治会	青葉台連合自治会	奈良町、奈良北団地連合自治会	山内連合自治会	荏田、新荏田連合自治会	荏田西連合自治会	すすき野連合自治会	美しが丘連合自治会	
調査数	1,818人	96人	101人	103人	98人	152人	174人	222人	146人	330人	110人	56人	112人	94人	
年齢別	16～19歳	4.5%	6.3%	4.0%	4.9%	2.0%	2.0%	6.9%	4.5%	4.8%	4.8%	4.5%	7.1%	5.4%	1.1%
	20～29歳	10.5%	5.2%	14.9%	7.8%	12.2%	12.5%	11.5%	11.7%	8.9%	8.8%	8.2%	17.9%	12.5%	9.6%
	30～39歳	19.2%	15.6%	13.9%	23.3%	17.3%	21.1%	19.0%	17.1%	11.6%	20.6%	30.0%	23.2%	15.2%	25.5%
	40～49歳	19.6%	21.9%	16.8%	20.4%	11.2%	18.4%	20.1%	18.9%	24.0%	21.8%	15.5%	26.8%	17.0%	21.3%
	50～59歳	16.5%	16.7%	15.8%	16.5%	24.5%	17.8%	16.7%	17.1%	16.4%	17.0%	14.5%	7.1%	18.8%	9.6%
	60～69歳	15.8%	27.1%	26.7%	15.5%	12.2%	13.8%	13.2%	14.4%	17.1%	15.5%	10.9%	8.9%	18.8%	14.9%
	70歳以上	13.2%	7.3%	7.9%	11.7%	18.4%	13.8%	11.5%	15.8%	16.4%	10.6%	16.4%	7.1%	12.5%	18.1%
	無回答	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.7%	1.1%	0.5%	0.7%	0.9%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
性別	男性	43.7%	52.1%	40.6%	46.6%	43.9%	46.7%	40.8%	40.5%	46.6%	42.7%	34.5%	48.2%	49.1%	43.6%
	女性	55.0%	46.9%	58.4%	52.4%	54.1%	52.6%	56.9%	58.8%	51.4%	55.5%	65.5%	50.0%	50.9%	56.4%
	無回答	1.3%	1.0%	1.0%	1.0%	2.0%	0.7%	2.3%	0.9%	2.1%	1.8%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
居住年数別	1年未満	4.3%	7.3%	2.0%	6.8%	4.1%	5.9%	4.6%	5.0%	1.4%	4.5%	7.3%	1.8%	1.8%	2.1%
	1年以上～5年未満	14.9%	13.5%	9.9%	19.4%	14.3%	9.9%	11.5%	14.0%	11.6%	16.4%	25.5%	16.1%	12.5%	22.3%
	5年以上～10年未満	16.6%	19.8%	13.9%	11.7%	12.2%	18.4%	18.4%	12.8%	17.1%	18.8%	13.6%	30.4%	15.2%	18.1%
	10年以上～15年未満	15.4%	18.8%	12.9%	10.7%	14.3%	16.4%	17.8%	14.4%	19.2%	15.8%	12.7%	16.1%	14.3%	10.6%
	15年以上～20年未満	9.0%	5.2%	10.9%	8.7%	10.2%	9.2%	10.3%	9.5%	11.0%	7.9%	10.0%	8.9%	7.1%	8.5%
	20年以上～30年未満	19.3%	14.6%	34.7%	21.4%	24.5%	17.1%	18.4%	14.4%	20.5%	19.4%	10.9%	21.4%	29.5%	14.9%
	30年以上～40年未満	13.8%	14.6%	11.9%	15.5%	16.3%	17.8%	7.5%	18.9%	13.7%	12.1%	10.0%	3.6%	17.0%	14.9%
	40年以上～50年未満	4.5%	4.2%	4.0%	4.9%	1.0%	2.6%	6.9%	9.9%	2.7%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.5%
	50年以上	1.3%	2.1%	0.0%	0.0%	1.0%	2.0%	3.4%	0.9%	2.1%	0.9%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	わからない	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
	無回答	0.9%	0.0%	0.0%	1.0%	2.0%	0.7%	1.1%	0.5%	0.7%	1.2%	0.9%	1.8%	1.8%	0.0%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
家族形態別	ひとり暮らし	6.6%	6.3%	4.0%	16.5%	5.1%	11.2%	2.3%	8.1%	4.1%	6.7%	9.1%	1.8%	1.8%	7.4%
	夫婦だけ	24.1%	24.0%	27.7%	21.4%	25.5%	25.0%	20.1%	27.5%	18.5%	23.3%	23.6%	19.6%	27.7%	30.9%
	親と子(2世代)	60.3%	57.3%	64.4%	54.4%	59.2%	57.2%	64.4%	56.8%	64.4%	59.7%	60.9%	73.2%	64.3%	56.4%
	親と子と孫(3世代)	6.1%	11.5%	2.0%	6.8%	6.1%	2.6%	9.8%	5.0%	8.9%	6.1%	5.5%	1.8%	5.4%	5.3%
	その他	1.7%	1.0%	1.0%	0.0%	2.0%	2.6%	2.3%	1.8%	2.7%	2.7%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
	無回答	1.2%	0.0%	1.0%	1.0%	2.0%	1.3%	1.1%	0.9%	1.4%	1.5%	0.9%	1.8%	0.9%	0.0%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

※居住地域は、下記の連合自治会・町内会を単位としている。

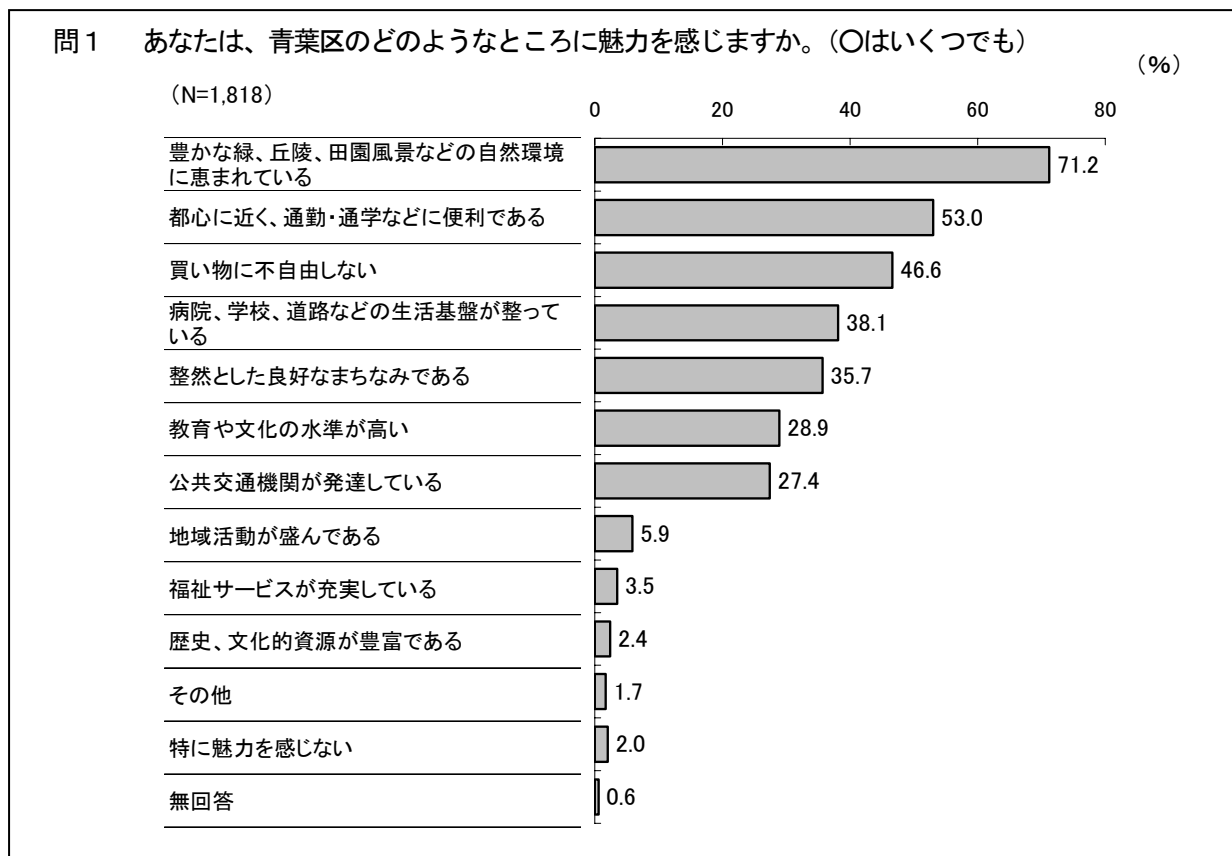
中里連合自治会	大場町、鉄町、黒須田、みすずが丘
中里北部連合町内会	鴨志田町、寺家町、たちばな台一丁目、二丁目、成合町
市ヶ尾連合自治会	市ヶ尾町
上谷本連合町内会	上谷本町、柿の木台、みたけ台、もえぎ野
谷本連合自治会	梅が丘、下谷本町、干草台、藤が丘一丁目、二丁目
恩田連合自治会	あかね台一丁目、二丁目、櫻が丘、恩田町、桂台一丁目、二丁目、田奈町、松風台
青葉台連合自治会	青葉台一丁目、二丁目、桜台、さつきが丘、しらとり台、つつじが丘、若草台
奈良町、奈良北団地連合自治会	すみよし台、奈良町、奈良一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、緑山
山内連合自治会	あざみ野一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、美しが丘四丁目、五丁目、美しが丘西一丁目、二丁目、荏子田一丁目、二丁目、三丁目、元石川町、新石川一丁目、二丁目、三丁目、四丁目
荏田、新荏田連合自治会	あざみ野南一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、荏田町、荏田北一丁目、二丁目、三丁目
荏田西連合自治会	荏田西一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目
すすき野連合自治会	美しが丘西三丁目、すすき野一丁目、二丁目、三丁目、もみの木台
美しが丘連合自治会	美しが丘一丁目、二丁目、三丁目

3 調査結果

調査結果

1 青葉区の生活環境について

1) 青葉区の魅力



POINT

「豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然環境に恵まれている」が、約7割で最も高い。「都心に近く、通勤・通学などに便利である」、「買い物に不自由しない」がそれぞれ5割前後となっている。

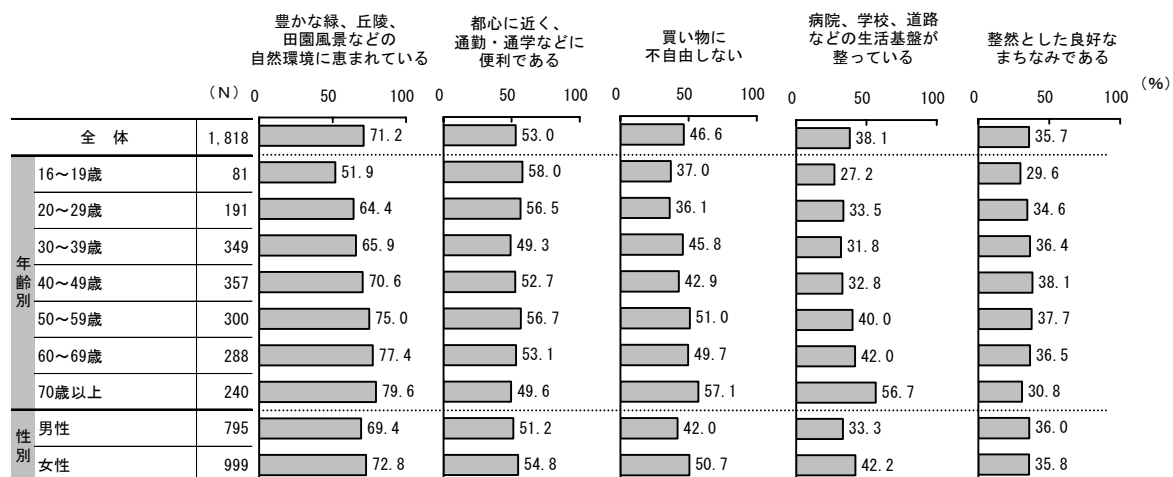
青葉区の魅力は「豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然環境に恵まれている」が71.2%で最も高く、次いで「都心に近く、通勤・通学などに便利である」(53.0%)、「買い物に不自由しない」(46.6%)の順となっている。

<年齢別・性別>

年齢別にみると、「豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然環境に恵まれている」は、どの年齢層でも過半数を占め、70歳以上では約8割となっている。また、「病院、学校、道路などの生活基盤が整っている」は、年齢とともに高くなる傾向がみられる。

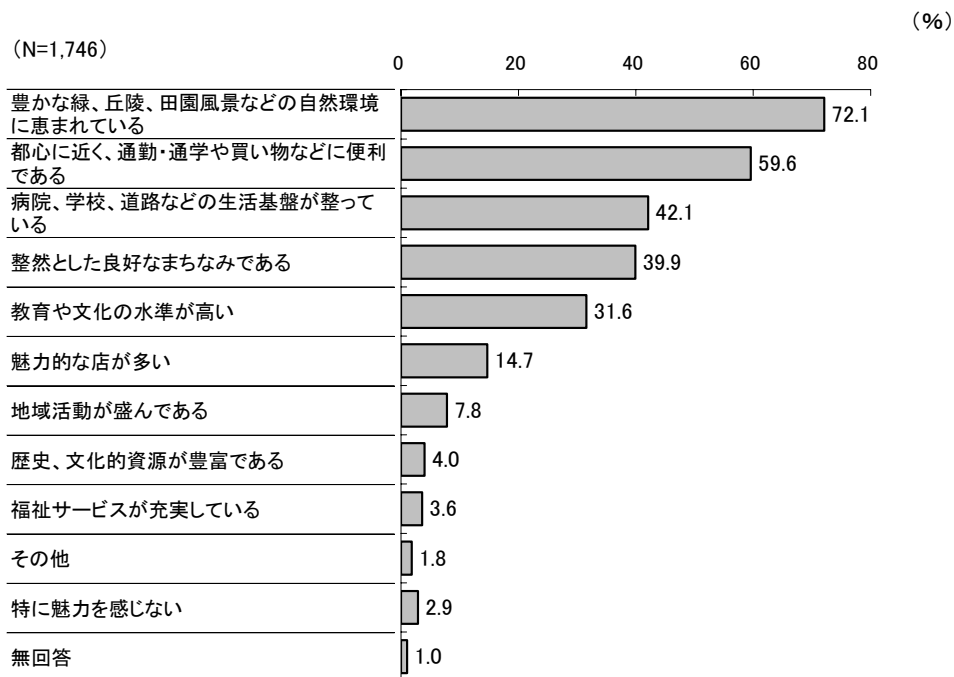
性別にみると、「買い物に不自由しない」と「病院、学校、道路などの生活基盤が整っている」の2項目で、男性よりも女性の方が8ポイント以上、高くなっている。

<年齢別・性別：全体の上位5項目>

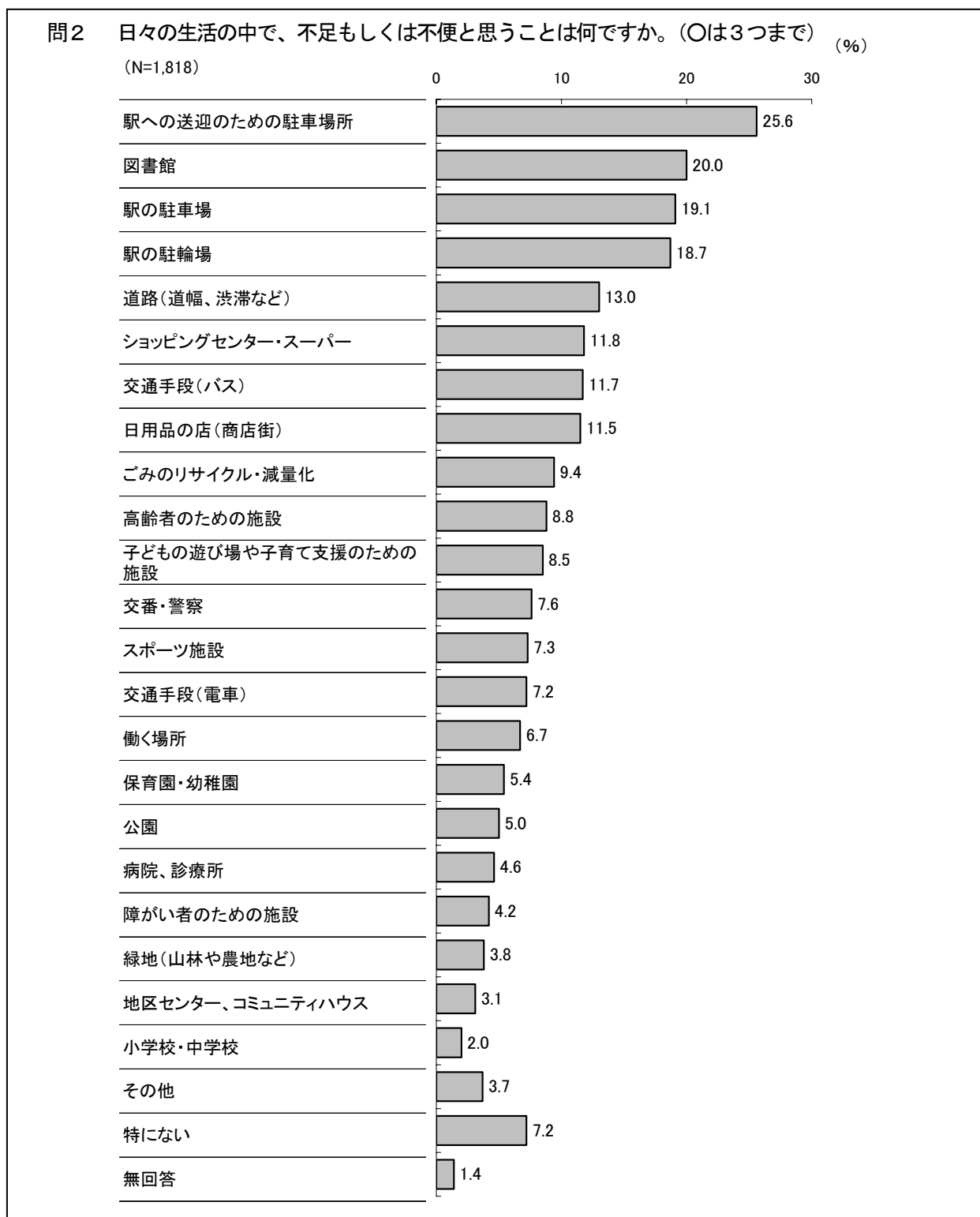


<【参考】平成20年度調査結果との比較>

平成20年度調査との比較では、上位5項目に変化はみられず、ほぼ同様の結果となっている。



2) 日々の生活の中で不足もしくは不便とされていること



POINT

「駅への送迎のための駐車場所」、「駅の駐車場」、「駅の駐輪場」と、駅周辺の駐車・駐輪関連事項が上位を占める。また、「図書館」が並んで高い。

一方、「特にない」は1割にも満たない。

生活の中で不足もしくは不便と感じることは、「駅への送迎のための駐車場所」が 25.6%で最も高く、次いで「図書館」(20.0%)、「駅の駐車場」(19.1%)、「駅の駐輪場」(18.7%)、「道路(道幅、渋滞など)」(13.0%)の順となっており、上位の項目の多くが道路・交通関連事項となっている。

<年齢別・性別・居住地域別・利用駅別>

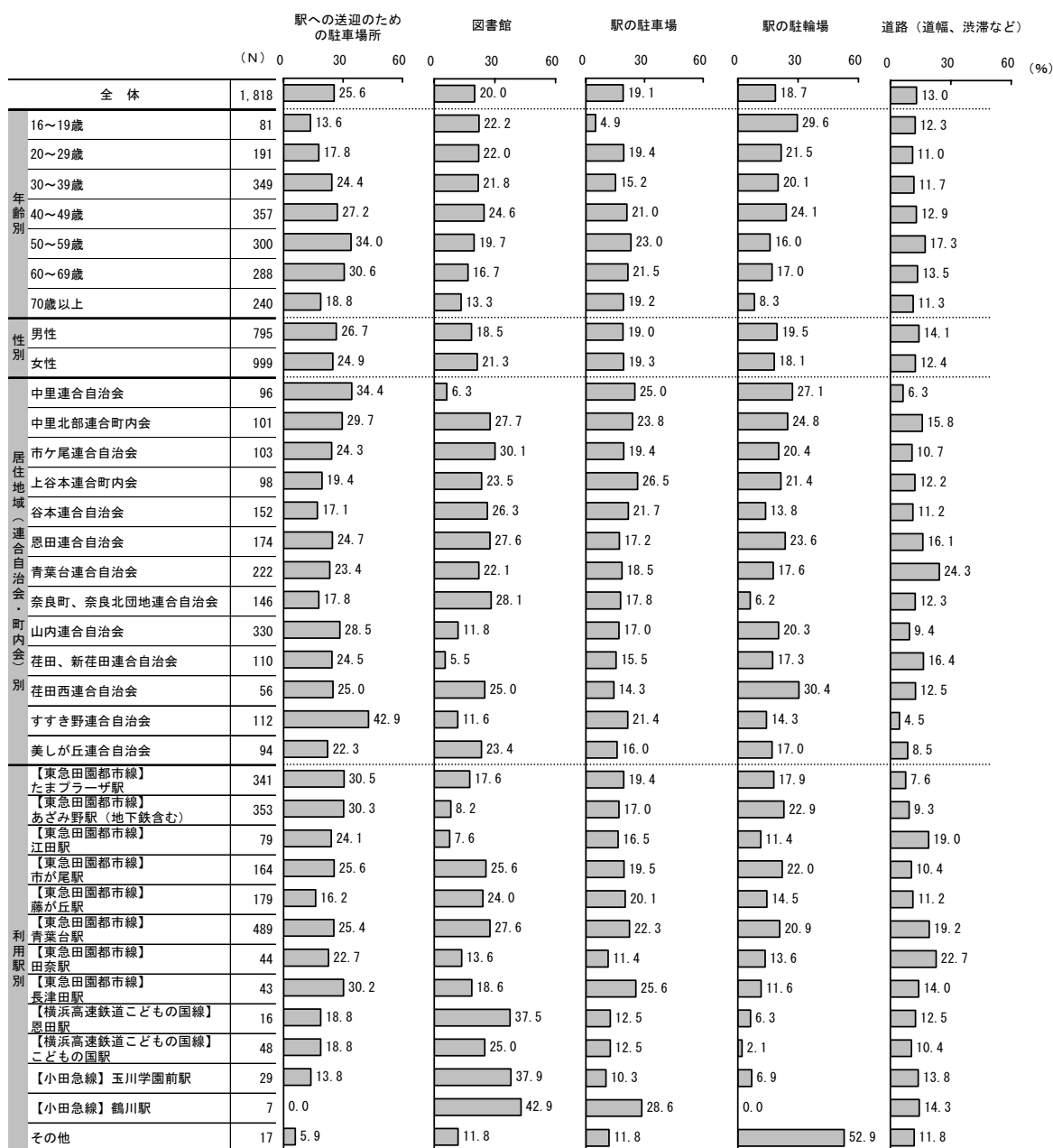
年齢別にみると、「駅への送迎のための駐車場所」、「駅の駐車場」といった車に関する項目は、40～49歳から60～69歳で回答の割合が高くなっている。一方、「駅の駐輪場」といった自転車に関する項目は、16～19歳から40～49歳で高くなっている。

性別による差はほとんどみられなかった。

居住地域別にみると、多くの地域で「駅への送迎のための駐車場所」が2割以上となっており、特にすずき野連合自治会は約4割と高くなっている。

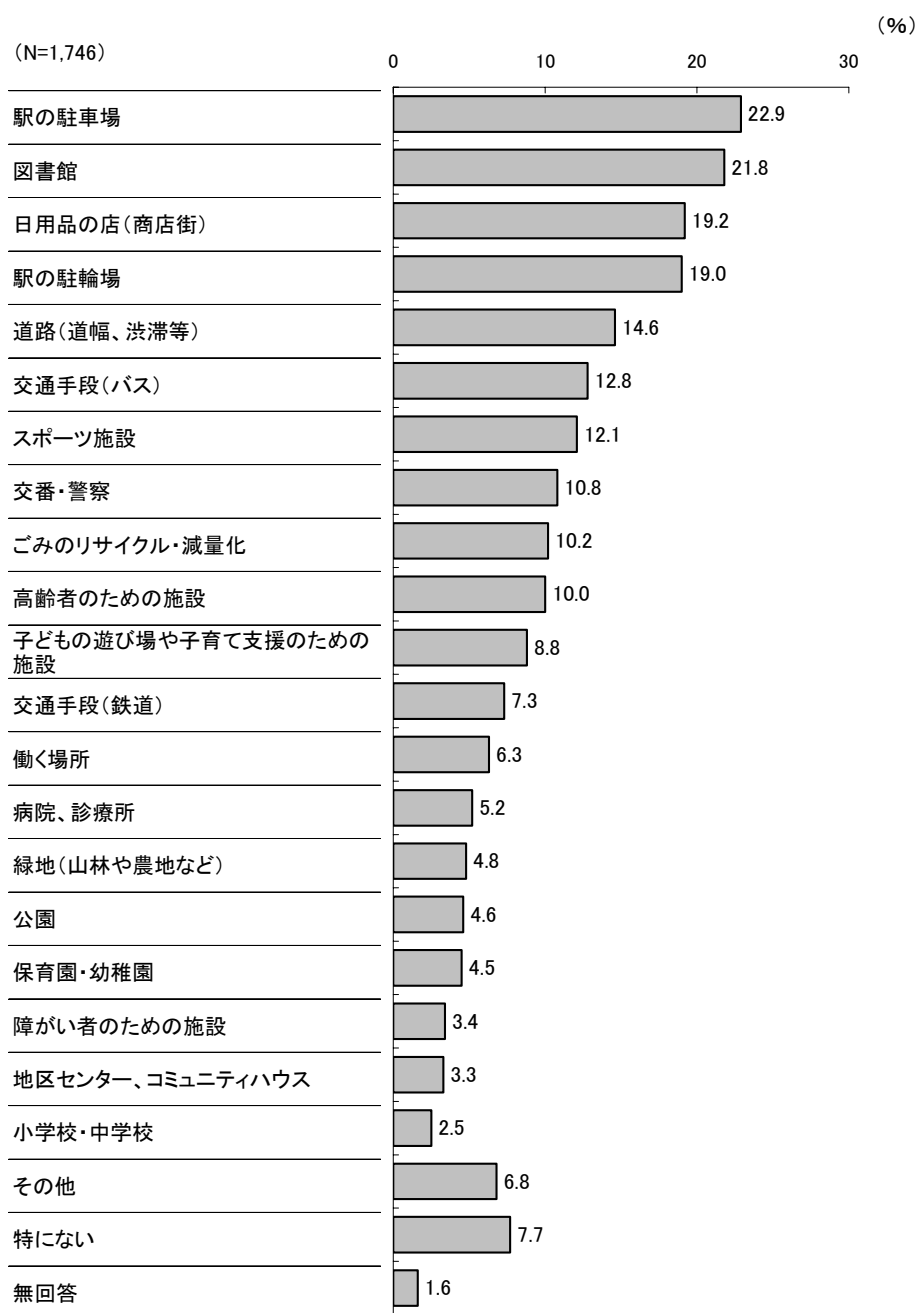
利用駅別にみると、「駅への送迎のための駐車場所」では、たまプラーザ駅、あざみ野駅、長津田駅がそれぞれ約3割と、他の利用駅よりも高くなっている。また、「駅の駐輪場」は、あざみ野駅、市が尾駅、青葉台駅で約2割と高くなっている。

<年齢別・性別・居住地域別・利用駅別：全体の上位5項目>

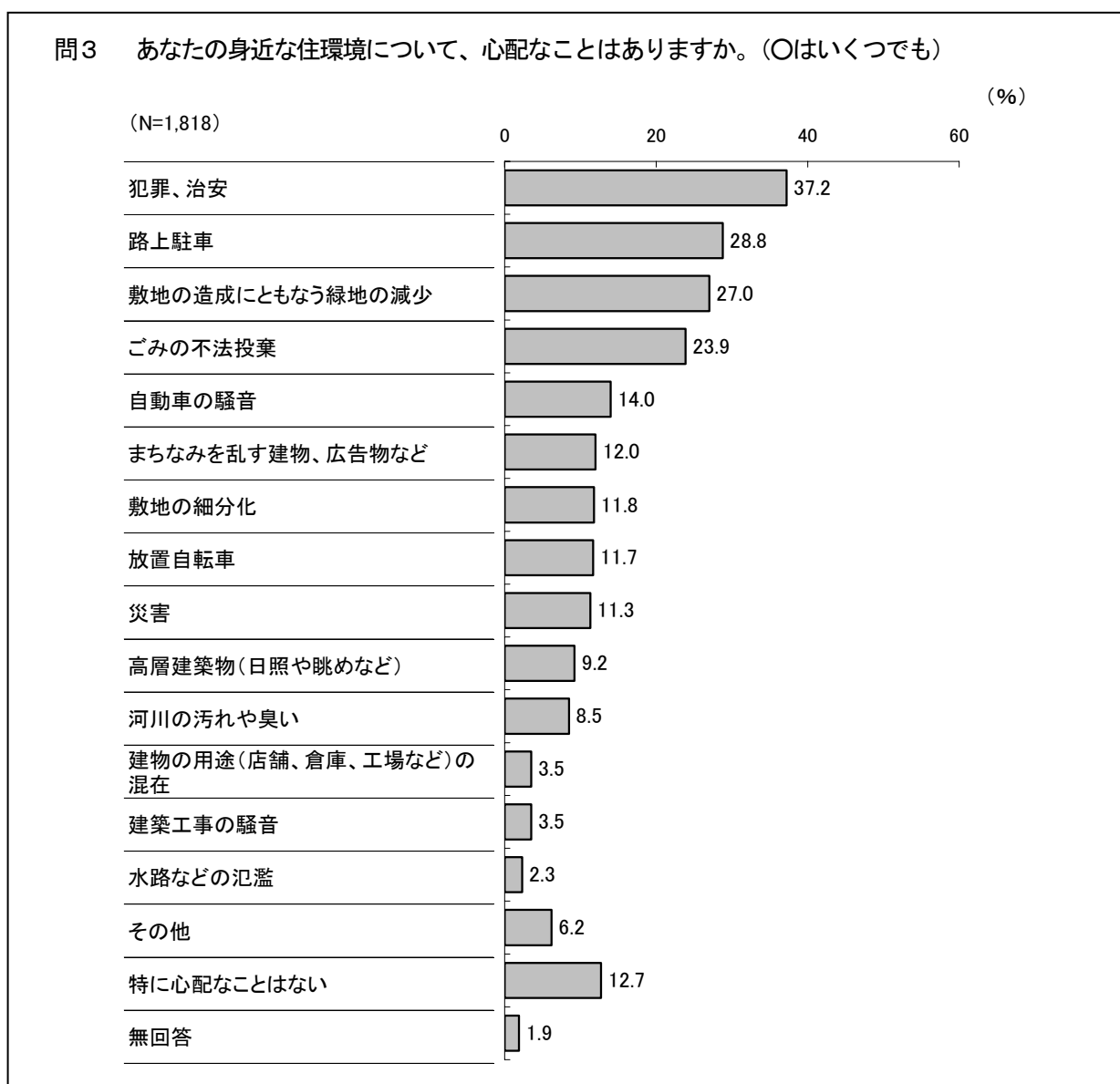


<【参考】平成20年度調査結果との比較>

平成20年度調査では、「駅への送迎のための駐車場所」や「ショッピングセンター・スーパー」といった項目がないため、直接の比較はできないが、今回の調査と同様に道路・交通関連事項が上位となっている。



3) 身近な住環境について心配なこと



POINT

「犯罪、治安」が最も高く、約4割となっている。
一方、「特に心配なことはない」が1割を超えている。

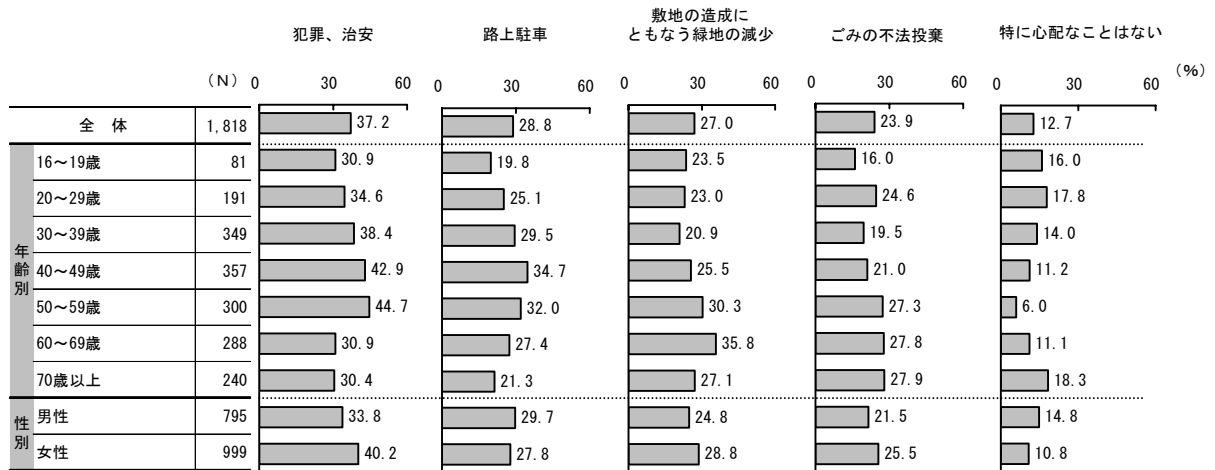
身近な住環境について心配なことは、「犯罪、治安」が37.2%で最も高く、次いで「路上駐車」(28.8%)、「敷地の造成にともなう緑地の減少」(27.0%)、「ごみの不法投棄」(23.9%)の順となっており、これら4項目が2割以上の回答となっている。

<年齢別・性別>

年齢別にみると、ほとんどの年齢層で「犯罪、治安」が最も高くなっており、50～59歳では4割半ばと、他の年齢層よりも高くなっている。ただし、60～69歳では「敷地の造成にともなう緑地の減少」が35.8%と、「犯罪、治安」(30.9%)よりも高くなっている。

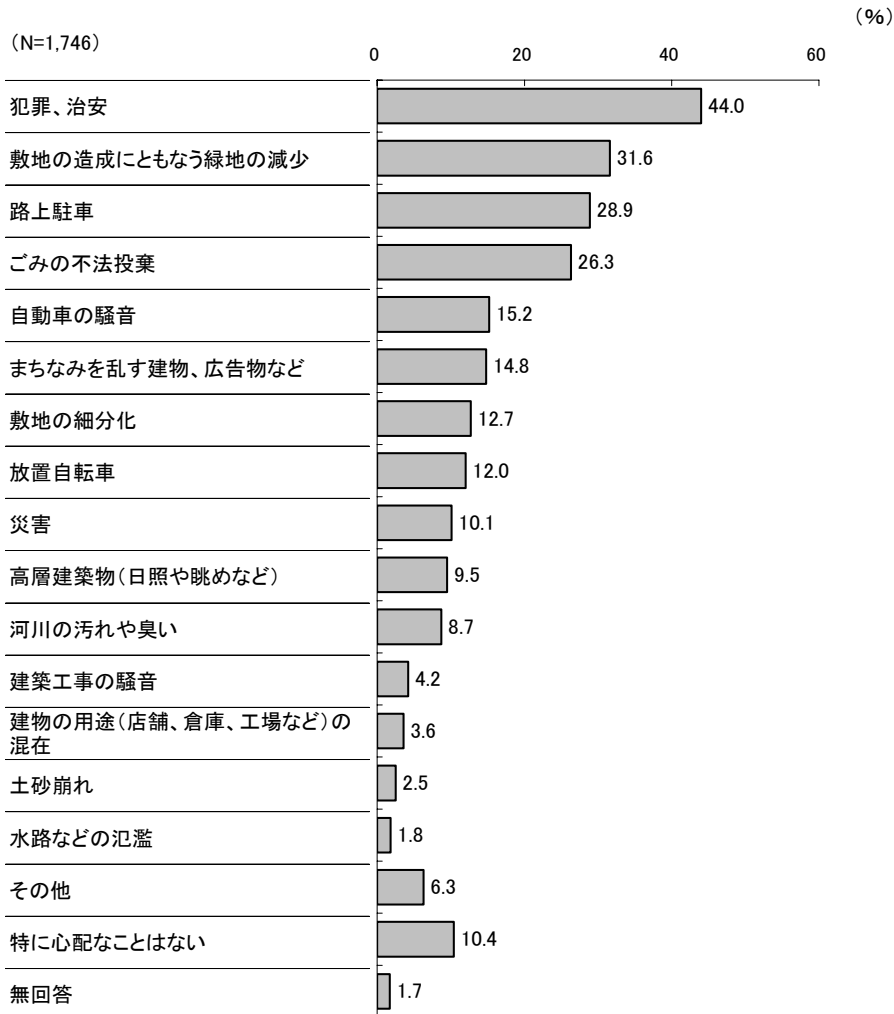
性別にみると、「敷地の造成にともなう緑地の減少」と「ごみの不法投棄」がそれぞれ男性に比べ女性の方が4ポイント高く、「犯罪、治安」については約6ポイント高くなっている。

<年齢別・性別：心配なことの上位4項目と「特に心配なことはない」>



<【参考】平成20年度調査結果との比較>

平成20年度調査と比較すると、上位の4項目は今回の調査でも上位となっている。

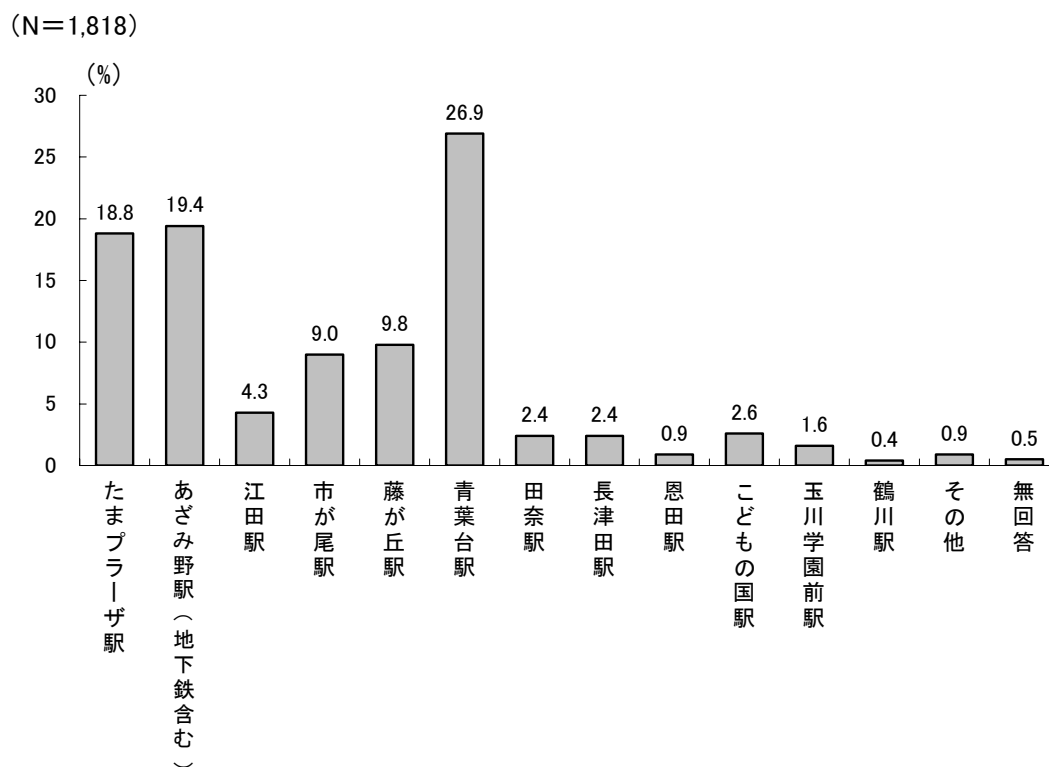


2 駅周辺のまちづくりについて

1) 日常生活で最も利用する駅

問4 あなたが、通勤・通学や日常の生活で最もよく利用する駅はどこですか。

(○は1つだけ)



POINT

「青葉台駅」が最も利用が多く、4人に1人が利用している。
「あざみ野駅 (地下鉄含む)」、「たまプラーザ駅」がそれぞれ2割弱となっている。

通勤・通学や日常生活で最も利用する駅は、「青葉台駅」が26.9%で最も高く、次いで「あざみ野駅 (地下鉄含む)」(19.4%)、「たまプラーザ駅」(18.8%)の順となっている。

<居住地域別>

年齢別にみると、「青葉台駅」が16～19歳以外の年齢層で最も高くなっている。16～19歳では「あざみ野駅」が最も高くなっている。

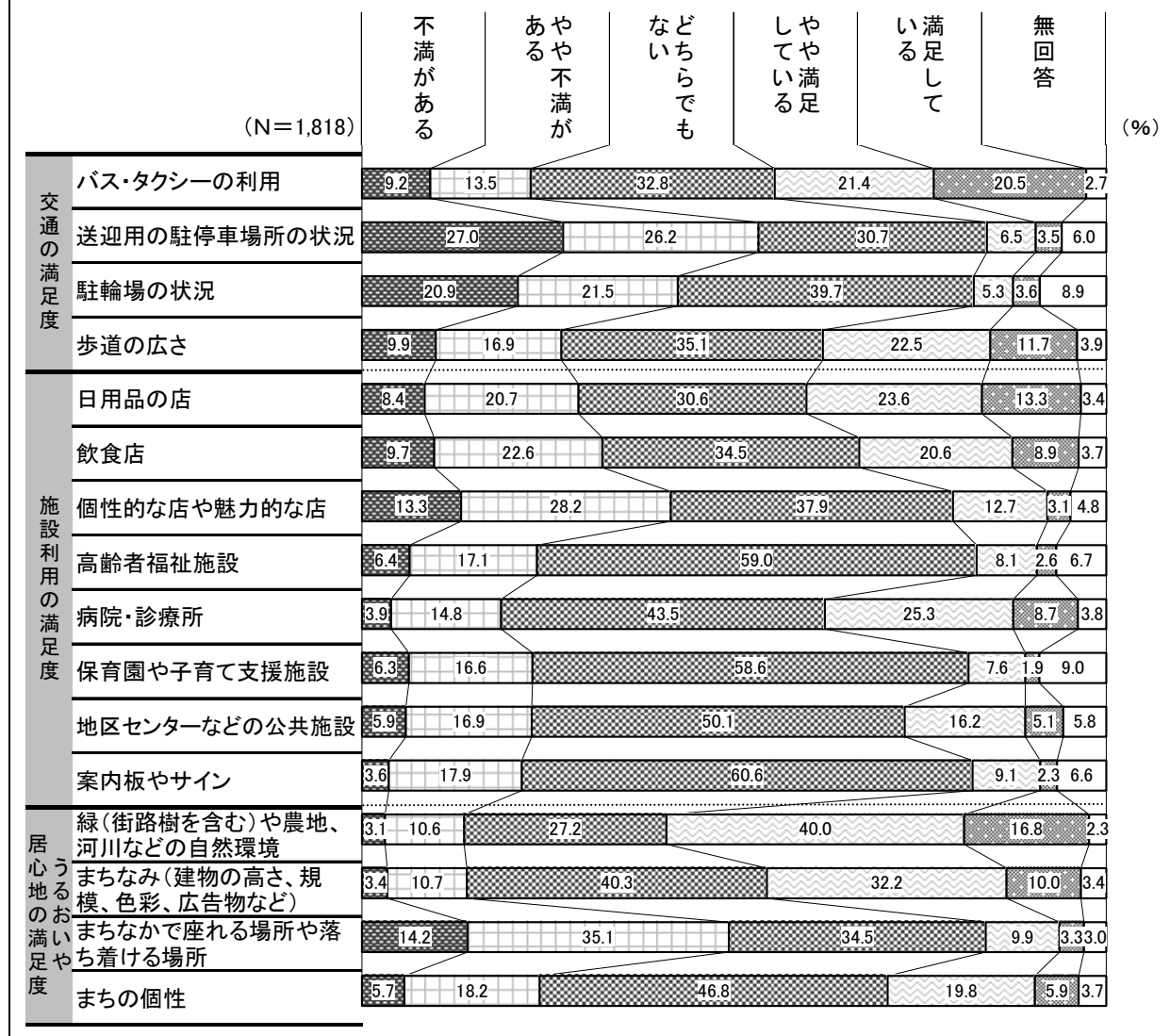
性別にみると、「青葉台駅」で男性に比べ、女性の方が3.5ポイントと若干高くなっている。

居住地域別にみると、利用割合の高い駅はいずれも複数の地域からの利用となっている。

	調査数	【東急田園都市線】								【横浜高速鉄道 こどもの国線】		【小田急線】		その他	無回答
		たまプラーザ駅	(あざみ野駅 地下鉄含む)	江田駅	市が尾駅	藤が丘駅	青葉台駅	田奈駅	長津田駅	恩田駅	こどもの国駅	玉川学園前駅	鶴川駅		
全 体	1,818	18.8	19.4	4.3	9.0	9.8	26.9	2.4	2.4	0.9	2.6	1.6	0.4	0.9	0.5
居住地区 (連合自治会・町内会)別	中里連合自治会	96	3.1	71.9	2.1	18.8	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	中里北部連合町内会	101	2.0	1.0	0.0	4.0	0.0	91.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	市ヶ尾連合自治会	103	1.0	2.9	1.0	93.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0
	上谷本連合町内会	98	0.0	1.0	0.0	1.0	60.2	36.7	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	谷本連合自治会	152	2.0	2.0	0.0	2.0	75.0	17.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7
	恩田連合自治会	174	0.0	2.3	0.0	0.6	0.0	54.6	20.7	14.9	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	青葉台連合自治会	222	5.0	1.8	0.0	0.0	1.4	85.1	2.7	0.9	0.0	0.0	0.0	2.3	0.9
	奈良町、 奈良北団地連合自治会	146	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	27.4	1.4	8.9	2.7	32.9	19.9	4.8	0.7
	山内連合自治会	330	54.2	44.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.9
	荏田、新荏田連合自治会	110	4.5	36.4	52.7	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0
	荏田西連合自治会	56	3.6	1.8	30.4	60.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0
	すずき野連合自治会	112	33.0	66.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
美しが丘連合自治会	94	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

2) 最寄り駅周辺の満足度

問5 あなたは、最寄り駅周辺について、どのように評価していますか。以下の項目について、それぞれの満足度をお答えください。(設問ごとに、1～5の満足度1つに○)



POINT

「交通の満足度」の「送迎用の駐停車場所の状況」は『不満』（「不満がある」と「やや不満がある」の合計。以下全て同じ。）が過半数を占める。

「施設利用の満足度」の「個性的な店や魅力的な店」は『不満』が約4割を占める。

「うるおいや居心地の満足度」の「まちなかで座れる場所や落ち着ける場所」は『不満』が約5割を占める。

「交通の満足度」に関する項目について、『不満』（「不満がある」と「やや不満がある」の合計。以下全て同じ。）は「送迎用の駐停車場所の状況」が53.2%で最も高く、「駐輪場の状況」が42.4%で続いている。

「施設利用の満足度」に関する項目について、『不満』は「個性的な店や魅力的な店」が41.5%で最も高く、次いで「飲食店」(32.2%)、「日用品の店」(29.2%)が3割前後で続いている。

「うるおいや居心地の満足度」に関する項目について、『不満』は「まちなかで座れる場所や落ち着ける場所」が49.3%と最も高くなっている。

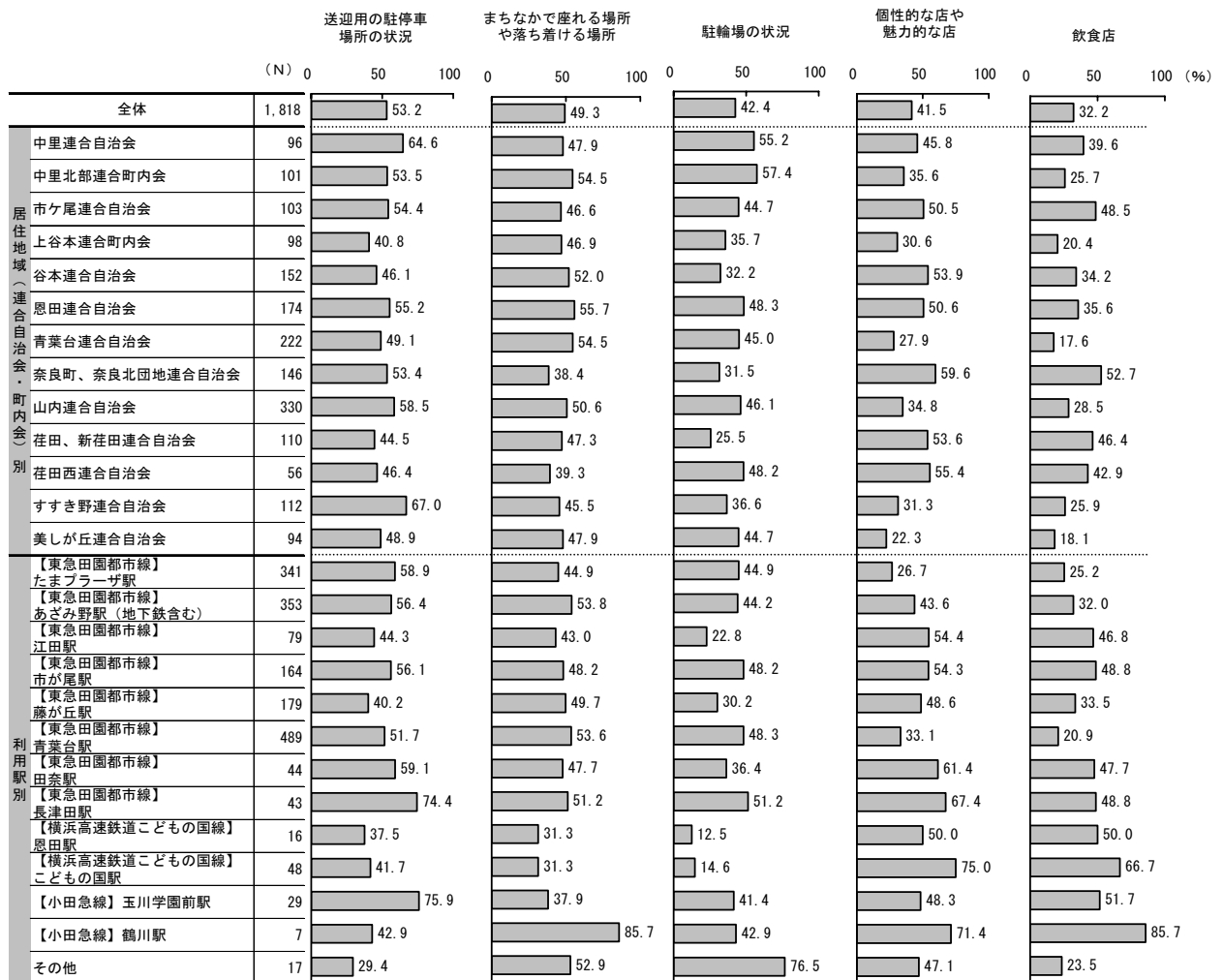
一方、「緑（街路樹を含む）や農地、河川などの自然環境」（13.8%）と「まちなみ（建物の高さ、規模、色彩、広告物など）」（14.1%）の『不満』は、それぞれ1割台前半となっている

<居住地域別・利用駅別の『不満』>

居住地域別にみると、「送迎用の駐停車場所の状況」の『不満』は、すすき野連合自治会、中里連合自治会で6割を超えている。

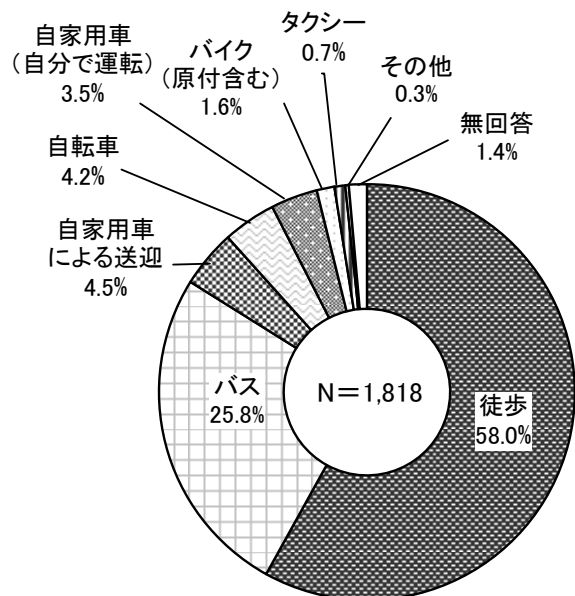
利用駅別にみると、利用駅によって『不満』はかなりばらつきがみられる。「送迎用の駐停車場所の状況」では、玉川学園前駅と長津田駅が7割半ばなのに対し、こどもの国駅、藤が丘駅、恩田駅は4割前後となっている。

<居住地域別・利用駅別：全体の『不満』上位5項目>



3) 最寄り駅までの交通手段

問7 あなたは、最寄り駅まで主にどのような手段で移動していますか。(〇は1つだけ)



POINT

「徒歩」が過半数の回答となっている。
一方、「自転車」や「自家用車による送迎」などはともに5%に満たない。

最寄り駅までの移動手段は、「徒歩」が58.0%で最も高く、次いで「バス」が25.8%となっており、この2項目で8割以上の回答を占めている。

<居住地域別・利用駅別>

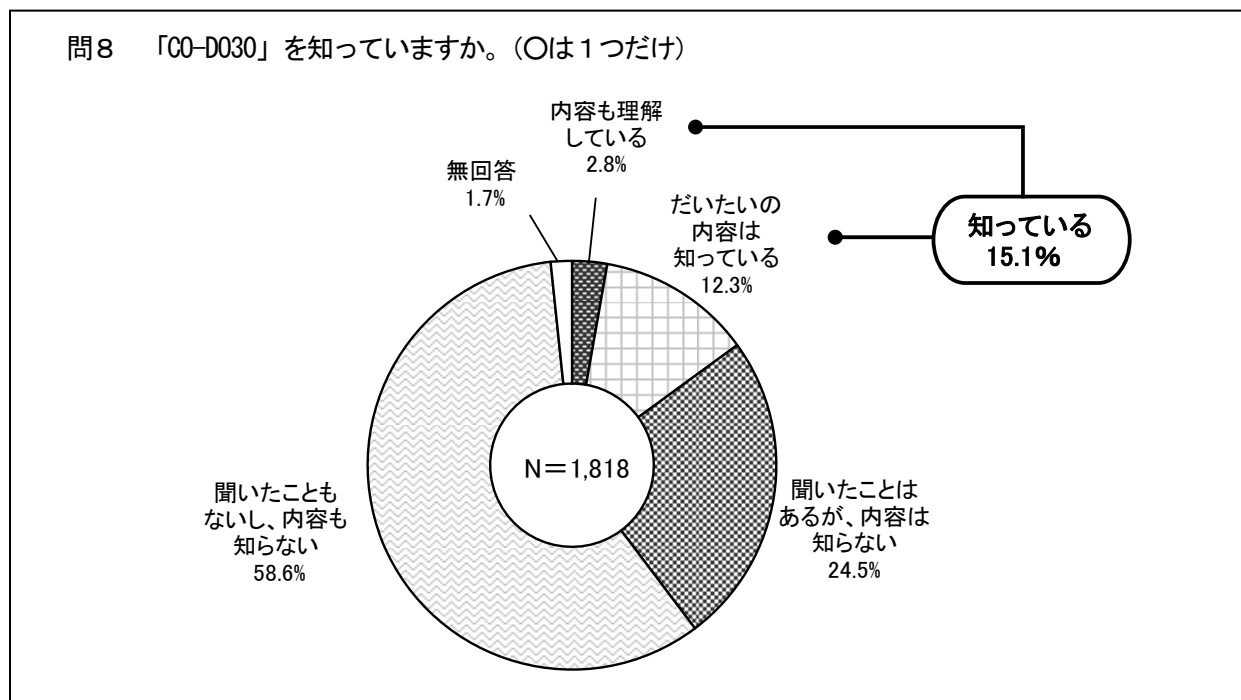
居住地域別にみると、多くの地域で「徒歩」が最も高くなっているのに対し、すすき野連合自治会、中里北部連合町内会、中里連合自治会では「バス」が最も高く、過半数を占めている。

利用駅別にみると、ほとんどの利用駅で「徒歩」が最も高くなっており、こどもの国駅、田奈駅、江田駅、恩田駅では8割以上となっている。一方、鶴川駅、あざみ野駅では「バス」が4割以上となっている。

	調査数	徒歩	バス	自家用車による 送迎	自転車	（自分で運転） 自家用車	（原付含む） バイク	タクシー	その他	無回答	
全体	1,818	58.0	25.8	4.5	4.2	3.5	1.6	0.7	0.3	1.4	
居住地域 （連合自治 ・町内会） 別	中里連合自治会	96	14.6	57.3	10.4	5.2	6.3	3.1	1.0	0.0	2.1
	中里北部連合町内会	101	9.9	66.3	2.0	9.9	6.9	2.0	0.0	2.0	1.0
	市ヶ尾連合自治会	103	77.7	10.7	2.9	4.9	1.0	1.9	0.0	0.0	1.0
	上谷本連合町内会	98	52.0	31.6	8.2	4.1	1.0	1.0	1.0	0.0	1.0
	谷本連合自治会	152	78.3	7.9	3.3	2.6	2.6	1.3	2.0	0.0	2.0
	恩田連合自治会	174	71.8	8.0	5.7	4.6	5.2	2.9	0.0	0.0	1.7
	青葉台連合自治会	222	72.1	15.8	3.6	3.2	1.4	0.5	0.9	0.9	1.8
	奈良町、奈良北団地連合自治会	146	56.8	27.4	4.1	4.8	2.7	2.7	0.7	0.0	0.7
	山内連合自治会	330	57.9	27.9	4.5	3.0	3.6	1.2	0.6	0.0	1.2
	荇田、新荇田連合自治会	110	77.3	4.5	4.5	6.4	3.6	1.8	0.9	0.0	0.9
	荇田西連合自治会	56	92.9	0.0	1.8	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
	すずき野連合自治会	112	2.7	76.8	5.4	1.8	8.0	1.8	0.9	0.9	1.8
	美しが丘連合自治会	94	77.7	12.8	1.1	3.2	3.2	1.1	0.0	0.0	1.1
	利用駅別	【東急田園都市線】たまプラーザ駅	341	52.2	31.7	3.8	2.3	5.9	1.2	0.9	0.3
【東急田園都市線】あざみ野駅（地下鉄含む）		353	40.5	40.8	5.9	5.4	4.2	2.0	0.3	0.0	0.8
【東急田園都市線】江田駅		79	84.8	3.8	3.8	3.8	1.3	1.3	0.0	0.0	1.3
【東急田園都市線】市が尾駅		164	78.7	8.5	1.8	3.7	2.4	1.2	0.6	0.0	3.0
【東急田園都市線】藤が丘駅		179	76.0	13.4	3.9	2.8	0.6	0.6	1.7	0.0	1.1
【東急田園都市線】青葉台駅		489	49.3	31.7	4.9	5.5	4.3	1.2	0.6	0.8	1.6
【東急田園都市線】田奈駅		44	88.6	6.8	2.3	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
【東急田園都市線】長津田駅		43	65.1	2.3	7.0	7.0	2.3	14.0	2.3	0.0	0.0
【横浜高速鉄道こどもの国線】恩田駅		16	81.3	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【横浜高速鉄道こどもの国線】こどもの国駅		48	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【小田急線】玉川学園前駅		29	72.4	10.3	6.9	6.9	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0
【小田急線】鶴川駅		7	14.3	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他		17	47.1	29.4	5.9	11.8	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0

3 環境・自然について

1) CO-D030の認知度



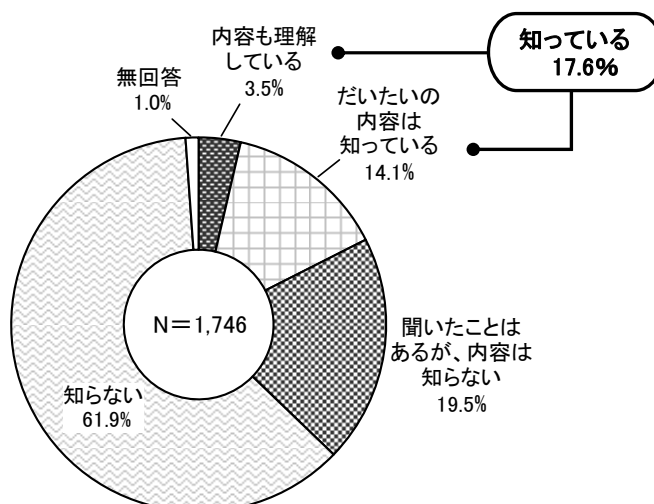
POINT

認知度は『知っている』が15.1%と低く、「聞いたこともないし、内容も知らない」が約6割を占めている。

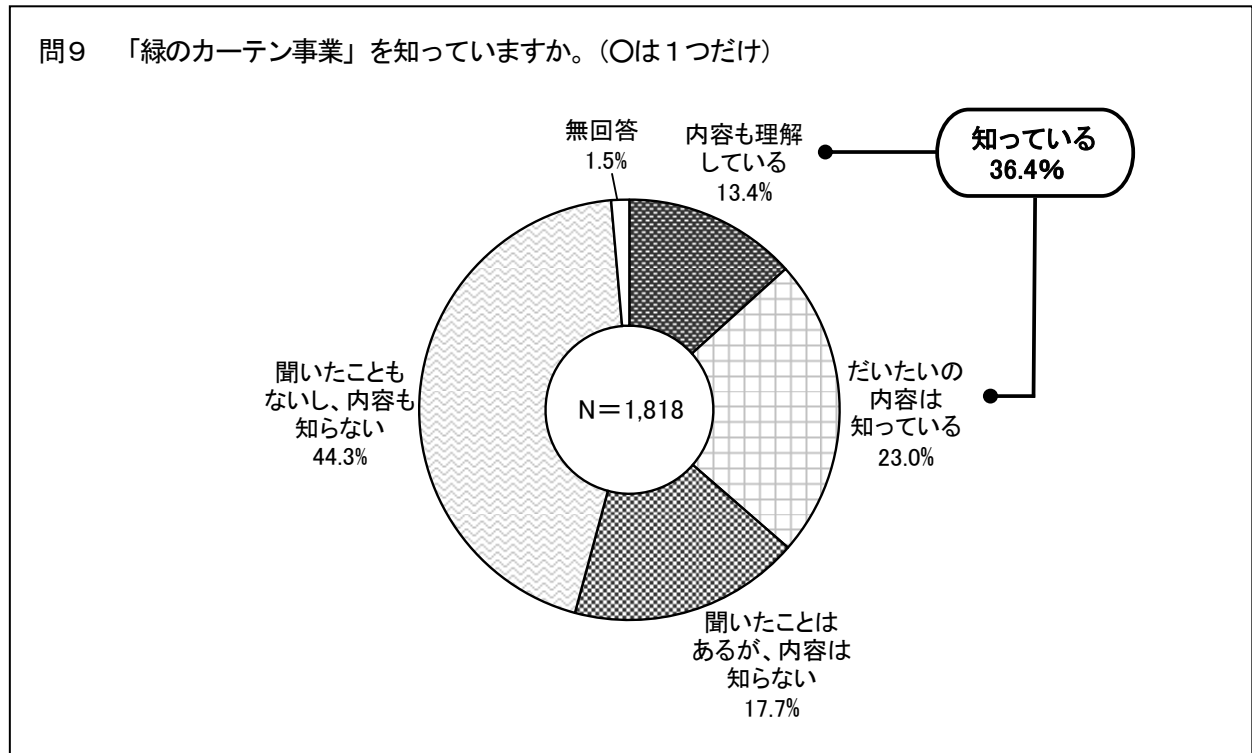
「CO-D030」の認知度は、「聞いたこともないし、内容も知らない」が58.6%と過半数を占めており、「内容も理解している」と「だいたいの内容は知っている」を合わせた『知っている』は15.1%にとどまっている。

<【参考】平成20年度調査結果との比較>

今回の調査では『知っている』が15.1%と、平成20年度調査の17.6%をやや下回っている。



2) 緑のカーテン事業の認知度



POINT

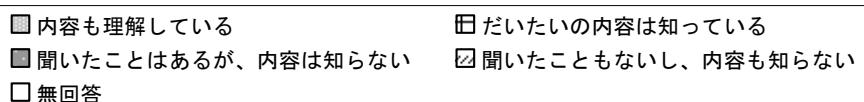
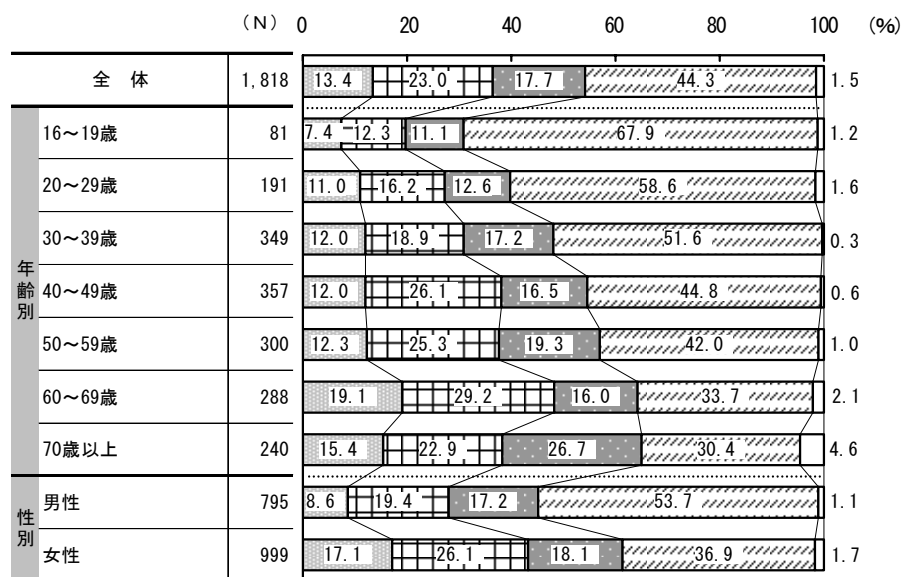
認知度は『知っている』が3割台半ばとなっている。
「聞いたこともないし、内容も知らない」が半数近くを占めている。

「緑のカーテン事業」の認知度は、「聞いたこともないし、内容も知らない」が44.3%と半数近い回答となっている。一方、「内容も理解している」と「だいたいの内容は知っている」を合わせた『知っている』は36.4%となっている。

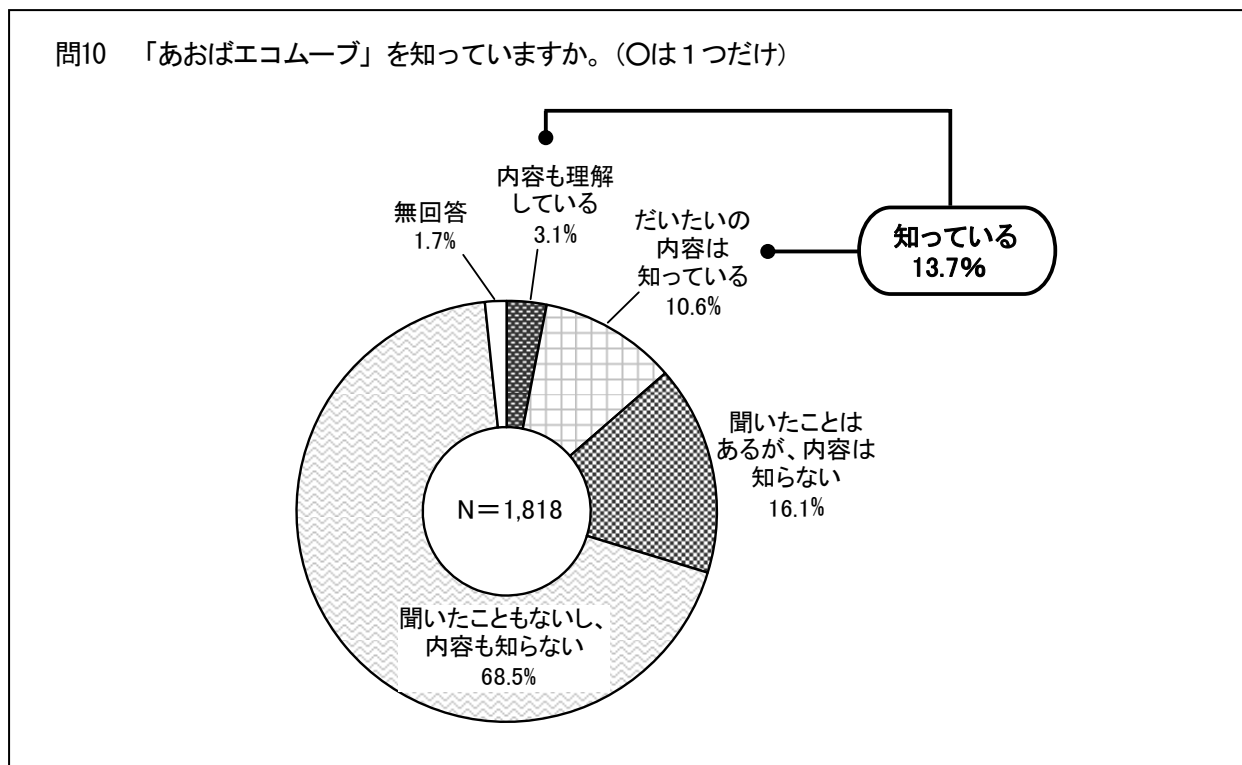
<年齢別・性別>

年齢別にみると、60～69歳では『知っている』が約5割となっているのに対し、16～19歳では約2割にとどまっている。

性別にみると、男性に比べ、女性の方が『知っている』割合が15.3ポイント高くなっている。



3) あおばエコムーブの認知度



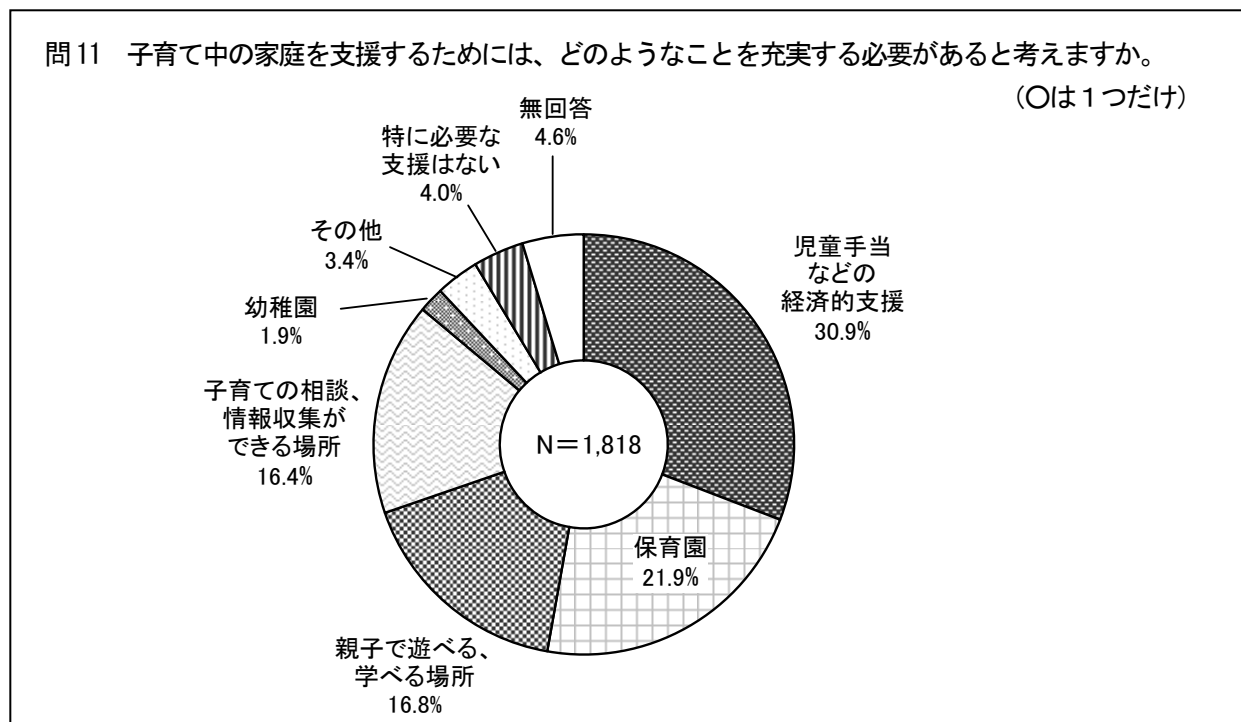
POINT

認知度は『知っている』が13.7%と低く、「聞いたこともないし、内容も知らない」が7割近くを占めている。

「あおばエコムーブ」の認知度は、「聞いたこともないし、内容も知らない」が68.5%と7割近い回答となっている。一方、「内容も理解している」と「だいたいの内容は知っている」を合わせた『知っている』は13.7%で低くなっている。

4 健康・子育てについて

1) 子育て中の家庭を支援するために充実すべきこと



POINT

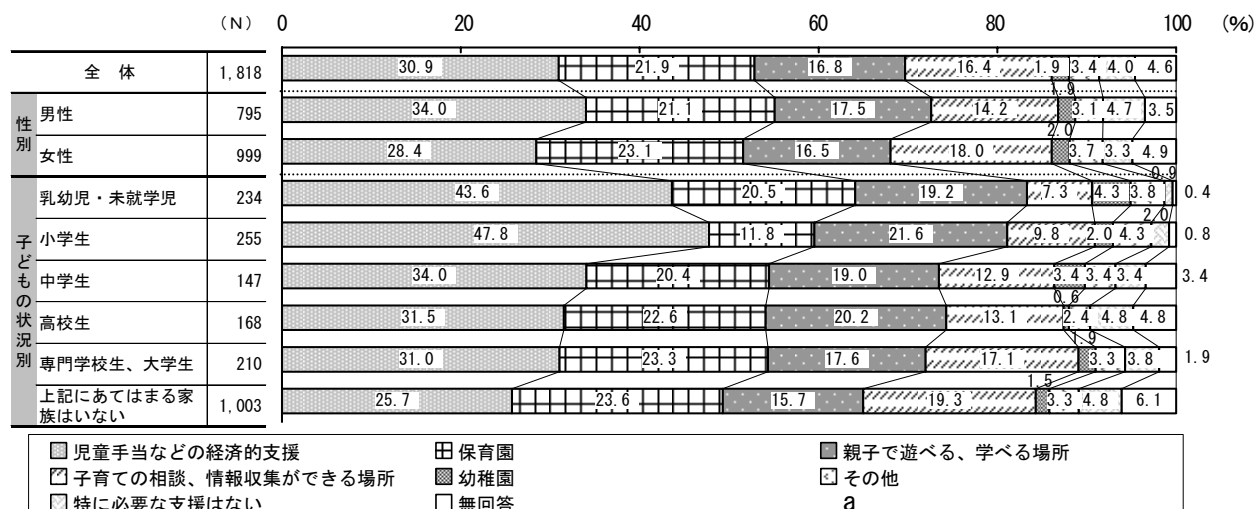
「児童手当などの経済的支援」が約3割で、最も高くなっている。

子育て中の家庭を支援するために充実すべきことは、「児童手当などの経済的支援」が30.9%で最も高く、次いで「保育園」(21.9%)、「親子で遊べる、学べる場所」(16.8%)、「子育ての相談、情報収集ができる場所」(16.4%)の順となっている。

<性別・子どもの状況別>

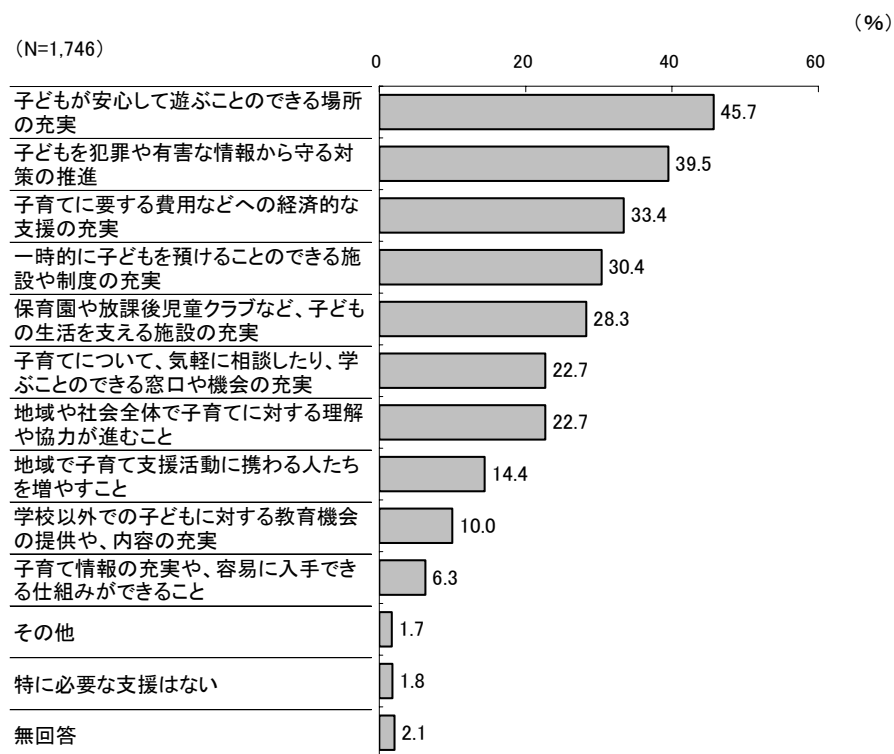
性別にみると、「児童手当などの経済的支援」で、女性に比べ、男性の方が約5ポイント高くなっている。

子どもの状況別にみると、子どもの年齢に係わらず、「児童手当などの経済的支援」が最も高くなっている。また、小学生がいる人だけが、「保育園」よりも「親子で遊べる、学べる場所」が高くなっている。なお、乳幼児・未就学児がいる人の「保育園」が20.5%で、全体の21.9%よりも若干ではあるが低くなっている。



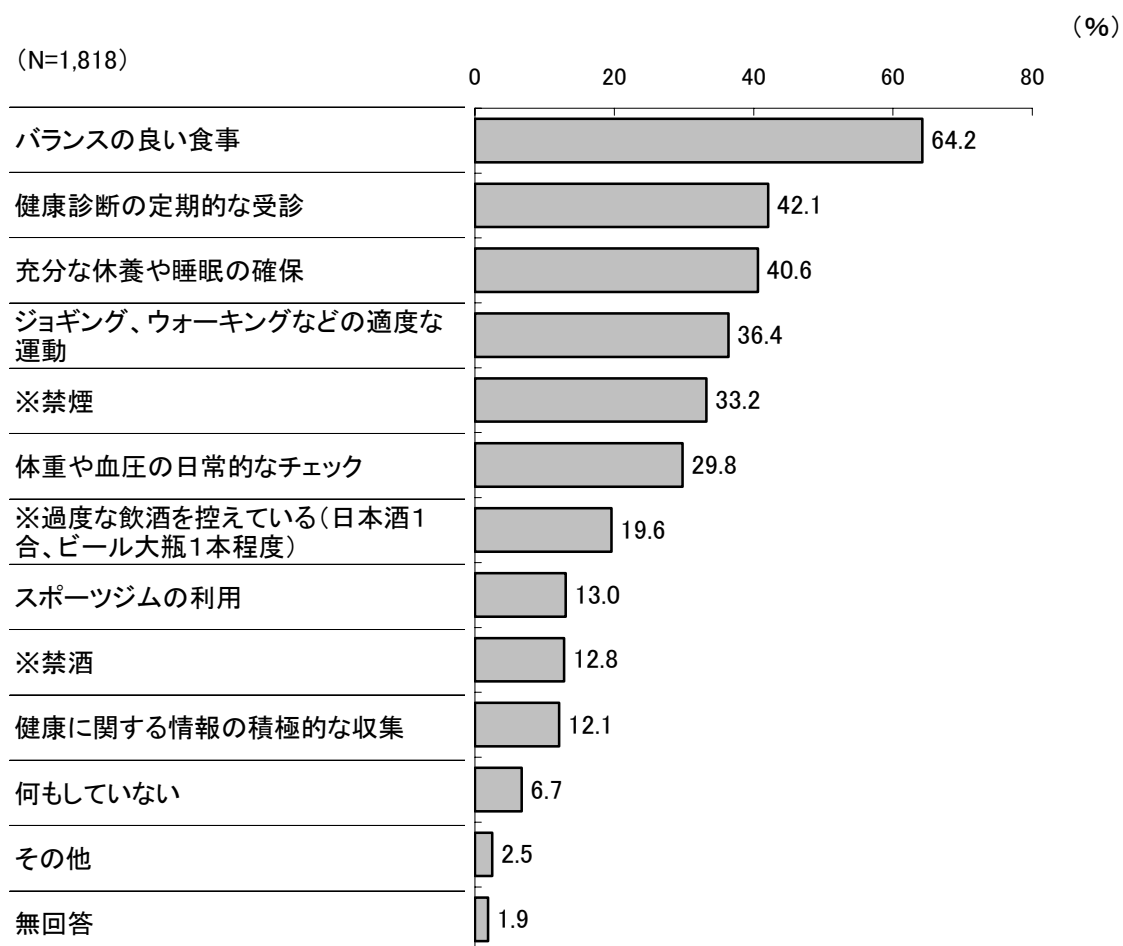
<【参考】平成20年度調査結果との比較>

今回の調査項目と問題形式が異なっているため参考程度であるが、『経済的支援』は平成20年度調査よりも今回の調査では低くなっている。



2) 健康づくりのために取り組んでいること

問12 青葉区では、スポーツ・レクリエーション活動、バランスの良い食生活、禁煙・分煙の推進により、健康で心豊かな暮らしの実現を目指しています。あなたは、健康づくりのために取り組んでいることはありますか。(〇はいくつでも) ※印の項目は20歳以上の方のみお答えください。



POINT

「バランスの良い食事」が6割以上を占め、「健康診断の定期的な受診」、「十分な休養や睡眠時間の確保」が4割台で続く。

一方、「何もしていない」は1割にも満たない。

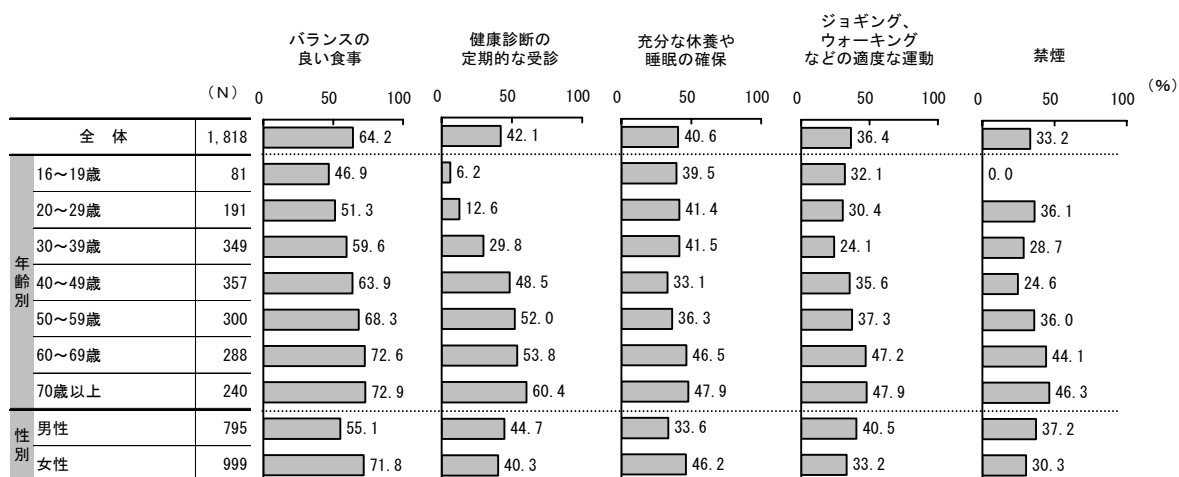
健康づくりのために取り組んでいることは、「バランスの良い食事」が64.2%で最も高く、過半数を占めている。次いで「健康診断の定期的な受診」(42.1%)、「十分な休養や睡眠の確保」(40.6%)、「ジョギング、ウォーキングなどの適度な運動」(36.4%)、「禁煙」(33.2%)、「体重や血圧の日常的なチェック」(29.8%)と続いている。

<年齢別・性別>

年齢別にみると、すべての年齢層で「バランスの良い食事」が最も割合が高くなっており、年齢が高くなるにつれ、その割合が高くなる傾向がみられる。

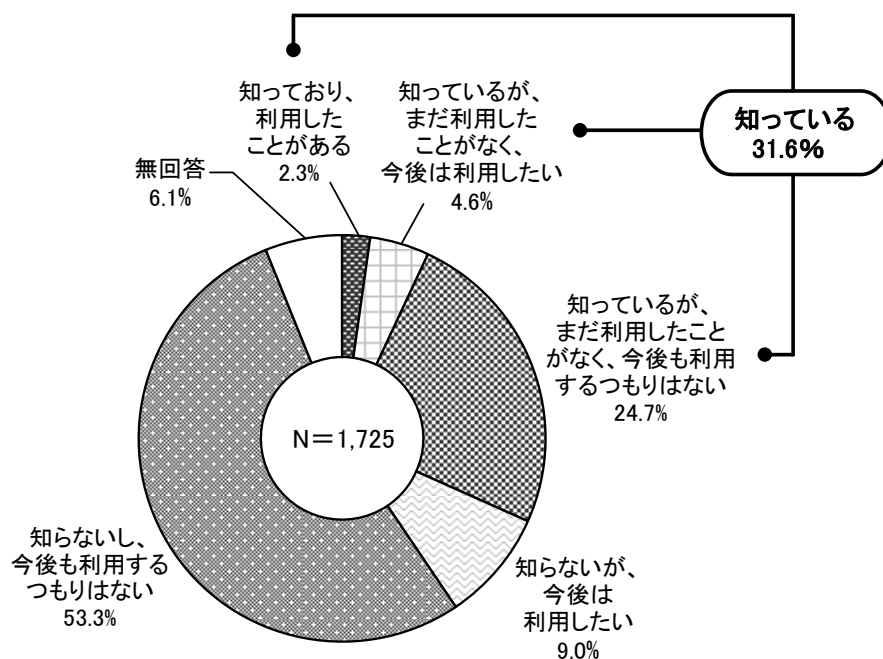
性別にみると、「バランスの良い食事」と「十分な休養や睡眠の確保」の割合が、男性に比べ、女性の方が10ポイント以上高くなっている。

<年齢別・性別：全体の上位5項目>



3) 禁煙教室や禁煙相談、禁煙外来の認知度

問 13 区役所で禁煙教室や禁煙相談を実施しているほか、医療機関では禁煙外来を行っています。あなたは、これらを知っていますか。※20歳以上の方のみお答えください。(○は1つだけ)



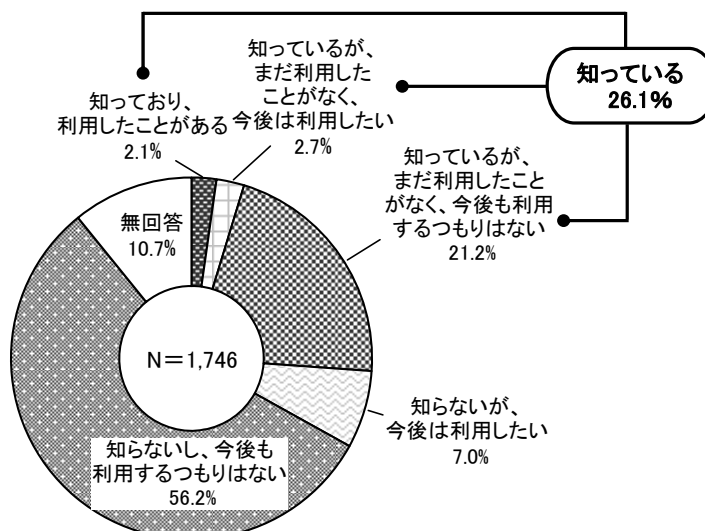
POINT

認知度は『知っている』が約3割と、昨年度よりも高くなっている。
一方、「知らないし、今後も利用するつもりはない」は過半数を占めている。

区役所で行っている禁煙教室や禁煙相談、医療機関での禁煙外来などの認知度は、「知らないし、今後も利用するつもりはない」が53.3%と最も高く、過半数の回答となっている。一方、「知っており、利用したことがある」と「知っているが、まだ利用したことがなく、今後は利用したい」と「知っているが、まだ利用したことがなく、今後も利用するつもりはない」を合わせた『知っている』は31.6%となっている。

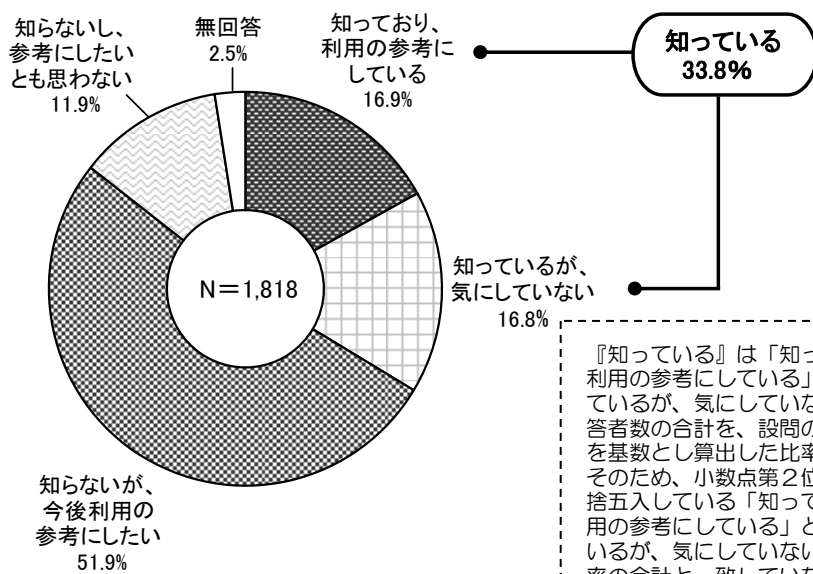
<【参考】平成20年調査結果との比較>

平成20年度調査では、『知っている』は26.1%となっており、今回の調査よりも認知度は低い。



4) 禁煙店、完全分煙店の認証制度の認知度

問 14 青葉区が飲食店や理美容店などの禁煙店や完全分煙店を認証していることを知っていますか。(〇は1つだけ)



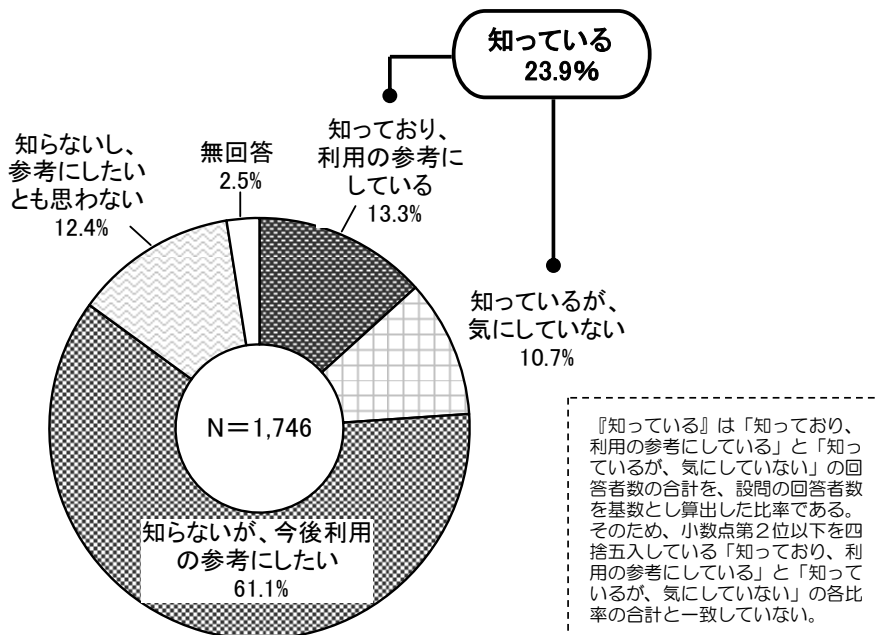
POINT

認知度は『知っている』が3割以上で、昨年度よりも約10ポイント高くなっている。一方、「知らないが、今後の利用の参考にしたい」が過半数を占めている。

禁煙店・完全分煙店の認証の認知度は、「知らないが、今後の利用の参考にしたい」が51.9%と最も高く、過半数の回答となっている。「知っており、利用の参考にしている」と「知っているが、気にしていない」を合わせた『知っている』が33.8%となっている。

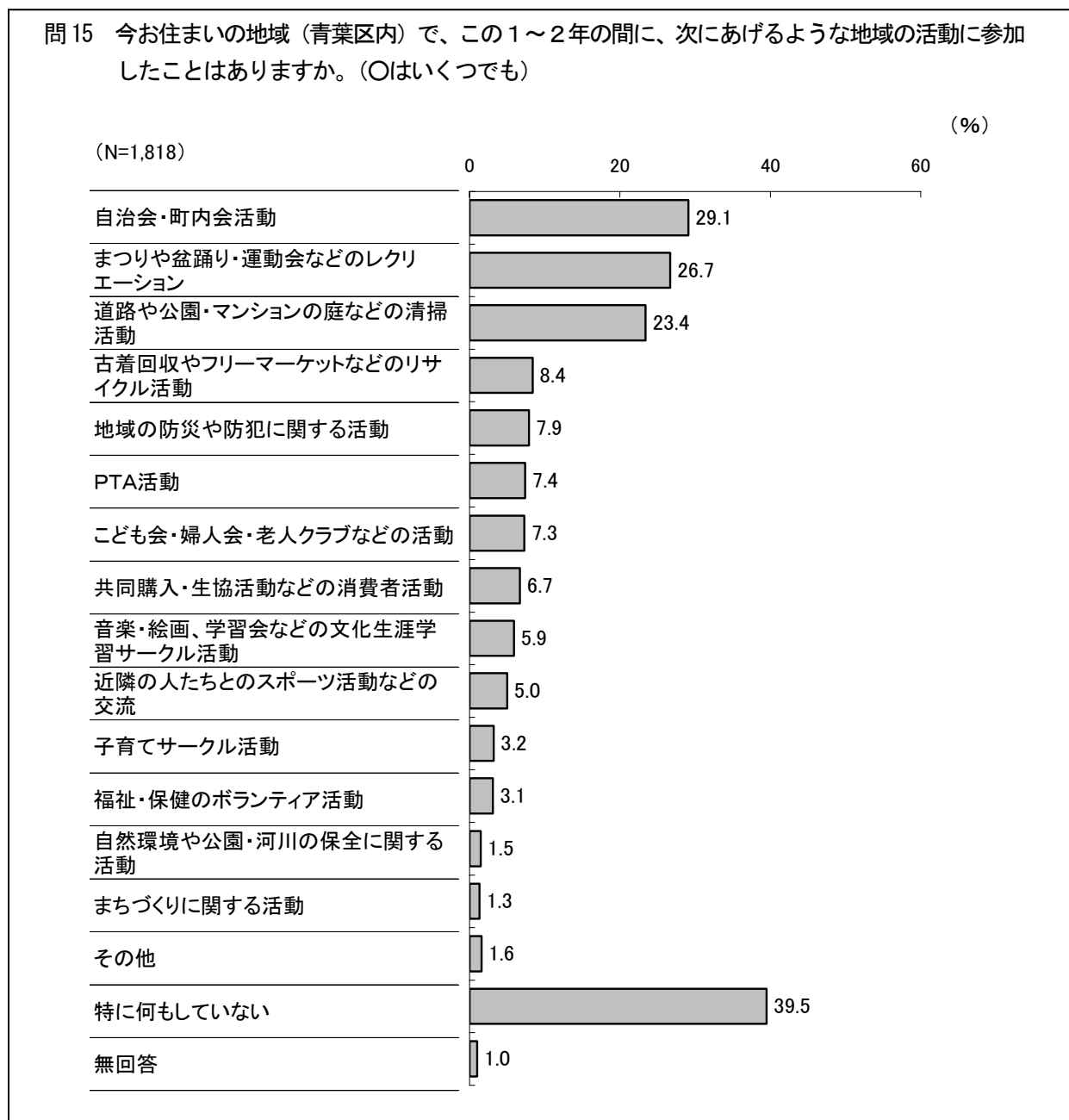
<【参考】平成20年調査結果との比較>

平成20年度調査では、『知っている』が23.9%と、今回の調査の方が認知度は高くなっている。



5 地域活動・地域社会について

1) 地域活動参加経験



POINT

「特に何もしていない」が約4割を占めている。
一方、参加している人の中では、「自治会・町内会活動」が3割弱で最も高い。

地域の活動への参加内容は、「特に何もしていない」が39.5%と最も高く、約4割が地域の活動には参加していない。一方、参加している人の活動内容は、「自治会・町内会活動」(29.1%)、「まつりや盆踊り・運動会などのレクリエーション」(26.7%)、「道路や公園・マンションの庭などの清掃活動」(23.4%)の順となっている。

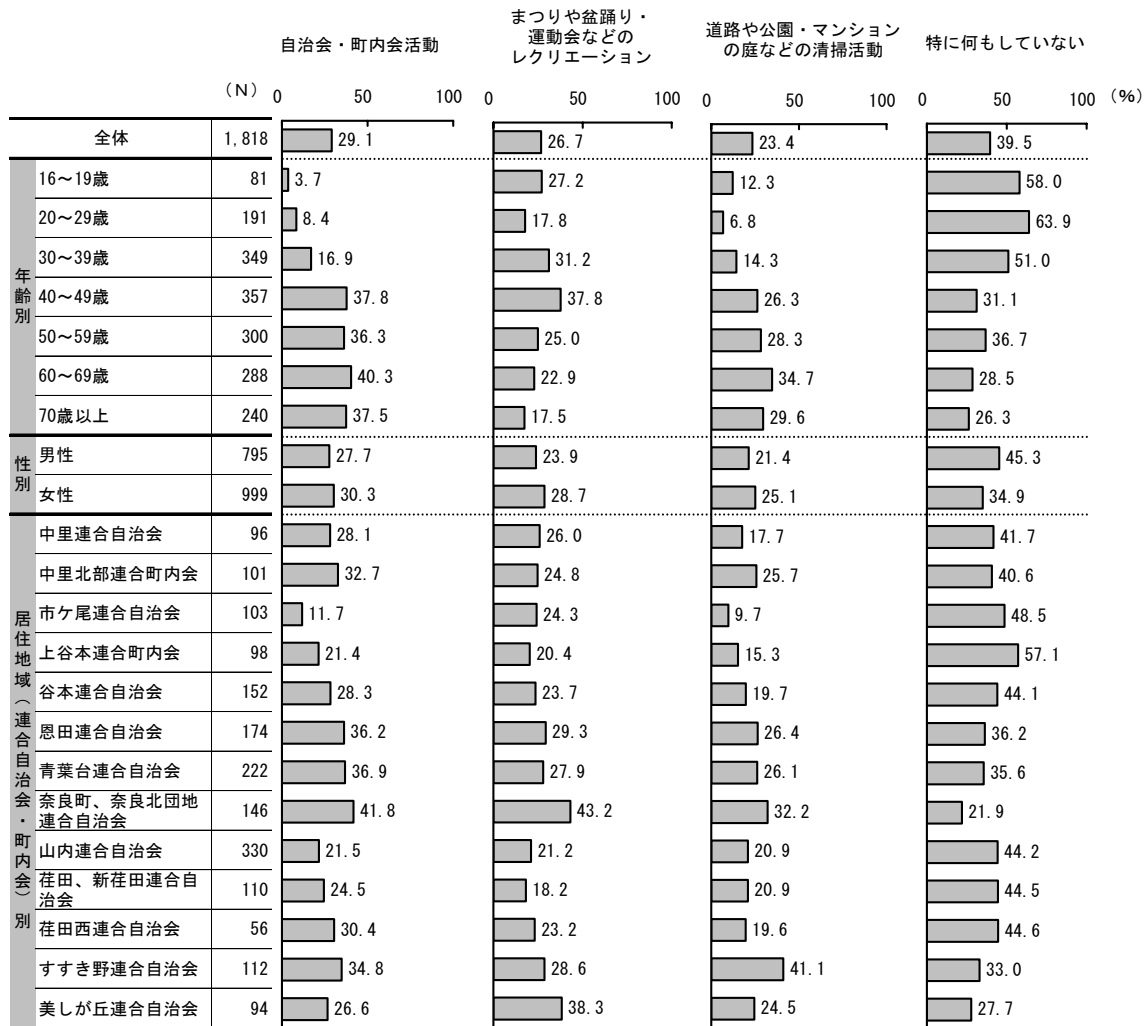
<年齢別・性別・居住地域別>

年齢別にみると、「特に何もしていない」は年齢が高くなるにつれ、割合が低くなる傾向がみられる。活動内容でみると、「自治会・町内会」は60～69歳が約4割と最も高くなっている。また、「まつりや盆踊り・運動会などのレクリエーション」は40歳～49歳が4割近くとなっている。

性別にみると、「特に何もしていない」は女性に比べ、男性が高くなっている。活動内容では、上位3項目の全てで女性の方が男性よりも割合が高くなっている。

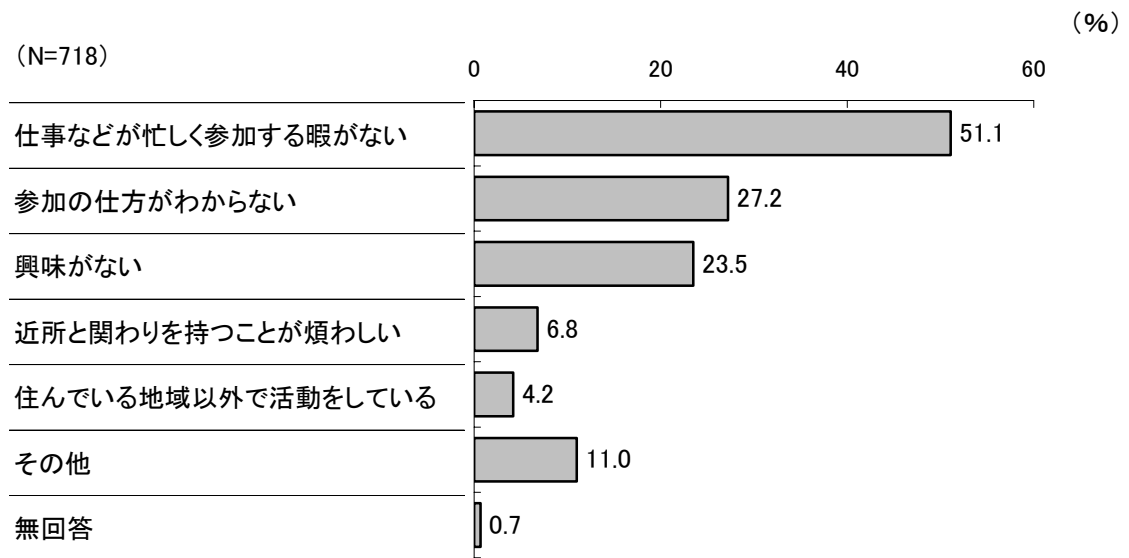
居住地域別にみると、「特に何もしていない」は上谷本連合町内会で過半数を占めている。一方、美しが丘連合自治会と奈良町、奈良北団地連合自治会は3割を下回っている。活動内容でみると、奈良町、奈良北団地連合自治会は上位3項目のいずれも高い割合だった。また、「道路や公園・マンションの庭などの清掃活動」は、すすき野連合自治会が約4割と最も高かった。

<年齢別・性別・居住地域別：全体の活動内容上位3項目と「特に何もしていない」>



(問15で「16. 特に何もしていない」とお答えの方に)

問15-1 特に何もしていない理由は何ですか。(〇は2つまで)



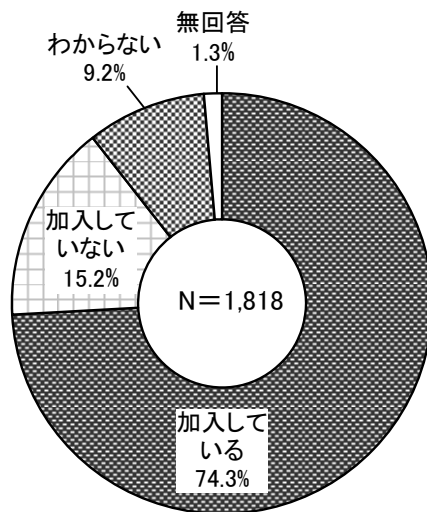
POINT

「仕事などが忙しく参加する暇がない」が過半数を占めている。
一方、参加する意向のない「興味がない」は2割強を占め、「近所と関わりを持つことが煩わしい」は1割未満となっている。

地域の活動について特に何もしていない理由は、「仕事などが忙しく参加する暇がない」が51.1%と最も高く、過半数の回答となっている。次いで「参加の仕方がわからない」(27.2%)、「興味がない」(23.3%)の順となっている。

2) 地域の自治会・町内会へ加入状況

問 16 あなたは、お住まいの地域の自治会・町内会へ加入していますか。(○は1つだけ)



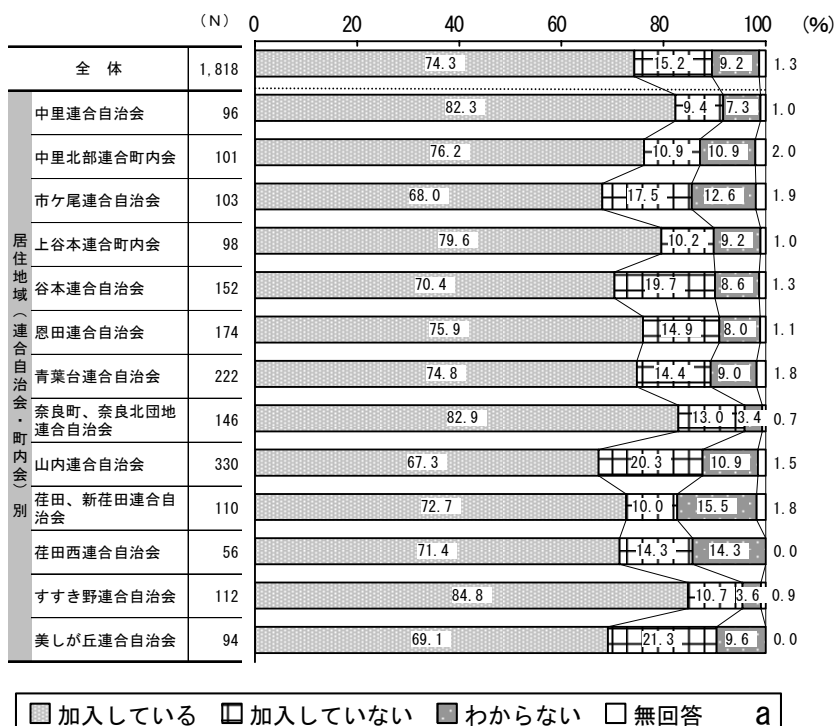
POINT

「加入している」が約4分の3を占めている。
加入状況が「わからない」は約1割となっている。

自治会・町内会への加入状況は、「加入している」が74.3%と約4分の3を占め、「加入していない」は15.2%となっている。

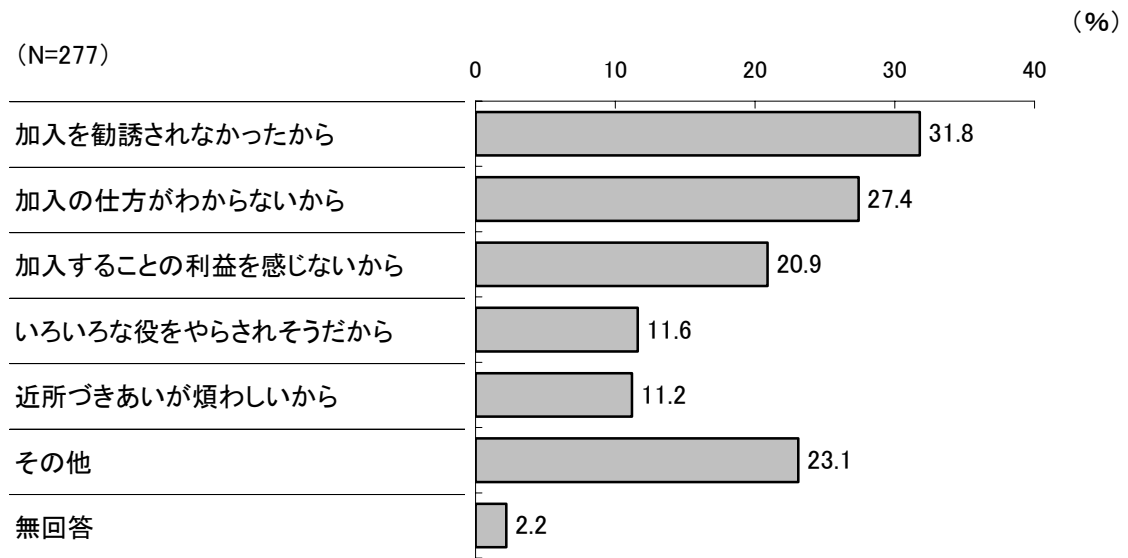
<居住地域別>

居住地域別にみると、すすき野連合自治会と奈良町、奈良北団地連合自治会と中里連合自治会で「加入している」が8割を超えている。一方、「加入していない」は美しが丘連合自治会、山内連合自治会、谷本連合自治会で約2割となっている。



(問16で「2. 加入していない」とお答えの方に)

問16-1 自治会・町内会へ加入していない理由は何ですか。(〇は2つまで)



POINT

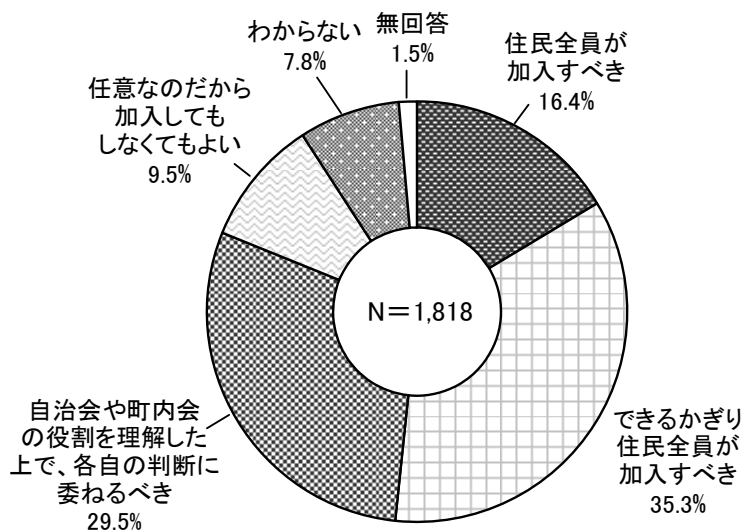
「加入を勧誘されなかったから」と「加入の仕方がわからないから」がそれぞれ3割前後となっている。

自治会・町内会へ加入しない理由は、「加入を勧誘されなかったから」が31.8%で最も高く、次いで「加入の仕方がわからないから」(27.4%)、「加入することの利益を感じないから」(20.9%)の順となっている。

なお、23.1%と高かった「その他」では、「マンションの管理組合が加入していないから」や「仕事や子育てで忙しいから」などの記入があった。

3) 自治会・町内会の加入についての考え

問17 あなたは、自治会・町内会の加入について、どう思いますか。(○は1つだけ)



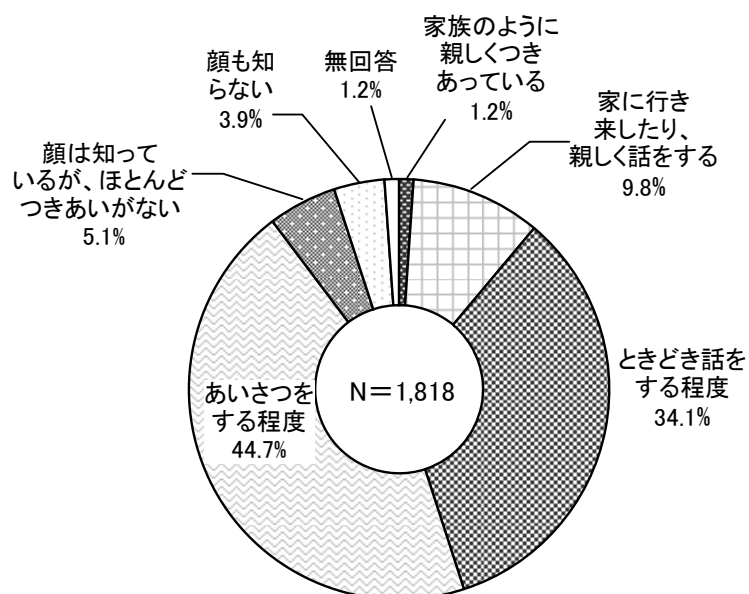
POINT

「住民全員が加入すべき」と「できるかぎり住民全員が加入すべき」の2項目で、過半数を占めている。

自治会・町内会の加入については、「できるかぎり住民全員が加入すべき」が35.3%で最も高く、次いで「自治会や町内会の役割を理解した上で、各自の判断に委ねるべき」(29.5%)、「住民全員が加入すべき」(16.4%)の順となっている。

4) 普段の近所づきあい

問 18 あなたは、普段、近所づきあいをどの程度していますか。(○は1つだけ)



POINT

「あいさつをする程度」と「ときどき話をする程度」がそれぞれ3割以上となっている。
 「家族のように親しくつきあっている」と「家に行き来したり、親しく話をする」の合計は1割程度となっている。

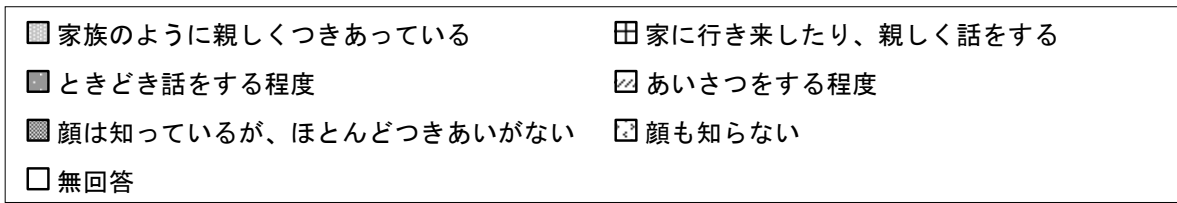
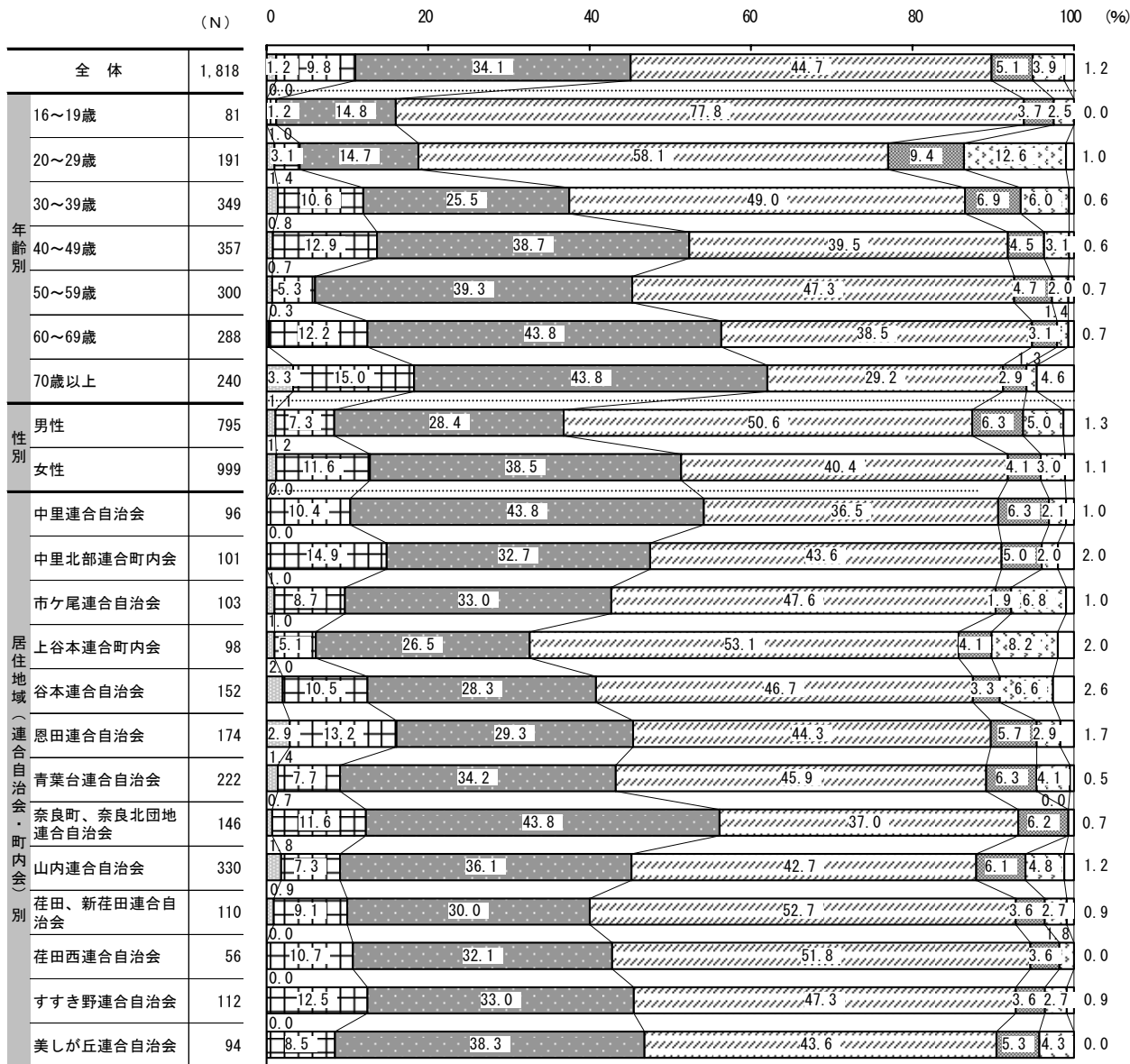
近所づきあいの程度は、「あいさつをする程度」が44.7%と最も高い。次いで、「ときどき話をする程度」が34.1%となっており、上位2項目で約8割の回答を占めている。

<年齢別・性別・居住地域別>

年齢別にみると、16～19歳から50～59歳まででは「あいさつをする程度」が最も高くなっている。一方、60～69歳と70歳以上では「ときどき話をする程度」が最も割合が高くなっている。

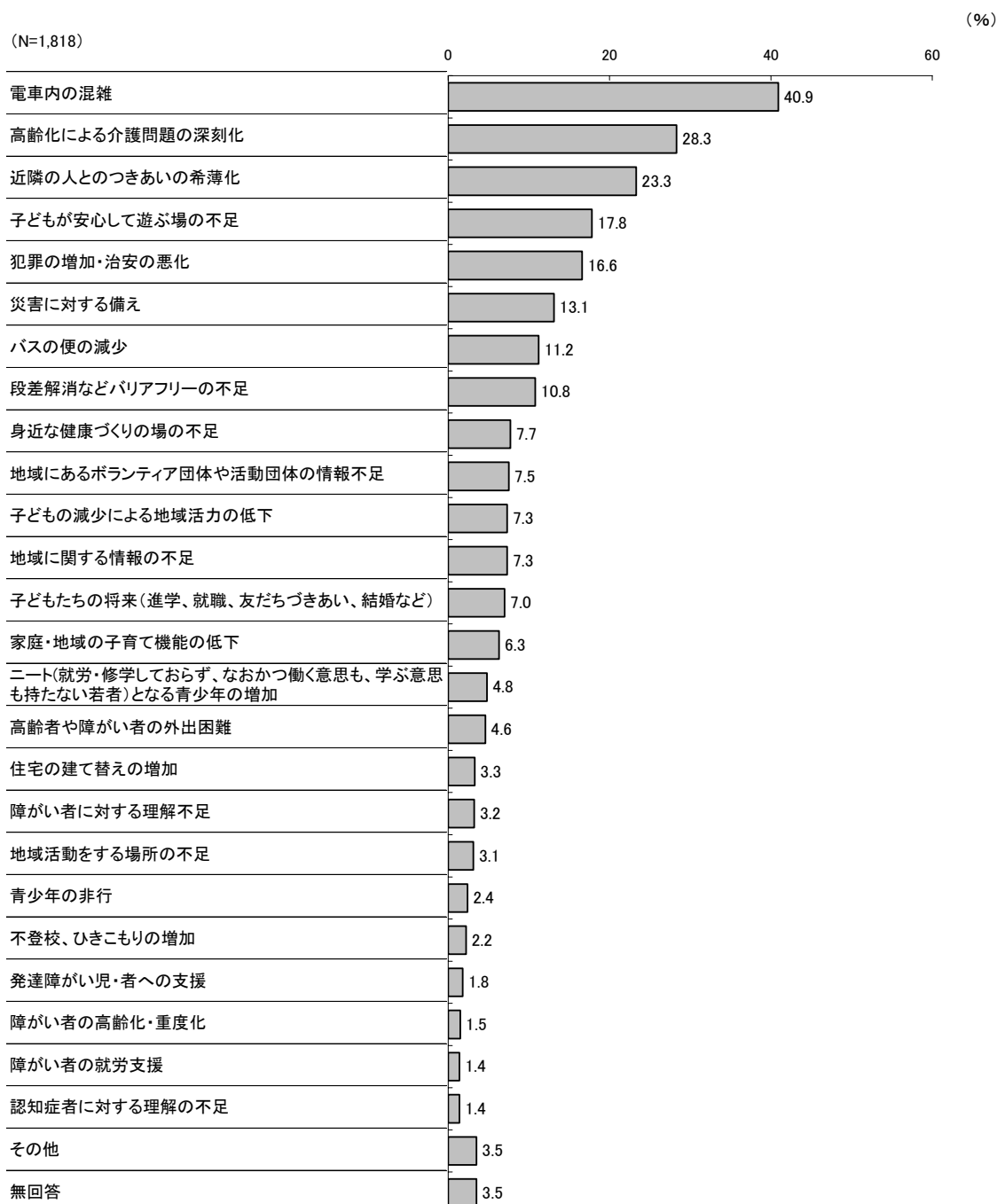
性別にみると、男性、女性ともに「あいさつをする程度」が最も高くなっているが、女性では「ときどき話をする程度」とほぼ同じ割合となっている。

居住地域別にみると、中里連合自治会と奈良町、奈良北団地連合自治会は、「あいさつをする程度」よりも「ときどき話をする程度」の割合が高くなっている。



5) 居住地域の現在の課題・問題

問 19 あなたの住んでいる地域には、現在、どんな課題や問題があると感じますか。(〇は3つまで)



POINT

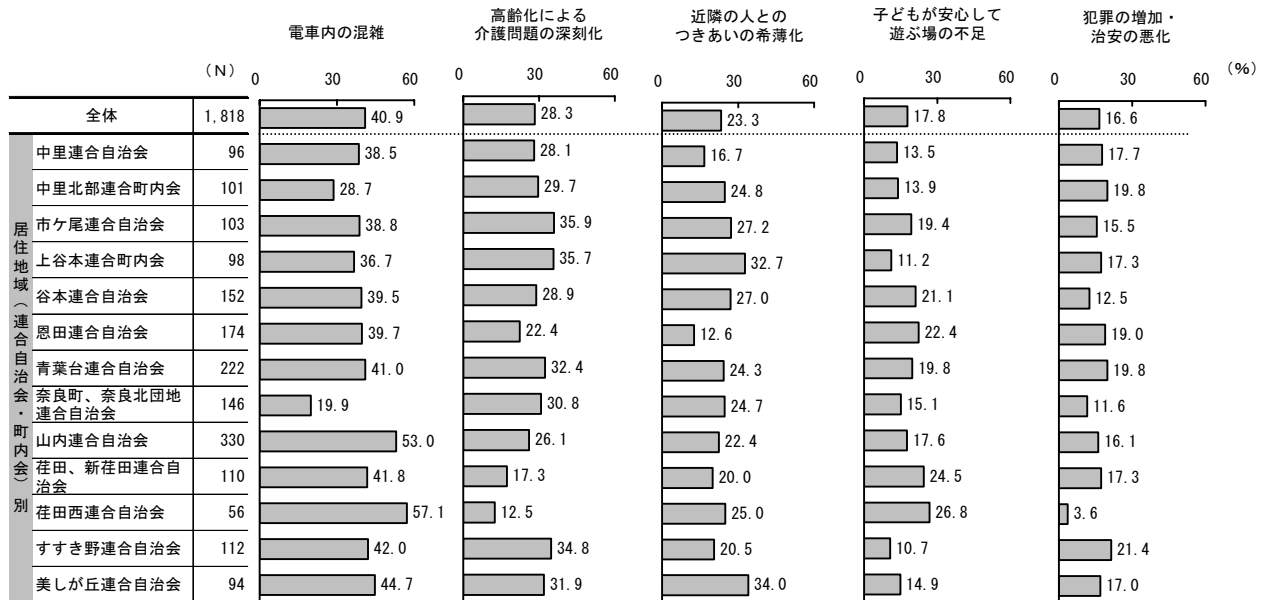
現在における最大の課題は、「電車内の混雑」で約4割となっている。「高齢化による介護問題の深刻化」、「近隣の人とのつきあいの希薄化」が2割台で続く。

現在の居住地域の課題や問題は、「電車内の混雑」が40.9%と最も高く、次いで「高齢化による介護問題の深刻化」(28.3%)、「近隣の人とのつきあいの希薄化」(23.3%)の順となっている。

<居住地域別>

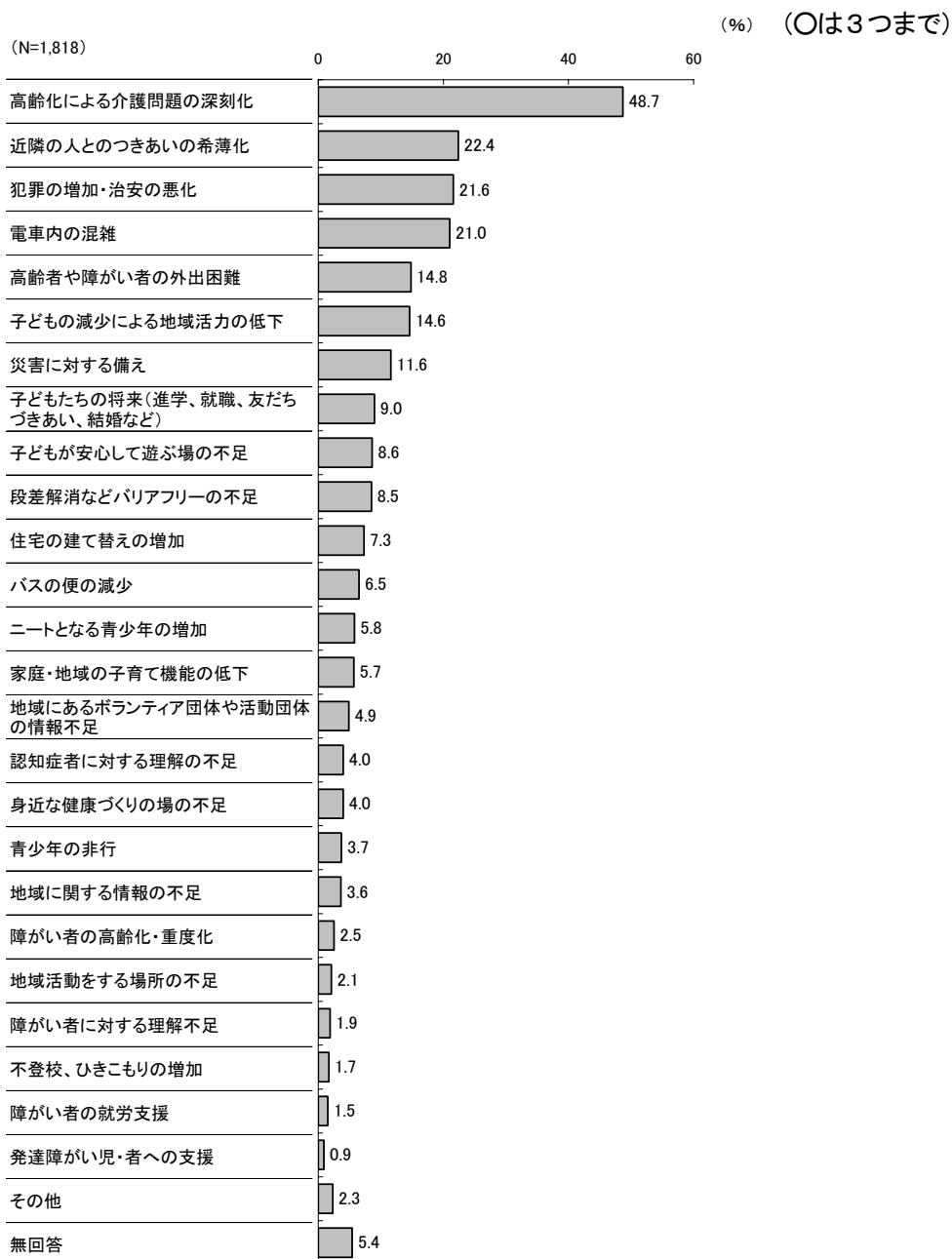
居住地域別にみると、「電車内の混雑」は、荏田西連合自治会と山内連合自治会で過半数を占めている。また、「近隣の人とのつきあいの希薄化」は美しが丘連合自治会と上谷本連合町内会が3割を超えている。

<居住地域別：全体の上位5項目>



6) 居住地域の将来の課題・問題

問20 あなたの住んでいる地域では、将来、どんなことが課題や問題になると思いますか。



POINT

「高齢化による介護問題の深刻化」が約5割を占める。「近隣の人とのつきあいの希薄化」、「犯罪の増加・治安の悪化」、「電車内の混雑」が2割台で続く。

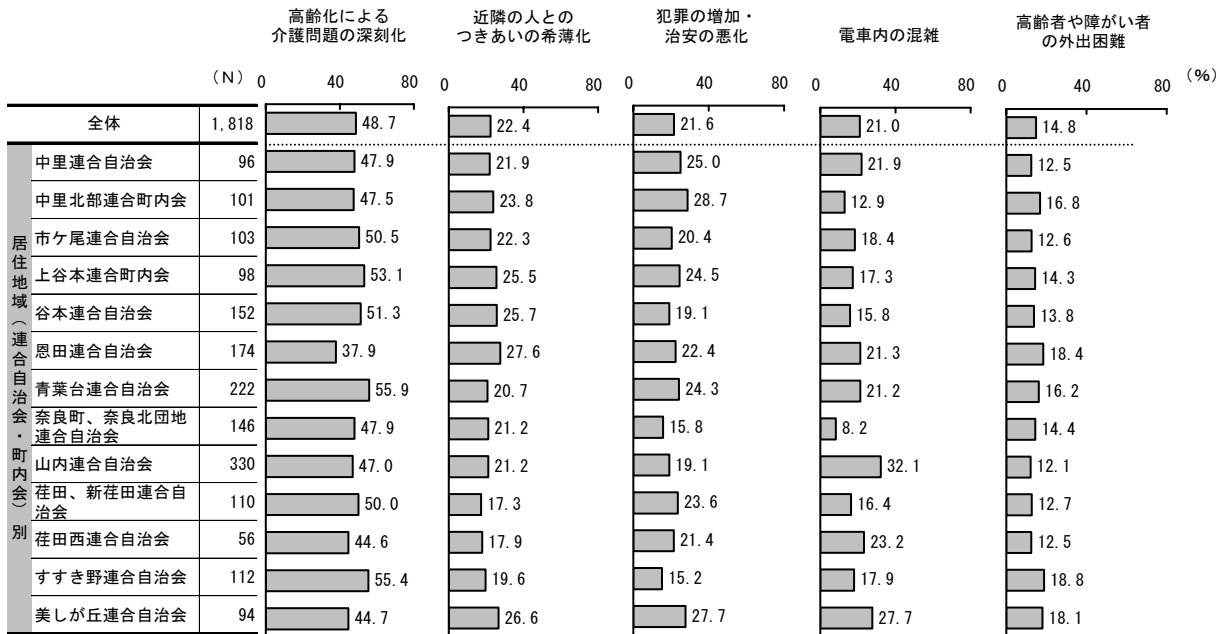
将来の居住地域の課題や問題は、「高齢化による介護問題の深刻化」が48.7%で最も高く、約半数の回答を占めている。次いで「近隣の人とのつきあいの希薄化」(22.4%)、「犯罪の増加・治安の悪化」(21.8%)、「電車内の混雑」(21.0%)の順となっている。

「高齢化による介護問題の深刻化」(48.7%)は、現在の課題や問題(28.3%、47ページ参照)よりも20.4ポイントも高くなっている。

<居住地域別>

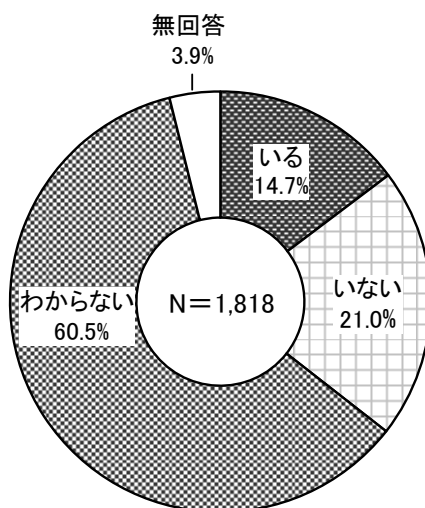
居住地域別にみると、「高齢化による介護問題の深刻化」は、ほとんどの地域で半数近い割合なのに対し、恩田連合自治会では4割に満たない。また、「犯罪の増加・治安の悪化」は、中里北部連合町内会と美しが丘連合自治会では2割台後半と、他の地域よりも高くなっている。

<居住地域別：全体の上位5項目>



7) 就労に係る問題を抱えた若者が近所にいるか

問21 若者の就労に関する環境については、社会・経済状況や個々の心に起因するものなど、様々な問題があります。あなたの近所に、このような問題をかかえた方がいらっしゃいますか。
(○は1つだけ)



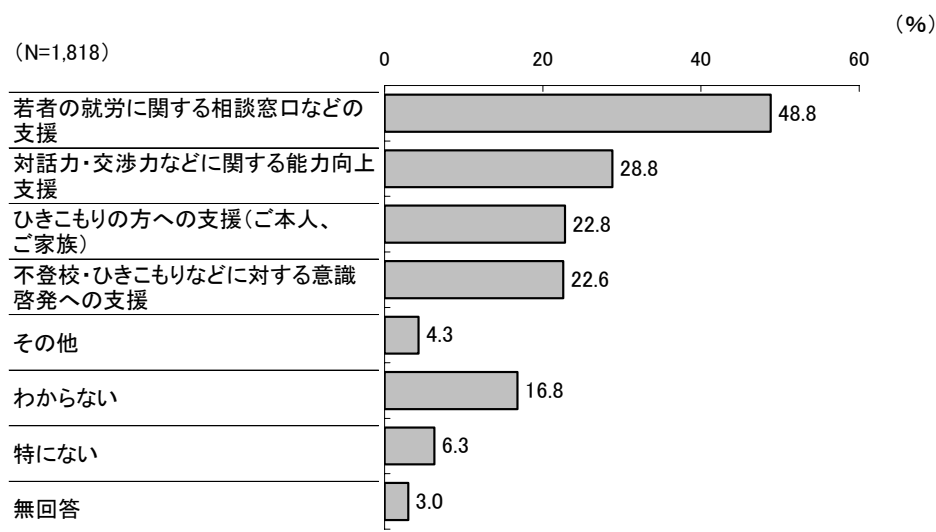
POINT

「いる」は1割台半ばとなっている。
いるかどうか「わからない」が約6割を占める。

就労に問題を抱えた若者が近所にいるかどうかについては、「わからない」が60.5%で最も高い。一方、「いる」は14.7%で、「いない」(21.0%)を少し下回っている。

8) 青少年の自立支援事業で重視すべきこと

問22 青葉区では若者キャリア相談や対話力・交渉力養成講座など青少年の自立支援のための事業を行っています。今後、どのような点を重視していくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



POINT

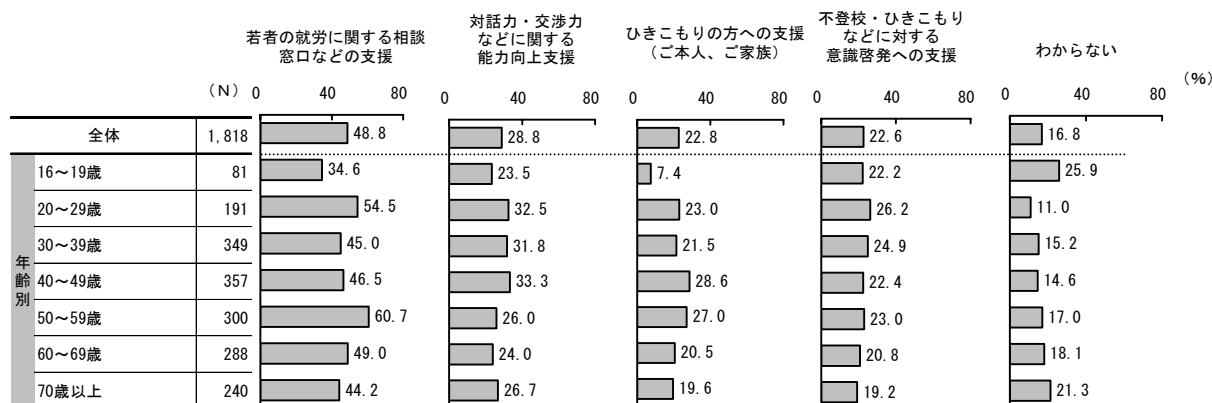
「若者の就労に関する相談窓口などの支援」が約半数を占める。
 「対話力・交渉力などに関する能力向上支援」、「ひきこもりの方への支援(ご本人、ご家族)」、「不登校・ひきこもりなどに対する意識啓発への支援」が2割台で続く。

青葉区で行っている青少年の自立支援のための事業で重視すべき点については、「若者の就労に関する相談窓口などの支援」が48.8%で最も高く、次いで「対話力・交渉力などに関する能力向上支援」(28.8%)、「ひきこもりの方への支援(ご本人、ご家族)」(22.8%)、「不登校・ひきこもりなどに対する意識啓発への支援」(22.6%)の順となっている。

<年齢別>

年齢別にみると、「若者の就労に関する相談窓口などの支援」は、20～29歳と50～59歳で過半数を占めている。また、「ひきこもりの方への支援(ご本人、ご家族)」は、ほとんどの年齢層で2割前後となっているのに対し、16～19歳では1割に満たない。

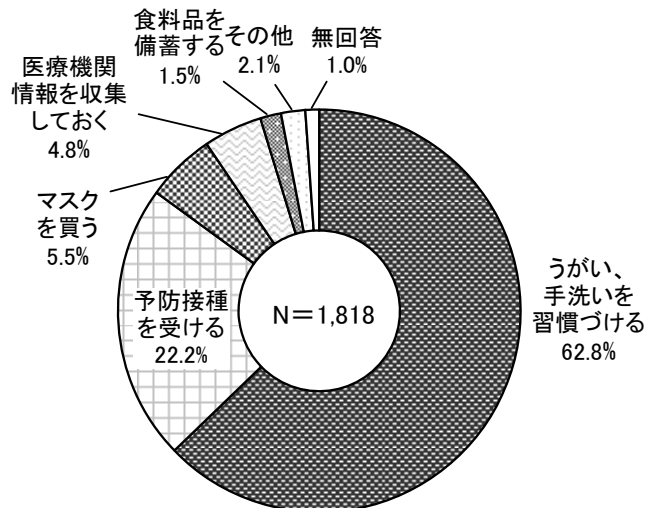
<年齢別：全体の上位5項目>



6 危機管理について

1) 新型インフルエンザの予防対策

問 23 秋から冬にかけて、新型インフルエンザの感染者が再び増えるとの予測もありますが、あなたは、今後、どのような対策を取りますか。(〇は1つだけ)

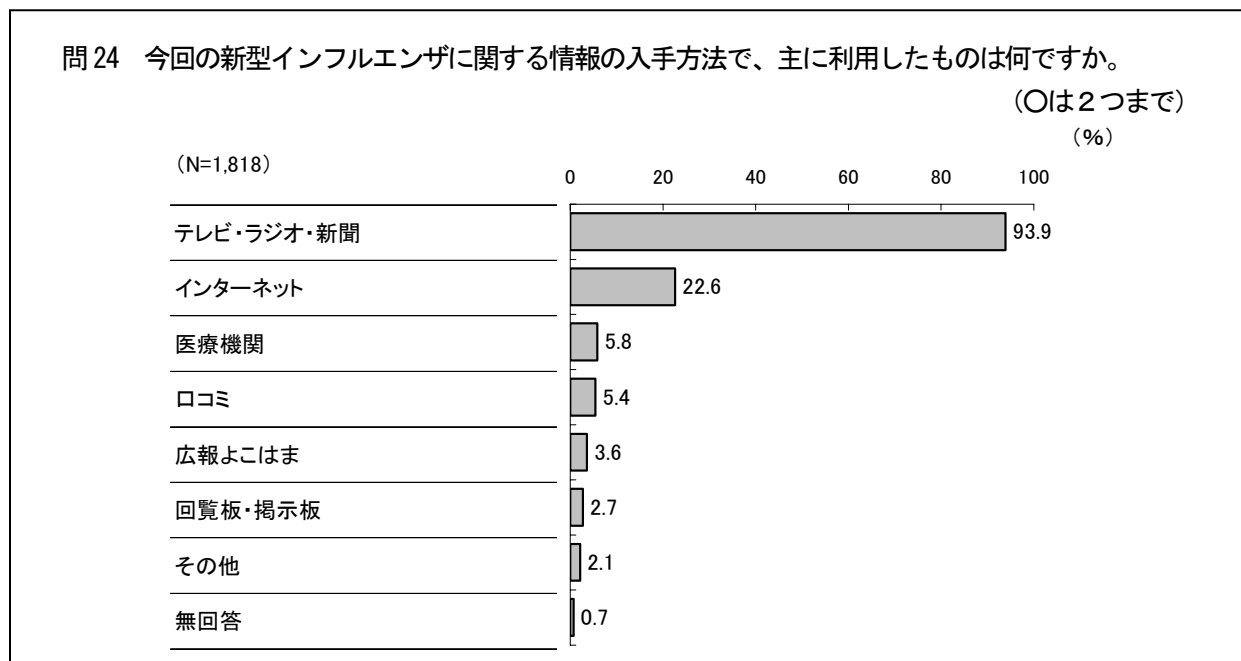


POINT

「うがい、手洗いを習慣づける」が約6割を占め、「予防接種を受ける」よりも生活習慣による対策を取ると考える人が多い。

新型インフルエンザに対する対策は、「うがい、手洗いを習慣づける」が62.8%で最も高い。次いで「予防接種を受ける」が22.2%でとなっており、上位2項目で8割半ばを占めている。

2) 新型インフルエンザ情報の入手方法



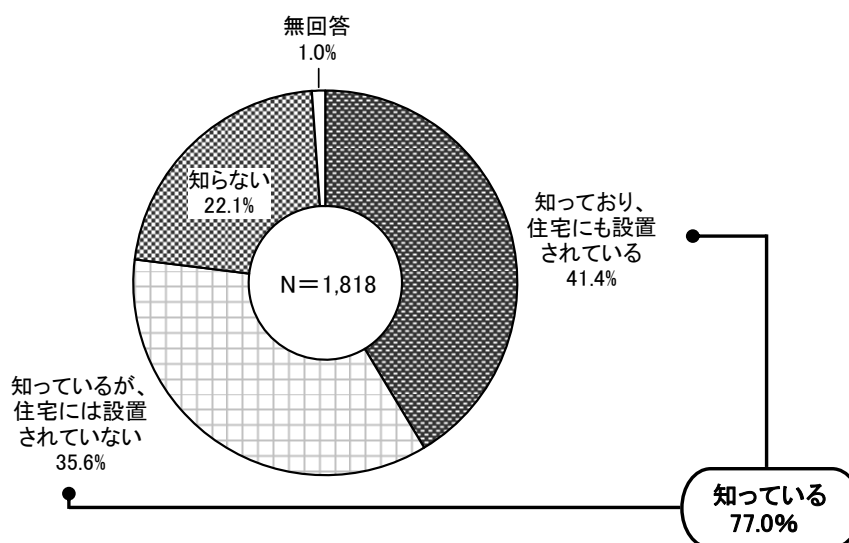
POINT

新型インフルエンザに関する情報は、「テレビ・ラジオ・新聞」で入手した人が9割を超える。「インターネット」は約2割となっている。

新型インフルエンザに関する情報の入手方法で利用したものは、「テレビ・ラジオ・新聞」が93.9%で最も高く、ほとんどが「テレビ・ラジオ・新聞」を利用して情報を得ている。次いで「インターネット」が22.6%で続いている。

3) 住宅用火災警報器設置義務の認知度

問25 一戸建ての住宅や小規模アパートでも住宅用火災警報器の設置が義務付けられたことを知っていますか。(○は1つだけ)



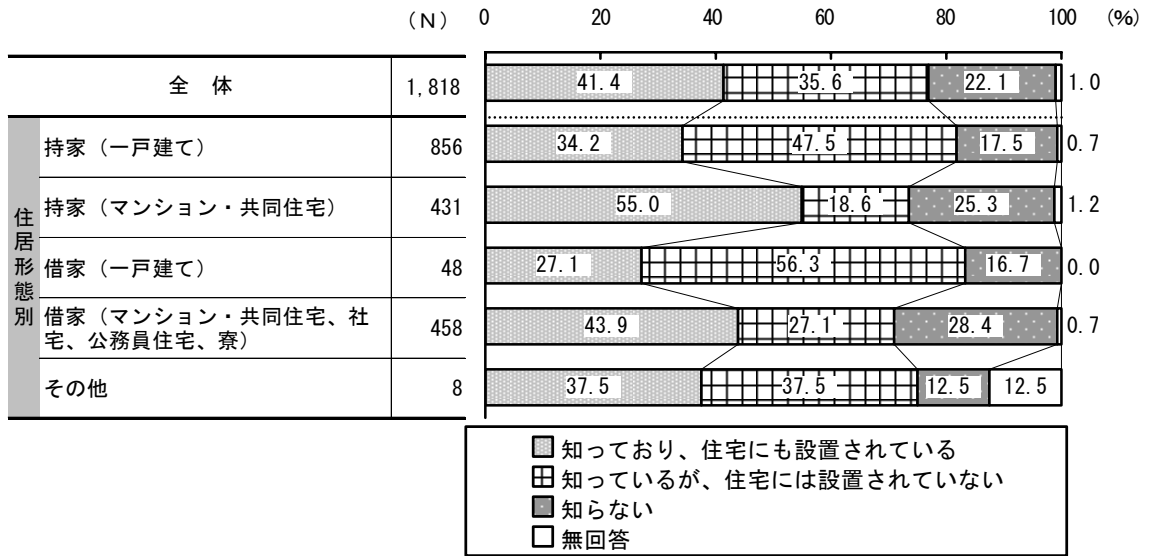
POINT

認知度は『知っている』が7割台半ばを占める。
「知っており、住宅にも設置されている」は約4割となっている。

住宅用火災警報器の設置義務の認知度は、「知っており、住宅にも設置されている」が41.4%で最も高く、「知っているが、住宅には設置されていない」(35.6%)と合わせた『知っている』は、77.0%と、約4分の3が設置する義務があることを知っていた。

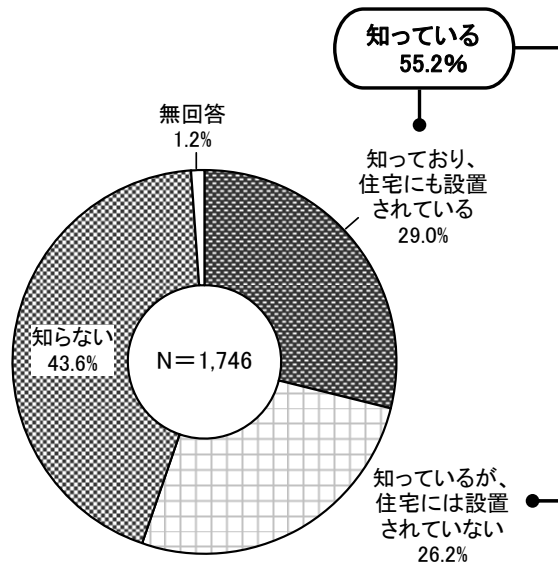
<住居形態別>

住居形態別にみると、『知っている』は、一戸建てでは8割を超えているのに対し、マンション等では8割未満となっている。しかし、設置状況でみると、マンション等では「知っており、住宅にも設置されている」が「知っているが、住宅には設置されていない」よりも高くなっているのに対し、一戸建てでは、「知っているが、住宅には設置されていない」が「知っており、住宅にも設置されている」よりも高くなっている。



<【参考】平成20年度調査結果との比較>

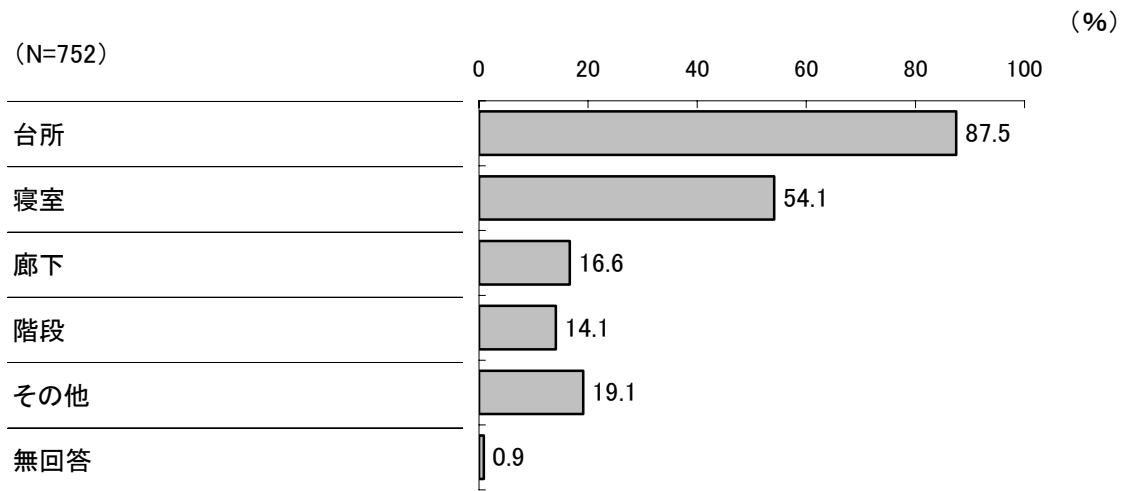
平成20年度調査では、『知っている』は55.2%で、今回の調査の方が約20ポイントも高くなっている。



(問25で「1. 知っており、住宅にも設置されている」とお答えの方に)

問25-1 住宅用火災警報器をあなたの住宅のどの場所に設置されていますか。

(〇はいくつでも)



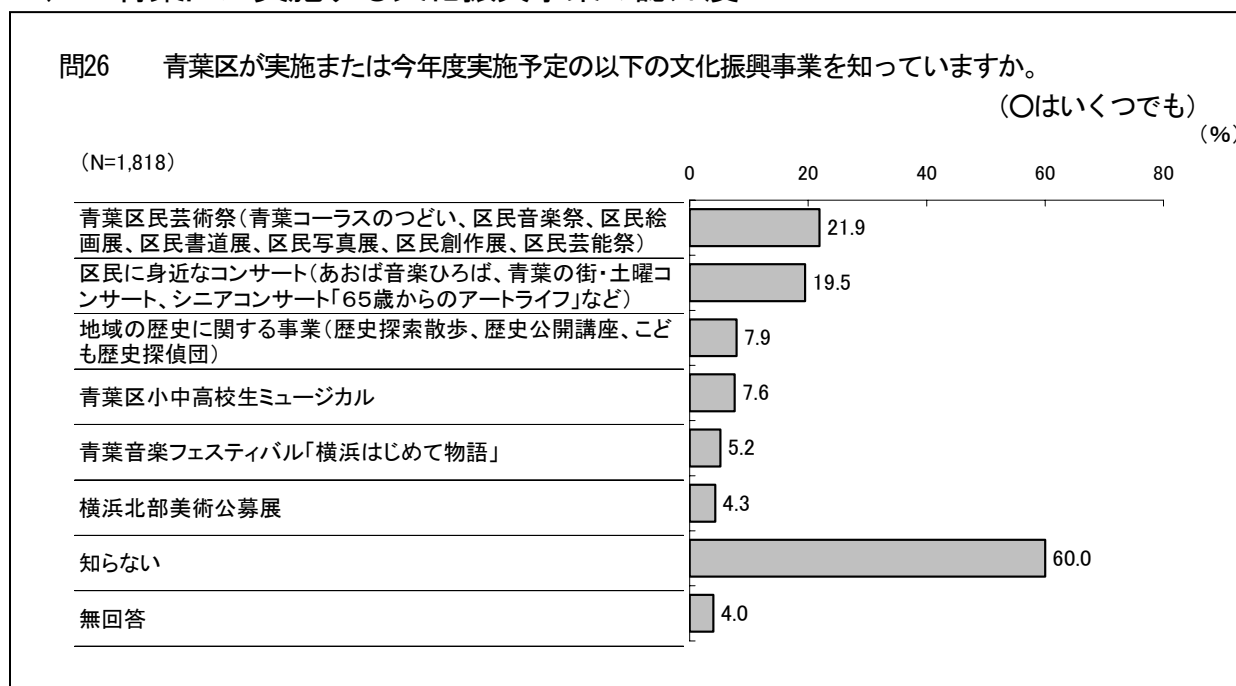
POINT

住宅用火災警報器が設置されている場所は、「台所」で8割以上を占め、「寝室」が5割台半ばで続く。

住宅用火災警報器の設置場所については、「台所」が87.5%で最も高い。次いで「寝室」(54.1%)となっている。

7 文化振興事業について

1) 青葉区が実施する文化振興事業の認知度



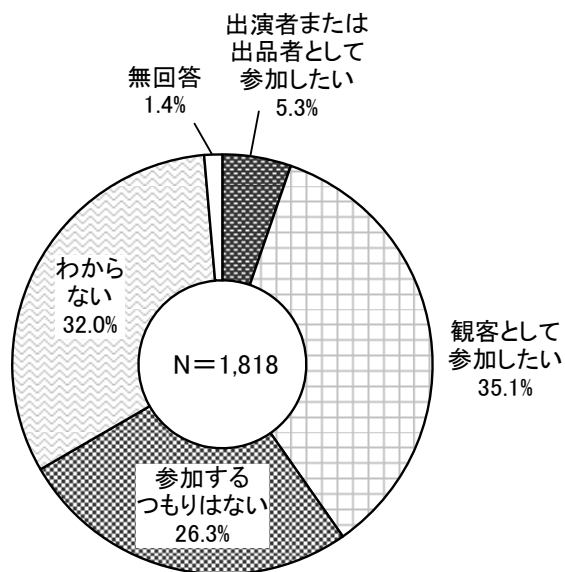
POINT

認知度は「知らない」が6割を占める。
知っている文化振興事業は、「青葉区民芸術祭」と「区民に身近なコンサート」がそれぞれ2割前後となっている。

今年度実施予定の文化振興事業の認知度は、「知らない」が60.0%で最も高い。一方、知っている人の回答では、「青葉区民芸術祭(青葉コーラスのつどい、区民音楽祭、区民絵画展、区民書道展、区民写真展、区民創作展、区民芸能祭)」(21.9%)、「区民に身近なコンサート(あおば音楽ひろば、青葉の街・土曜コンサート、シニアコンサート「65歳からのアートライフ」など)」(19.5%)がそれぞれ2割前後となっている。

2) 文化振興事業に参加したいか

問 27 青葉区が実施している文化振興事業へ参加したいと思いますか。(○は1つだけ)



POINT

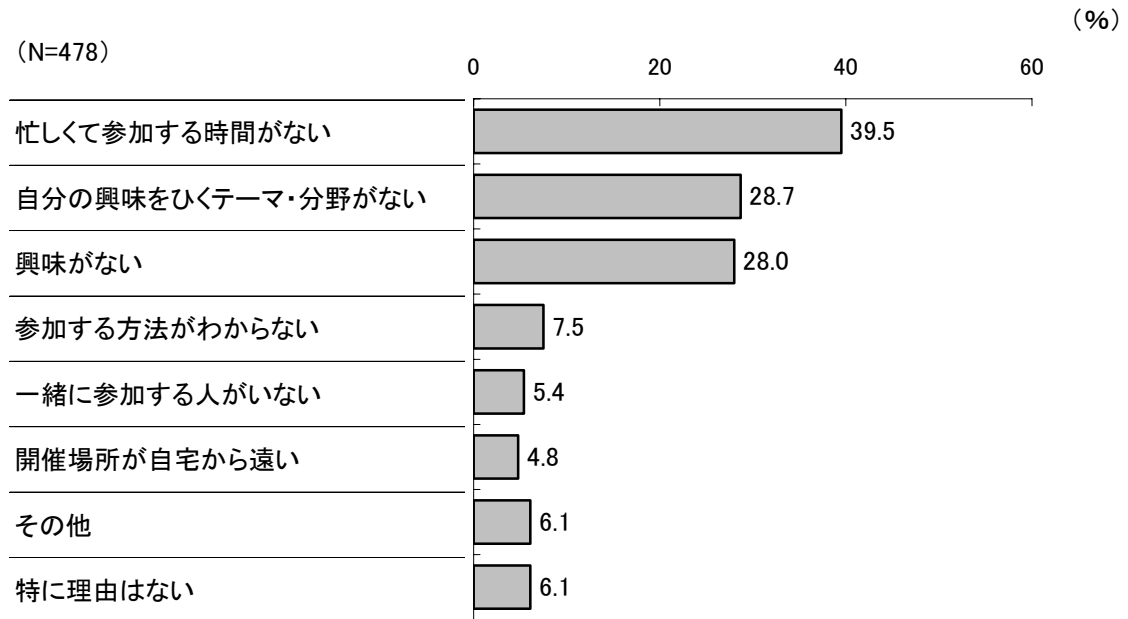
参加意向のある人は約4割で、そのほとんどが「観客として参加したい」と考えている。一方、「参加するつもりはない」は2割台半ばとなっている。

文化振興事業への参加意向は、「観客として参加したい」が35.1%で最も高く、「出演者または出品者として参加したい」(5.3%)と合わせてみると、参加意向のある人は約4割となっている。

一方、「参加するつもりはない」は26.3%となっている。

(問27で「3. 参加するつもりはない」とお答えの方に)

問27-1 参加するつもりがない理由は何ですか。(〇は2つまで)



POINT

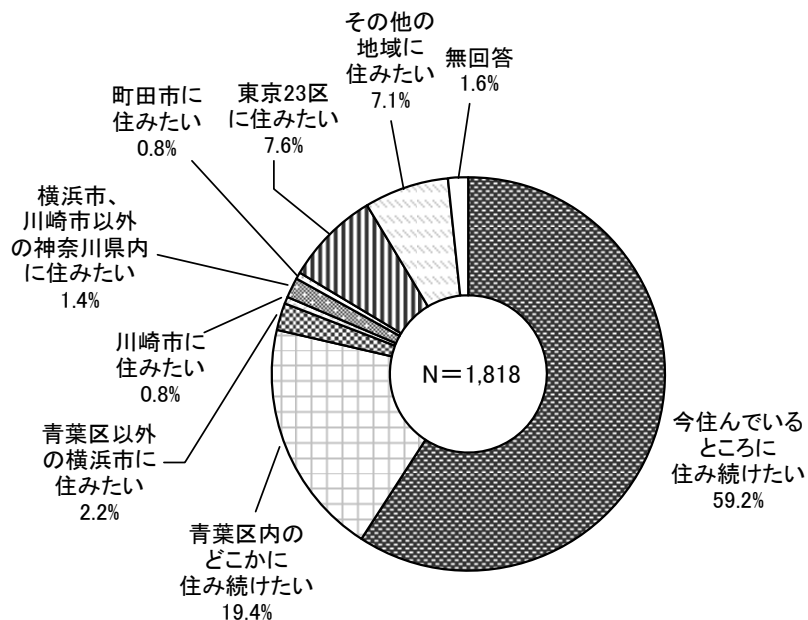
「忙しくて参加する時間がない」が約4割を占める。「自分の興味をひくテーマ・分野がない」と「興味がない」がそれぞれ3割弱で続く。

文化振興事業に参加するつもりがない理由については、「忙しくて参加する時間がない」が39.5%で最も高く、次いで「自分の興味をひくテーマ・分野がない」(28.7%)、「興味がない」(28.0%)がそれぞれ3割弱で続いている。

8 青葉区への定住意向について

1) 青葉区での継続居住意向

問 28 あなたは青葉区に住み続けたいと思いますか。(〇は1つだけ)



POINT

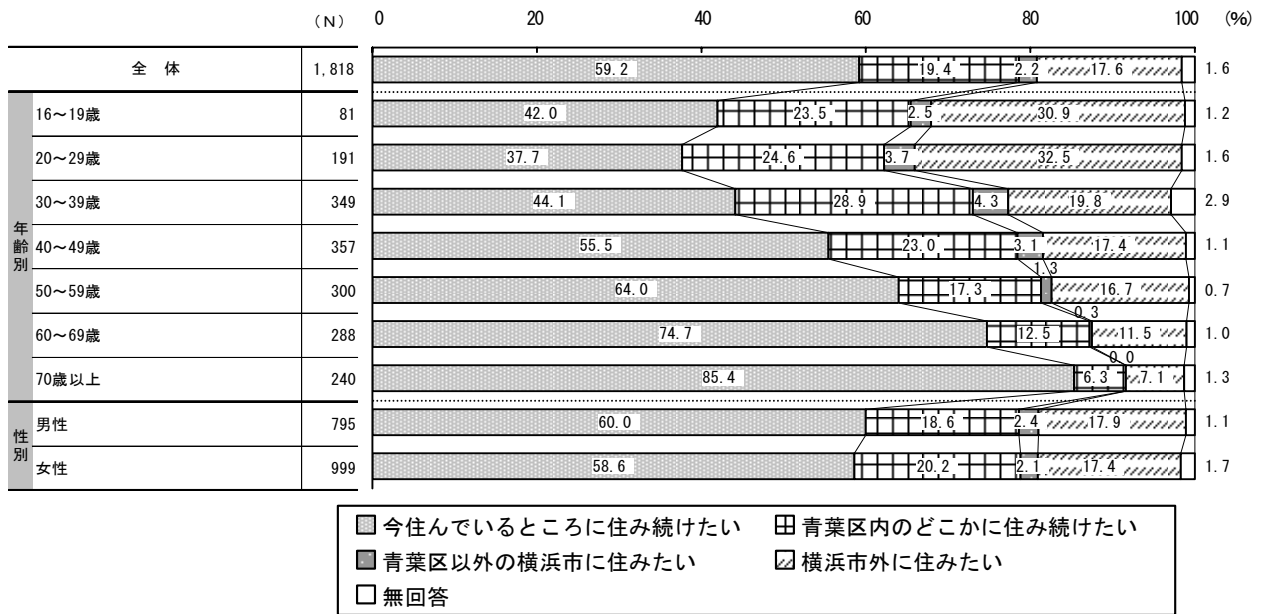
青葉区に定住意向のある人は約8割と、昨年度と同様に高い水準を保っている。

青葉区への定住意向は、「今住んでいるところに住み続けたい」が59.2%で約6割を占めている。次いで「青葉区内のどこかに住み続けたい」が19.4%で続いており、青葉区に住み続けたいという人の割合が約8割となっている。

<年齢別・性別>

年齢別にみると、「今住んでいるところに住み続けたい」は、年齢が高くなるにつれ、割合が高くなる傾向がみられる。一方、年齢が低くなるにつれ、「青葉区内のどこかに住み続けたい」と、横浜市以外の地域に住みたいと考える人の割合が高くなっている。

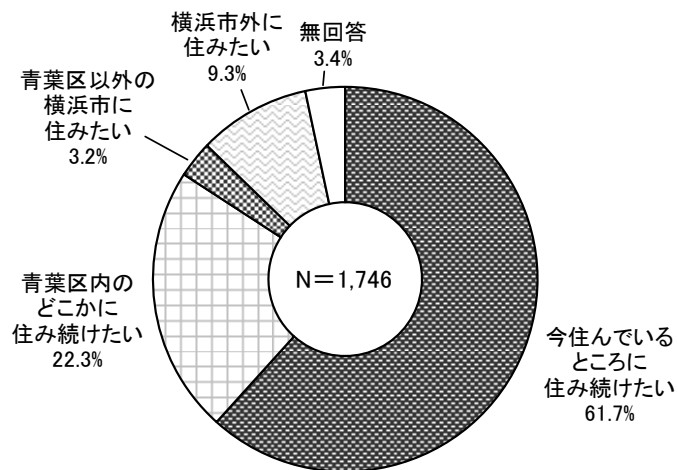
性別による差はほとんどみられなかった。



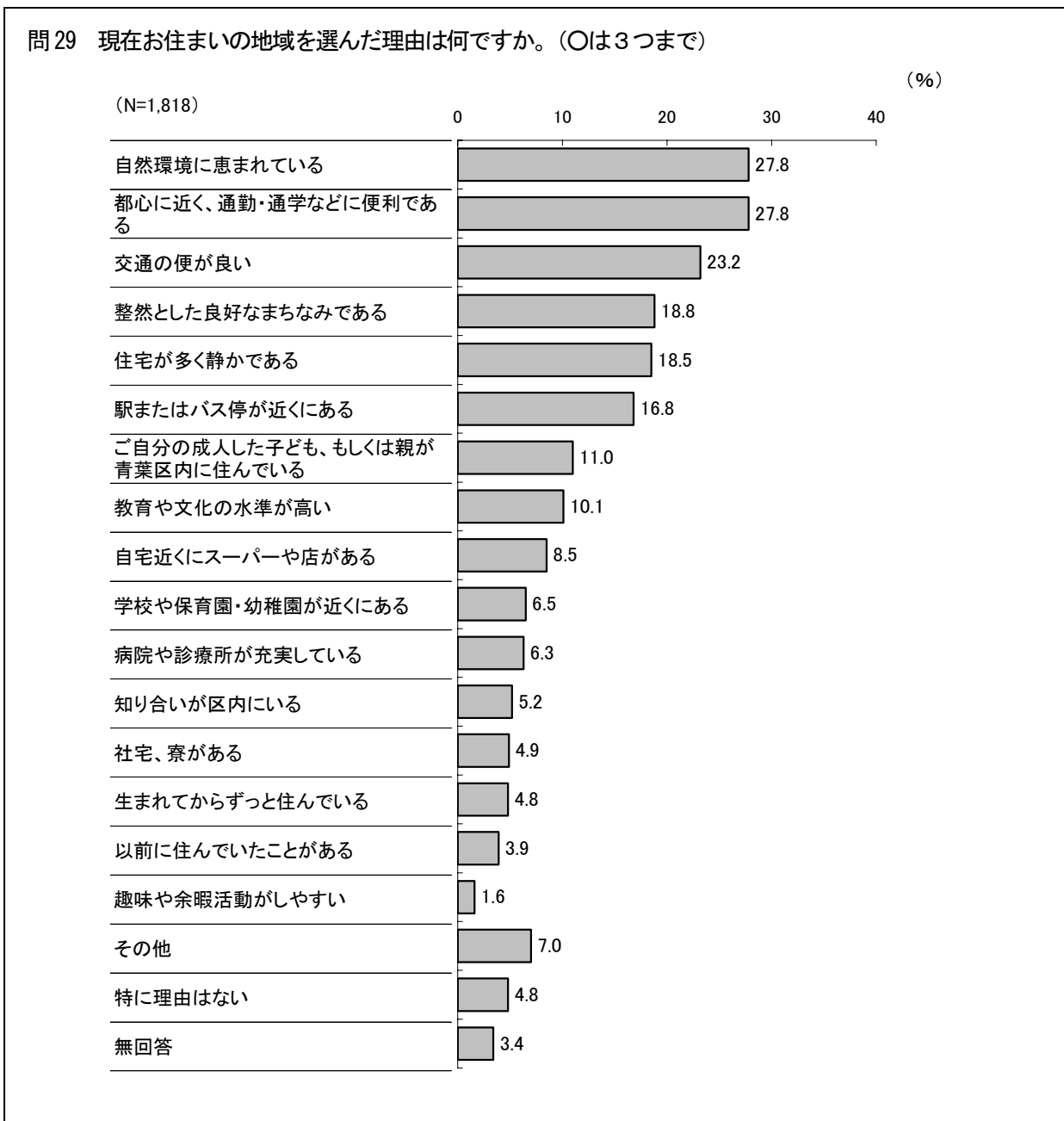
※クロス集計では、「川崎市に住みたい」、「横浜市、川崎市以外の神奈川県内に住みたい」、「町田市に住みたい」、「東京 23 区に住みたい」、「その他の地域に住みたい」を『横浜市外に住みたい』としてまとめている。

<【参考】平成 20 年度調査結果との比較>

平成 20 年度調査と比較すると、青葉区に住み続けたいという人の割合が、今回の方が若干低くなっている。



2) 現在の居住地域を選んだ理由

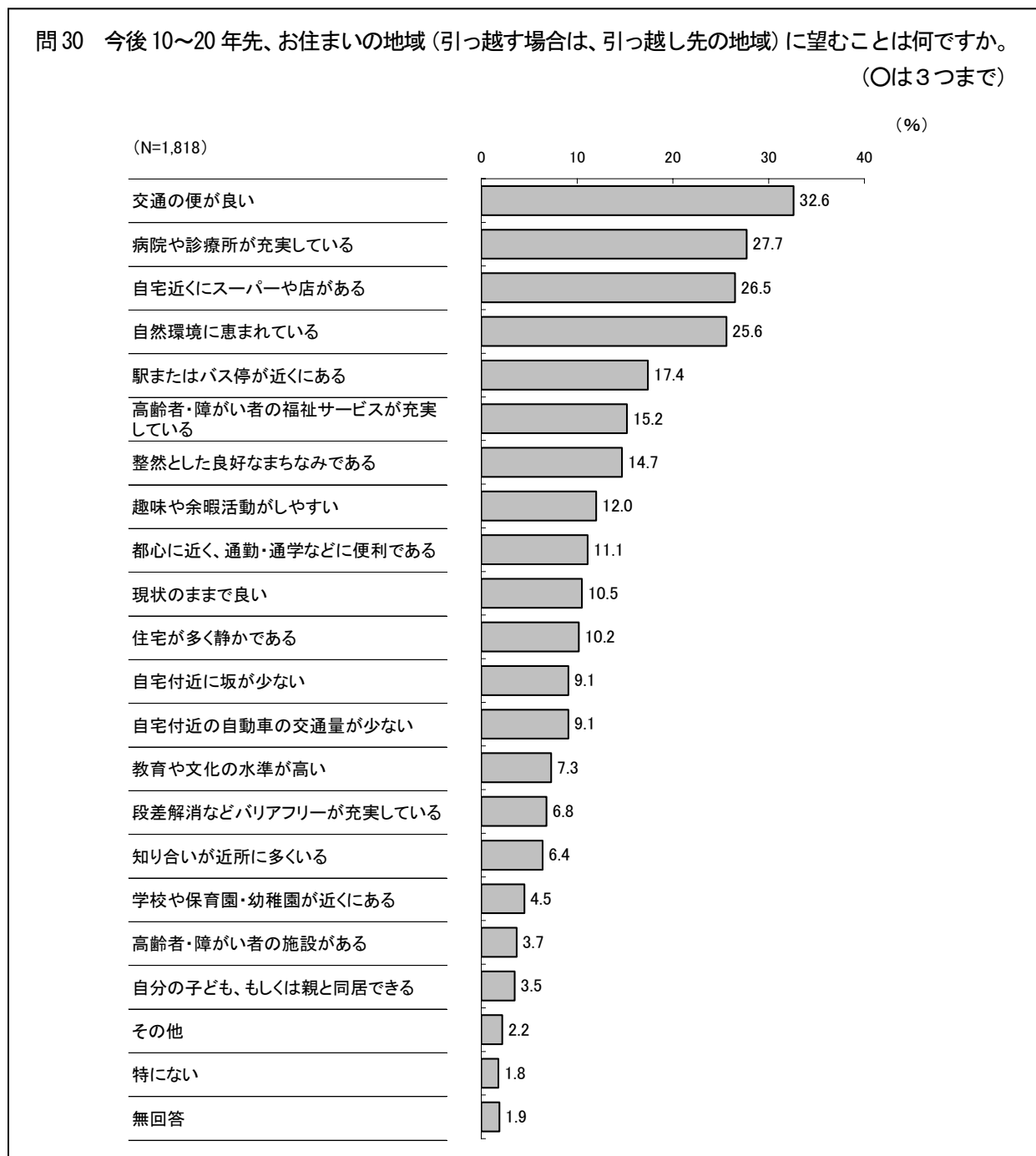


POINT

「自然環境に恵まれている」と「都心に近く、通勤・通学などに便利である」がそれぞれ2割台後半で高い割合を示している。

現在の居住地域を選んだ理由は、「自然環境に恵まれている」(27.8%)と「都心に近く、通勤・通学などに便利である」(27.8%)が並んで高い項目となっている。次いで、「交通の便が良い」(23.2%)、「整然とした良好なまちなみである」(18.8%)、「住宅が多く静かである」(18.5%)、「駅またはバス停が近くにある」(16.8%)の順となっている。

3) 10～20年後に居住地域に望むこと



POINT

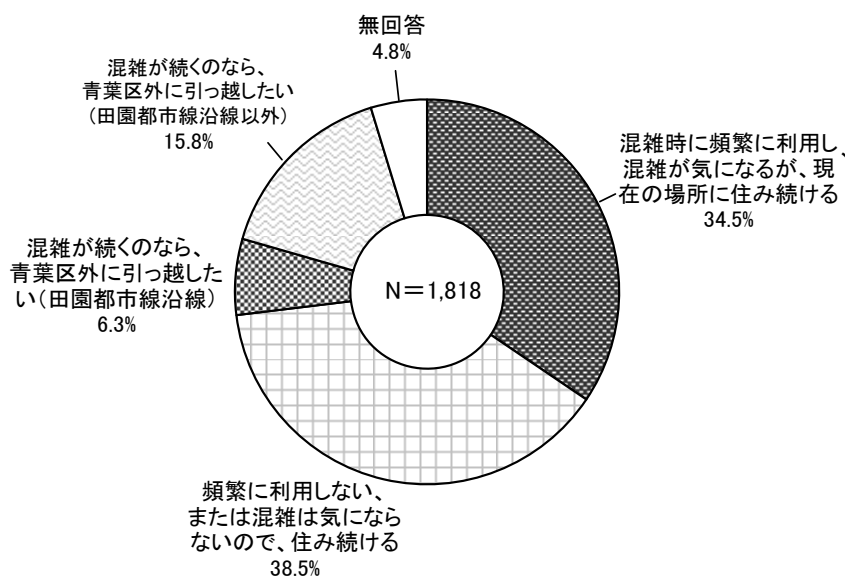
「交通の便が良い」が約3割で最も高く、「病院や診療所が充実している」、「自宅近くにスーパーや店がある」、「自然環境に恵まれている」がそれぞれ2割台半ばで続いている。

今後10～20年先、居住地域に望むことは「交通の便が良い」が32.6%で最も高く、次いで「病院や診療所が充実している」(27.7%)、「自宅近くにスーパーや店がある」(26.5%)、「自然環境に恵まれている」(25.6%)の順となっている。

4) 田園都市線の混雑状況と居住意向

問 31 田園都市線の混雑状況が今後も同様であるとした場合、あなたは青葉区に住み続けますか。

(○は1つだけ)



POINT

約7割が『田園都市線の混雑が解消されなくても住み続けたい』と回答している。
一方、「混雑が続くのなら、青葉区外に引っ越したい(田園都市線沿線以外)」は1割台半ばとなっている。

田園都市線の混雑状況と居住意向の関係については、「頻繁に利用しない、または混雑は気にならないので、住み続ける」が38.5%で最も高く、「混雑時に頻繁に利用し混雑が気になるが、現在の場所に住み続ける」(34.5%)と合わせてみると、混雑に関係なく住み続けたいと回答している人は約7割を占めている。

<年齢別・性別・利用駅別・定住意向別>

年齢別にみると、「頻繁に利用しない、または混雑は気にならないので、住み続ける」は、年齢が高くなるにつれ、割合が高くなっている。また、「混雑が続くのなら、青葉区外に引っ越したい(田園都市線以外)」は、20～29歳から40～49歳では、2割を超えている。

性別にみると、「混雑時に頻繁に利用し混雑が気になるが、現在の場所に住み続ける」は、男性の方が女性よりも割合が高くなっているのに対し、「頻繁に利用しない、または混雑は気にならないので、住み続ける」は、女性の方が高くなっている。

利用駅別にみると、こどもの国駅では、「混雑時に頻繁に利用し混雑が気になるが、現在の場所に住み続ける」と「頻繁に利用しない、または混雑は気にならないので、住み続ける」を合わせた、混雑に関係なく住み続けたいと回答している人の割合が約8割と、他の駅よりも高くなっている。一方、「混雑が続くのなら、青葉区外に引っ越したい(田園都市線以外)」が最も高かったのは、たまプラーザ駅で約3割となっている。

定住意向別にみると、青葉区内に住み続けたいと考えている人の7割以上が、混雑に関係なく住み続けたいと回答している。一方、町田市以外の青葉区外に住みたいと考えている人では、「混雑が続くのなら、青葉区外に引っ越したい(田園都市線以外)」が4割以上となっている。

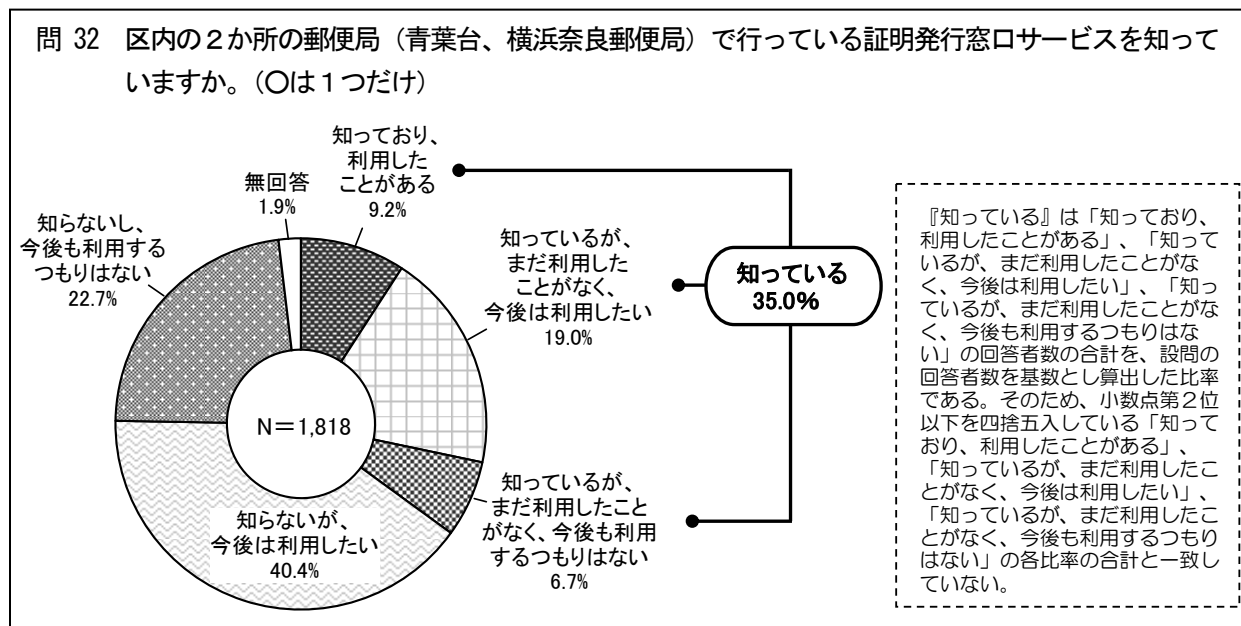
(N) 0 20 40 60 80 100 (%)



- 混雑時に頻繁に利用し、混雑が気になるが、住み続ける
- ▨ 頻繁には利用しない、または混雑は気にならないので、住み続ける
- ▩ 混雑が続くのであれば、区外に引っ越したい(田園都市線沿線)
- ▧ 混雑が続くのであれば区外に引っ越したい(田園都市線沿線以外)
- 無回答

9 区政・行政サービスについて

1) 郵便局での証明発行サービスの認知度・利用意向



POINT

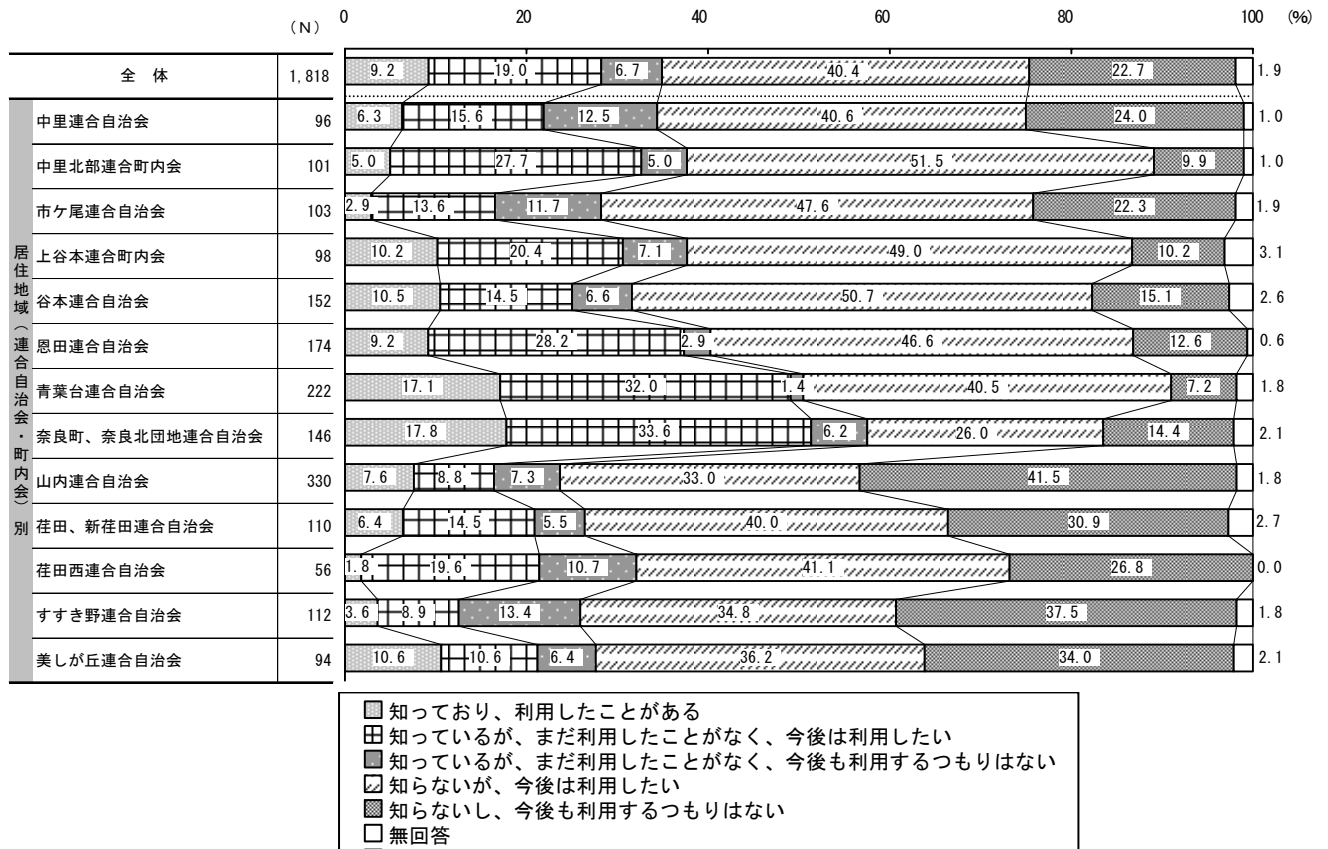
認知度は『知っている』が3割台半ばで、昨年度よりも若干認知度が高くなっている。
「知らないが、今後は利用したい」が約4割を占める。

証明発行窓口サービスの認知度は、「知っている、利用したことがある」(9.2%)、「知っているが、まだ利用したことがなく、今後は利用したい」(19.0%)、「知っているが、まだ利用したことがなく、今後も利用するつもりはない」(6.7%)の3項目を合わせた『知っている』は35.0%となっている。

一方、「知らないが、今後は利用したい」が40.4%で最も高く、「知らないし、今後も利用するつもりはない」(22.7%)と合わせると、約6割が知らないと回答している。

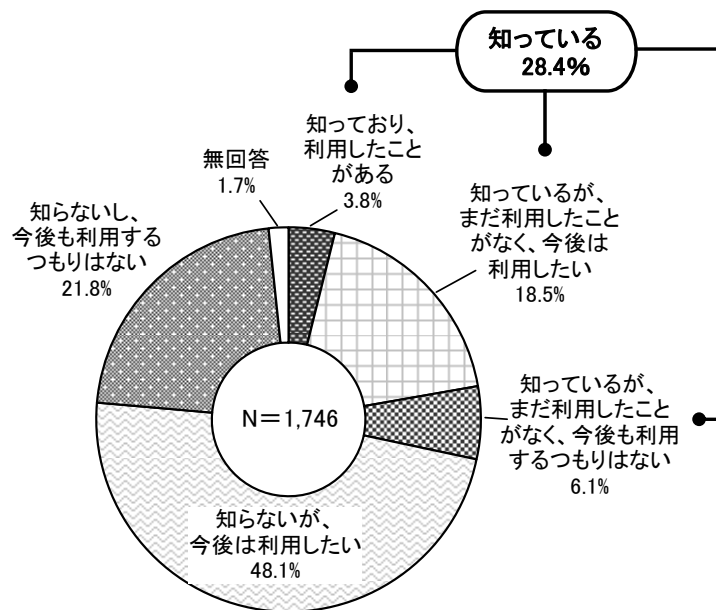
<居住地域別>

居住地域別にみると、奈良町、奈良北団地連合自治会と青葉台連合自治会では、『知っている』は過半数を占めている。一方、山内連合自治会では、『知っている』が2割台前半と、他の地域よりも低くなっている。



<【参考】平成20年度調査結果との比較>

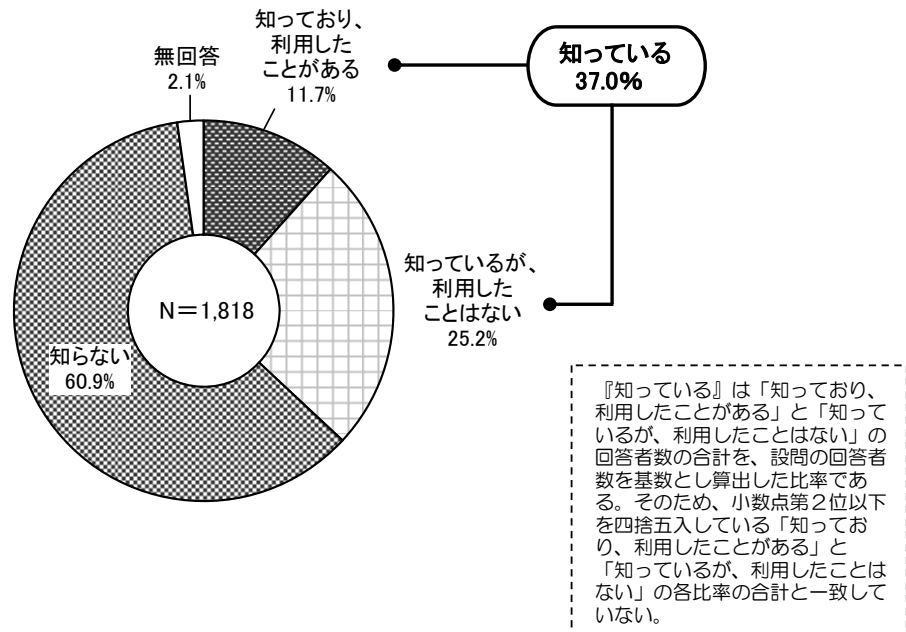
平成20年度調査では、『知っている』が28.4%と、今回の調査の方が約6ポイント高くなっている。



2) 図書サービスの認知度・利用意向

問 33 平成 19 年より、青葉区内の全地区センター（山内図書館に隣接する山内地区センターを除く）と田奈ステーション（青葉区区民活動支援センター）において、横浜市立図書館の予約本の貸出・返却サービスを実施していますが、この図書サービスを知っていますか。

（〇は1つだけ）



POINT

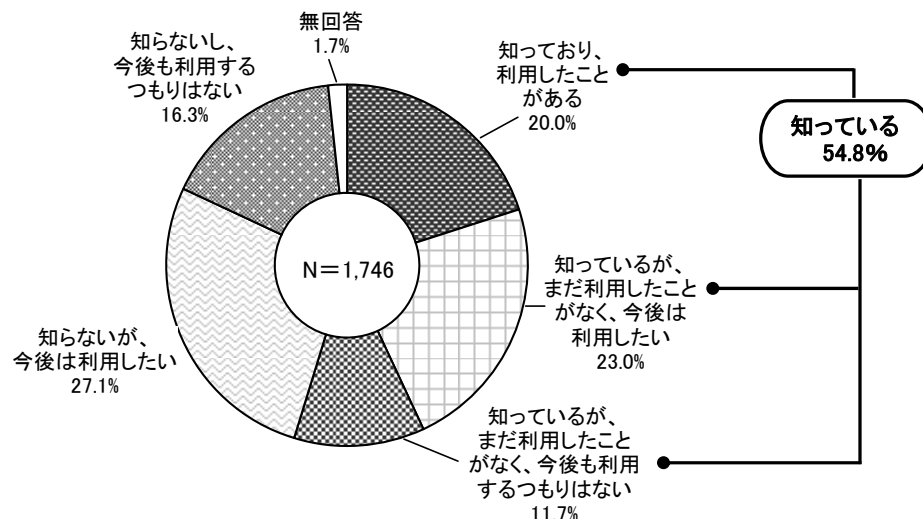
認知度は『知っている』が3割台半ばに対し、「知らない」が過半数を占める。

全地区センターで行っている横浜市立図書館の予約本の貸出・返却サービスの認知度は、「知っている、利用したことがある」（11.7%）と「知っているが、利用したことはない」（25.0%）を合わせた『知っている』は37.0%となっている。

一方、「知らない」が60.9%と最も高く、過半数がサービスを知らない結果となった。

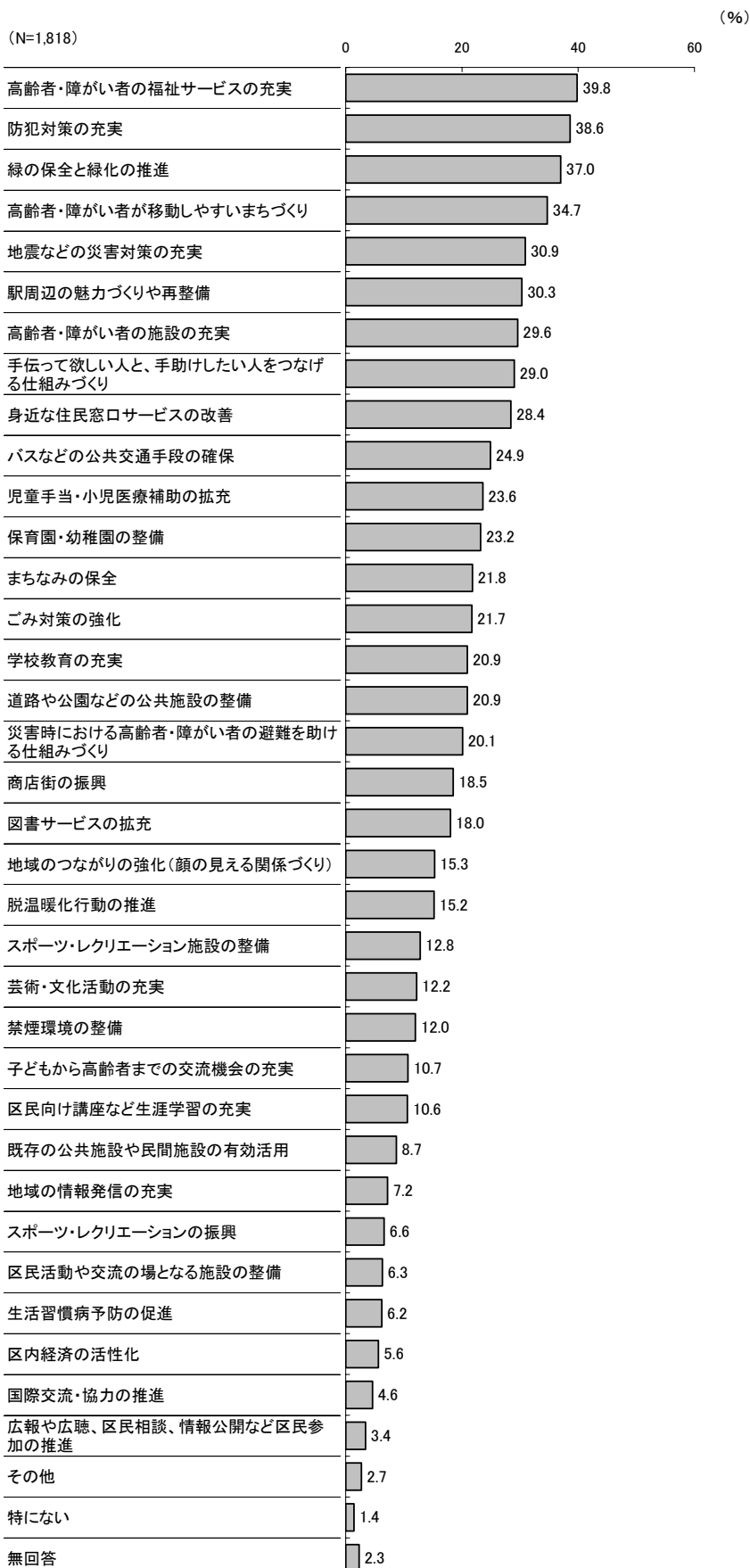
<【参考】平成 20 年度調査結果との比較>

平成 20 年度調査の項目とは異なるため参考程度となるが、『知っている』は今回の調査では 20 ポイント近く低くなっている。



3) 10～20年先を見据えて区が重点的に進めるべきこと

問 34 今後10～20年先を見据えた場合、青葉区で重点的に進めるべきことは何だと思えますか。
(〇はいくつでも)



POINT

「高齢者・障がい者の福祉サービスの充実」、「防犯対策の充実」、「緑の保全と緑化の推進」、「高齢者・障がい者が移動しやすいまちづくり」までの上位4項目を3人に1人以上が選択している。

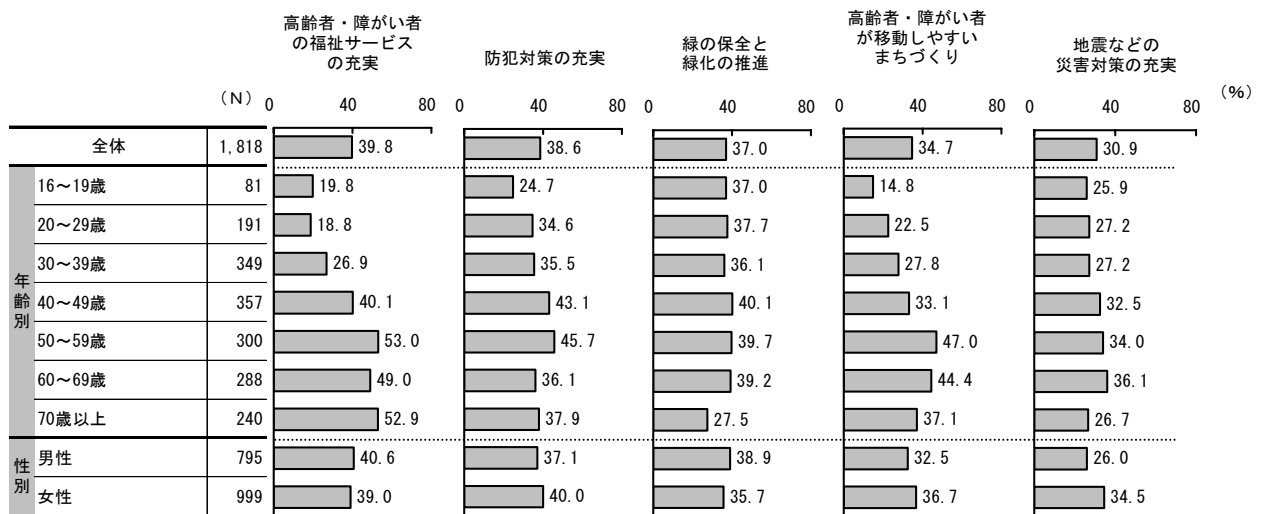
今後10～20年先を見据えた場合、重点的に進めるべきことは「高齢者・障がい者の福祉サービスの充実」が39.8%で最も高い。次いで、「防犯対策の充実」(38.6%)、「緑の保全と緑化の推進」(37.0%)、「高齢者・障がい者が移動しやすいまちづくり」(34.7%)の順となっており、上位4項目は3人に1人が重点的に進めるべきことと回答している。

<年齢別・性別>

年齢別にみると、「緑の保全と緑化の推進」は、多くの年齢層で4割近い割合となっている。また、「高齢者・障がい者の福祉サービスの充実」と「高齢者・障がい者が移動しやすいまちづくり」は、50～59歳から70歳以上で割合が高くなっている。

性別にみると、「地震などの災害対策の充実」は、男性に比べ、女性の方が8.5ポイント高くなっている。

<年齢別・性別：全体の上位5項目>



平成 21 年度 青葉区区民意識調査 調査結果 報告書 概要版

発行日 平成 21 年 9 月 第 2 版

発 行 青葉区 総務部 区政推進課 企画調整係
〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町 31 番地 4

TEL 0 4 5 (9 7 8) 2 2 1 7

FAX 0 4 5 (9 7 8) 2 4 1 0